

1979年版

M.F.J国内競技規則

総 則

付則1. **ロードレース**

'79全日本選手権大会特別規則

付則2. **モトクロス**

'79全日本選手権大会特別規則

付則3. **トライアル**

'79全日本選手権大会特別規則

付録・'79特別規則



日本モーターサイクル協会





確実な火花… NGK

これが高性能なプラグの第一条件です



SUZUKI



鮮烈。

パワー・リード・バルブのツイン・エンジンと星形キヤストで、走りの鮮やかさが一段と高くなりました。

RG250E

●空冷・2ストローター・2気筒・パワーリードバルブ方式 ●総排気量247cc ●最高出力30ps/8,000rpm ●最大トルク2.9kg・m/7,000rpm ●6段リターン変速 ●車軸重量126kg(乾重) ●前輪油圧式ディスクブレーキ ●ボディ・カラー/イン・グレット・ホワイト/マープル・カナリア/アン・ブルー/キャンディ・イン・ペリアルマール ●標準現金価格 ¥295,000

CASTWHEEL by SUZUKI



●カテゴリーをご希望の方は、カテゴリー
番号と円率150円分を410円より5人、平均432
番町田県松山外品地300番本自動車工
業振興業務部企画課RG部へお送りくださ
い。

スズキのクレジットで乗りかたが広い
AUXが使える
SUZUKI
SUZUKI
SUZUKI

赤い弾丸。

「勝利」、ただその2文字のためだけに、技術・経験のすべてを傾注してつくりあげた。エンジンが、サスが、タイヤが…全身にみなぎる戦闘力。独自の、革新のメカニズムが随所に発見できる。CRは、走る前から勝利の予感がする。



NEW **ELSINORE** CR125R

CR125R SPECIFICATIONS ●全長2.135×全幅0.890
×全高1.210(m) ●乾燥重量91kg ●フレーム形式：シングル
クレードル ●タイヤサイズ (前)3.00-23-4PR (後)4.00-18-
4PR ●燃料タンク容量6.5ℓ ●エンジン型式：空冷2サイ
クル単気筒 ●内径56.0×行程50.7(mm) ●排気量124cc ●圧
縮比8.4 ●最高出力25PS/10,000rpm ●最大トルク1.9kg·m
/8,500rpm ●クラッチ形式：湿式多板 ●6段リターン実速



NEW TYPE **ELSINORE** CR250R

CR250R SPECIFICATIONS ●全長2.145×全幅0.890
×全高1.190(m) ●乾燥重量98kg ●フレーム形式：シングル
クレードル ●タイヤサイズ (前)3.00-21-4PR (後)5.00-18-
4PR ●燃料タンク容量8.5ℓ ●エンジン型式：空冷2サイ
クル単気筒 ●内径70.0×行程64.4(mm) ●排気量247cc ●圧
縮比7.3 ●最高出力37PS/7,500rpm ●最大トルク3.85kg·m
/6,500rpm ●クラッチ形式：湿式多板 ●5段リターン実速
※CR125Rと同パターン(バリグリップ)のタイヤを新装備。

HONDA®

MAGURA ハイスロットル発売!!

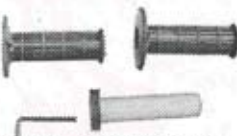


マグラハイスロットル (西ドイツ製)
 セニア選手使用の西ドイツ製軽量マグネシウム材マグラハイスロットル。モ
 トクロス界で最も愛用されている世界最高級品。
 ①モトクロス用 ②トライアル、ミニバイク、エンデュロ用 ¥6,000

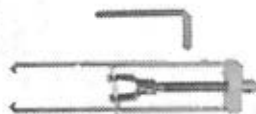
マグラレバー
 アルミ鍛造加工品で絶対におれないレバーです。
 ホンダディスク用
 ¥3,200



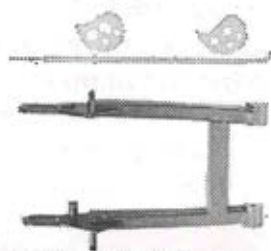
MK-067F ワンタッチベルト・フック
 マシンの運搬にフックを使用すればワ
 ンタッチでOK。ワンタッチベルト
 (MK067A・MK067B)と併用してご使用
 ください。 ¥1,000(SET)



MK-9LG レフトグリップホルダー
 ハンドルやレバーホルダー交換時に
 左側のグリップラバーを簡単に抜く
 ことができ便利です。右側グリップ付。
 ¥5,000



MK-051ST
 スプリングコンプレッサー
 リヤショック・スプリングの交換
 が簡単にできる特殊工具です。
 ¥5,000



RF-001 ロングスイングアーム
 モンキー/ゴリラ (60%ロング)
 ワンタッチチェーンアジャスト採用。
 ピボットにはベアリング使用。
 ¥11,000

1979年はUSAメッシュシャツで勝利をめざせ……………。



①カワサキメッシュ
 色-ライムグリーン
 サイズ-M・L
 ¥5,000



②スズキメッシュ
 色-イエロー
 サイズ-M・L
 ¥5,000



③ホンダメッシュ
 色-レッド&ブルー
 サイズ-M・L
 ¥5,000



④ヤマハメッシュ
 色-イエロー
 サイズ-M・L
 ¥5,000



MK-54
 CZハンドル (クロモリ)
 ¥3,000
 MK-54A
 鉄製 ¥2,000



トライアル用ハンドル(軽量ジュラルミン)
 MK-070A
 6' ¥5,000 MK-070B 5 3/4' ¥5,000



ワンタッチベルト
 MK-067A 50%巾
 1 SET ¥3,500
 MK-067B 25%巾
 1 SET ¥2,500 SET



トライアルブーツ MK-08 色-黒
 サイズ 25.5/26/27 ¥10,000

●通信販売ご利用の方へお願い

ご注文は 住所・氏名・年令・商品名・色・サイズ・枚数・電話番号・郵便番号・鉄道
 駅名を明記の上、現金書留にてどうぞ。お買い上げ額¥7,000以上は送料サービス、¥7,000
 以下は¥400の送料を加算してご送金ください。尚、ハンドルは送料500円をお願いします。

世界のブランド **Kijima** の総発売元
木島ショールーム



〒114 東京都北区田端新町1丁目24番地 北進ビル TEL03-893-7521

●製造元 木島ゴム工業株式会社 〒114 東京都荒川区西日暮里1丁目57番7号 TEL03-807-0156

駆け抜ける! 風のように

直線は一気に。コーナーは風の如く。そのパフォーマンスの良さがキメ手のヨコハマ二輪用レーシングタイヤ。マシンというよ、タイヤとの一体感がいい。いま、熱い視線につつまれて、評価ぐんぐん上昇中!

Y-920 / 前輪用

サイズ=2.50-18 / 3.00-18

Y-921 / 後輪用

サイズ=2.50-18 / 3.00-18
3.25-18 / 3.50-18



※このタイヤは、サーキットレース専用のタイヤで、一般公道での使用はできません。

モトクロスの主役! <スーパーディガー>

欧米で、いま評判の高いMXタイヤ スーパーディガー



SUPER DIGGER900

SUPER DIGGER900

SUPER DIGGER901

SUPER DIGGER900

2.75-21 4PR	3.50-21 4PR
3.00-21 4PR	3.00-23 4PR
3.25-21 4PR	

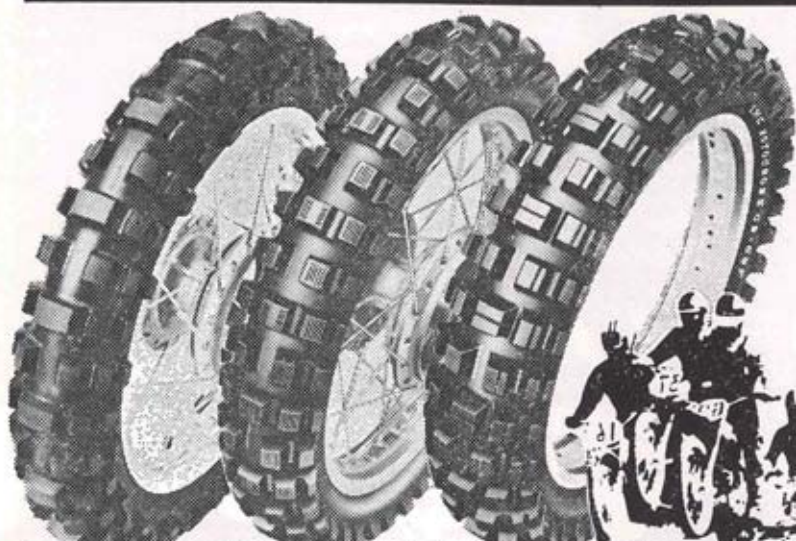
SUPER DIGGER901

4.10-18 4PR	4.60-18 4PR
-------------	-------------

YOKOHAMA
横浜ゴム株式会社

井上タイヤ モトクロス

グリッパー
GS-45F
GS-56F



ライディング性能をさらに確かなものにする
絶妙のコンビ!!

INOUE
モトクロス シリーズ



★グリッパー ★GS-45F ★GS-56F

サイズ	P.R.	基本サイズ	サイズ	P.R.	基本サイズ	サイズ	P.R.	基本サイズ
*3.60-14	4	3.00-14	*4.10-14	4	3.50-14	4.50-18	4	
*4.10-18	4	3.50-18	2.75-17	4		*5.10-18	4	4.50-18
*4.60-18	6	4.00-18	*4.10-18	4	3.50-18	3.00-21	4	
*3.60-21	4	3.00-21	3.00-21	4				

井上ゴム工業株式会社

●タイヤ事業部 名古屋市熱田区千年1丁目16番30号
 番456-91 電(052)652-6121

●東京支店 東京都品川区大崎2丁目9番12号
 番141 電(03)491-6041

*このタイヤは基本サイズのオーバーサイズタイヤとして使用できます。

飛ばさないチェーンオイル

PJチェーンオイルは、最も経年劣化するアメリカで研究・開発されたスプレー式の飛ばさないチェーンオイル。あらゆるレースの苛酷な条件の中で最多の実績をこしてしています。





NET 1000g

極限の世界に生きる。

PJ1 LUBRICANTS

特長

- ①PJチェーンオイルはスプレー式ですので操作が簡単。手も汚さずに簡単に使用できます。
- ②PJチェーンオイルは強力なラube、サラッとした粒子を非常に細かく、チェーンの最も大切な部分、ピン、チェーンリング、ブッシュ等細部にまで密着して潤滑します。
- ③PJチェーンオイルは高圧力に耐えしなると、モリブデン化合物のスタームオイルで強化された特殊な潤滑油をたっぷり、チェーンをいつまでも保護します。

NET 1000g
 DISTRIBUTED BY
井上ゴム工業株式会社
 〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
 PHONE (03)3101-1170 FAX (03)3101-1171

*お買い求めはお近くのサイクリング、オートバイ販売店でどうぞ。



あなたの身体を守る

サトウのブーツ

オーダー専門店

モトクロス

- モトクロスズボン ¥30,000均
- モトクロスグローブ ¥4,000均
- " オーダー ¥6,000均
- モトクロスブーツ ¥18,000均
- ストライプ ¥3,000均
- カラーデザイン ¥3,000均

※すべての製品オーダーうけたまわります。

●お申し込み方法

- 住所、氏名、MFJ登録番号を明記の上サイズ記入表をご請求下さい。尚、MFJ登録番号を明記の方は分割払いも可能です。
 - サイズ記入表が皆様方のお手元につきましたら希望コース、身体のサイズを記入し金額の1/2の金額を同封の上サイズ表を当社にお送り下さい。
 - サイズ表が着きしたい2週間で仕上げまして現品をお送り申し上げます。
 - この時現品は代金引替にてお送り致します。代引金額は金額の1/2です。
 - 現品がお手元に着きましたら30日以内で残金金額をお送り下さい。
- ※現金送金は必ず現金書留でお願い致します。

ロードレース

- 牛革ソフト最高級品 ¥55,000均
- 腹性小牛皮最高級品 ¥100,000均
- セパレーツ(上下分割可) ¥6,000高
- カラーデザイン ¥5,000均
- ストライプ ¥4,000均
- 膝カップ入り ¥5,000高
- 文字(ゴシック体) ¥400
- (筆記体) ¥600
- (カナ、漢字) ¥700
- 二重文字 ¥600~1,000均
- ゼッケンNo. ¥1,000均
- ロード用ブーツ一色 ¥15,000均
- " カラー ¥18,000均
- ロード用グローブ ¥5,500均
- " 小牛皮付 ¥6,500均

M.F.J指定店

佐藤製作所

東京都墨田区東向島1丁目13番2号
電話 03-611-0039

品質と性能を追求する

DUNLOP

ロードレース・モトクロス用タイヤ



極限に挑む、ダンロップタイヤ

マシンの能力を100%ひきだしトップライダー達の苛酷な要求をつねに満たすダンロップ・モーターサイクル用タイヤ。一戦ごとに蓄えた、膨大な技術ノウハウが、「信頼性」という測ることのできない良さとなって、見事に結実しています。



ロードレース用

モトクロス用

1979年版

M.F.J国内競技規則

総 則

ロードレース

'79全日本選手権大会特別規則

モトクロス

'79全日本選手権大会特別規則

トライアル

'79全日本選手権大会特別規則

付録：'79全日本選手権大会特別規則

昭和54年1月1日発行

日本モーターサイクル協会

〒104 東京都中央区銀座1-9-12大盛ビル Tel 03(561)8566

躍

進

!!

'79

M

F

J

国際連合

ユネスコ

U
M 国際モーター
ポート連盟FIM 国際モーター
サイクリスト連盟F
A 国際オート
モビル連盟MFJ・日本モーターサイクル協会
(他、世界60ヵ国加盟)

MFJ九州地方本部

MFJ四国地方本部

中国モーターサイクル協会

関西モーターサイクル協会

中部モーターサイクル協会

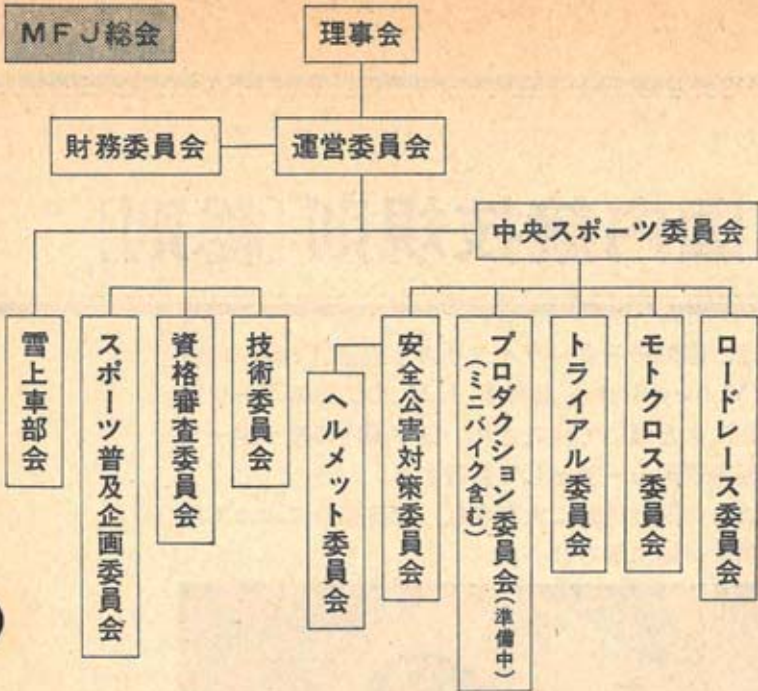
関東信越
モーターサイクル協会

MFJ東北スポーツ委員会

北海道
モーターサイクル協会

M. F. J. 全国スポーツ組織

北海道モーターサイクル協会		☎065 札幌市東区東雁来町52 札幌地区軽自動車協会内	011-781-7498
北海道中央スポーツ委員会	佐藤 秀幸	☎063 札幌市西区24軒1条7-3-13 北海道ヤマハ轄内	011-641-2711
札幌スポーツ委員会	"	"	"
函館スポーツ委員会	佐々木昭夫	☎040 函館市高盛町9-18 函館スズキ販売轄内	0138-53-0555
旭川スポーツ委員会	徳野 良博	☎070 旭川市4条西7 北海道ヤマハ轄旭川営業所内	0166-23-9151
帯広スポーツ委員会	中垣 武美	☎080 帯広市西5条北1-4 北海道ヤマハ轄帯広営業所内	0155-24-4495
釧路スポーツ委員会	三浦 勇	☎085 釧路市栄町6-2 北海道ヤマハ轄釧路営業所内	0154-23-3345
北見スポーツ委員会	奥山 富雄	☎090 北見市西富町112-1 北見スズキ轄	0157-24-1866
MFJ東北スポーツ委員会	斉藤三千雄	☎980 仙台市北極字前沢69 アイビーモーターズ内	0222-73-0475
MFJ東北トライアル委員会	大友 克人	☎982 仙台市長町3-3-9 ホンダ宮城販売轄内	0222-47-0123
MFJ青森県スポーツ委員会	高橋 道雄	☎030 青森市松原2-7-10 山本モーターズ内	0177-35-1781
MFJ青森県トライアル委員会	斉藤 弘	☎036 弘前市大町2-5-6 斉藤モーターズ内	0172-33-3201
MFJ岩手県スポーツ委員会	岩崎 博途	☎028-57 二戸市金田一駅前 岩崎モーターズ内	01952-7-30
MFJ岩手県トライアル委員会	田中 清也	☎020 盛岡市長田町4-14 田中ホンダ内	0196-22-7448
MFJ秋田県スポーツ委員会	鈴木 祐孝	☎010-01 南秋田郡天王町天王字上北野139-2	0188-73-3271
MFJ山形県スポーツ委員会	小松 久雄	☎990 山形市松波町3-2-9 オートハウスアイタ内	0236-32-7432
MFJ宮城県スポーツ委員会	猪又 謙一	☎982 仙台市通町2-17-17 佐々木輪業内	0222-34-4832
MFJ宮城県トライアル委員会	大友 克人	☎982 仙台市長町3-3-9 ホンダ宮城販売轄内	0222-47-0123
MFJ福島県スポーツ委員会	塚本 竜昌	☎963 郡山市堤下町10-8 塚本輪業商会	0249-22-1784
MFJ福島県トライアル委員会	池原 勝二	☎969 安達郡本宮町字馬場83 池原ホンダ内	02433-3-2455
関東信越モーターサイクル協会		☎108 港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内	03-472-6241
関東スポーツ委員会	高山 光一	☎108 港区港南3-3-10 関東信越モーターサイクル協会内	03-472-6241
関東モトクロス委員会	"	"	"
関東ロードレース委員会	大久保 力	"	"
関東トライアル委員会	上原 保男	"	"
関東スノーモビル委員会	大月 信和	"	"
関東ジムカーナ委員会	大長 始	"	"
東京都スポーツ委員会	高山 光一	"	"
東京トライアル委員会	馬場 忠雄	"	"



日本モーターサイクル協会
会長・石塚秀男

神奈川県スポーツ委員会	加藤 清丸	☎226 横浜市緑区池辺町中里前3575	神奈川県軽自動車協会内	045-931-4290
千葉県スポーツ委員会	八木 実	☎280 千葉市新港207	千葉県軽自動車協会内	9472-42-3321
埼玉県スポーツ委員会	神谷 忠	☎352 新座市北野1-2-6		0484-71-3596
茨城県スポーツ委員会	小室 文男	☎310 水戸市住吉町123		0292-47-5215
栃木県スポーツ委員会	松本栄太郎	☎320 宇都宮市西川田町東原1664-3	栃木県軽自動車協会内	0286-45-0958
群馬県スポーツ委員会	堤 照幸	☎379-21 前橋市野中町稲荷下518	群馬県軽自動車協会内	0272-61-0505
新潟県スポーツ委員会	丸山 良男	☎950 新潟市出来島259	新潟県軽自動車協会内	0252-47-6286
長野県スポーツ委員会	秋山 広	☎390 松本市出川町1643	秋山建設内	0263-25-1410
山梨県スポーツ委員会	北条 栄三	☎406 東八代郡石和町唐柏791-1	山梨県軽自動車協会内	05526-2-7548
中部モーターサイクル協会		☎422 静岡市国吉田32-7	静岡県軽自動車協会内	0542-61-4455
中部スポーツ委員会	伊藤 光夫	"	"	"
中部トライアル委員会	鈴木 唯一	☎470-01 愛知県愛知郡東郷町諾輪字東橋55-99		05613-8-0736
北陸スポーツ委員会	斉藤 正義	☎930 富山市藤木521-1	富山県軽自動車協会内	0764-24-6420
福井県スポーツ委員会	井上 善一	☎910-37 福井市浅水町138字上植木11-2	福井県軽自動車協会内	0776-38-0558
関西モーターサイクル協会		☎673 神戸市垂水区玉津町居住67-1	兵庫県軽自動車協会内	078-927-7701
関西スポーツ委員会	西海 義治	"	"	"
関西トライアル委員会	山本 陸	☎675 加古川市野口町良野261-3	山本レーシングサービス内	0794-23-2335
中国モーターサイクル協会		☎733 広島市観音新町2-4-25	広島県軽自動車協会内	0822-31-9271
西日本スポーツ委員会	大野 弘雄	☎730 広島市松川町3-19		0822-61-8386
山陰スポーツ委員会	立脇 才三	☎683 米子市天神町2丁目49	立脇モータース内	0859-22-4583
山口県スポーツ委員会	山本 巧	☎740 岩国市東町2-16-52	岩国カワサキ自動車販売内	0827-21-1654
岡山県スポーツ委員会	福岡 康男	☎710 倉敷市沖字中田8-1	東中国スズキ自動車社内	0864-24-1211
MFJ四国地方本部		☎760 高松市三条町113	韓スズキオート香川内	0878-66-8411
MFJ四国スポーツ委員会	藤沢 優	☎760 高松市西宝町3丁目11	MCサービス岡村内	0878-34-1634
MFJ四国トライアル委員会	大山 拓	☎779-02 徳島市西新町4-3	富浪商店内	0868-22-5545
MFJ高知県トライアル委員会	矢野 秀高	☎780 高知市一宮3054	城北塗装内	0888-45-2867
MFJ高知県スポーツ委員会	門田 洋一	☎780 高知市棧橋通3-25-27	高知スズキ販売社内	0888-31-4161
MFJ香川県スポーツ委員会	岡 義明	☎733 丸亀市西本町326		08772-2-2921
MFJ九州地方本部		☎812 福岡市東区箱崎ふ頭2-5-16	福岡県軽自動車会館内	092-641-0431
MFJ九州スポーツ委員会	鴨川 清志	☎810 福岡市中央区港2-5-32	サンポートハイツ101	092-771-5508
MFJ九州モトクロス委員会	池田 享正	☎812 福岡市東区箱崎ふ頭2-5-16	福岡県軽自動車会館内	092-641-0431
MFJ九州トライアル委員会	内野 徳助	"	"	"

1979年度

M. F. J. 国内競技規則〔総則〕

本国内競技規則は、国際モーターサイクリスト連盟(Fédération Internationale Motocycliste—略称 F. I. M. の国際スポーツ憲章、F I M競技規則にもとづいて作成され、日本国内のモーターサイクルスポーツの国内規則の一部として発行する。

本国内競技規則は、総則と付則に大別され、競技種目によって内容に差異のある事項は付則に示される。



総 則 目 次

[1] MFJ国内競技規則について.....	5	[13] 車輛検査.....	8
[2] 公示、特別規則および公式通知.....	5	[14] ライダーおよび車輛の変更.....	8
[3] ライセンス.....	5	[15] 走行中の遵守事項.....	9
[4] 参加者およびライダー.....	6	[16] レース.....	9
[5] 出場申し込み.....	6	[17] 優勝者、入賞者および完走者.....	9
[6] 出場料および保険料.....	7	[18] 入賞車の検査.....	9
[7] 配布物品.....	7	[19] レース結果および記録の公表.....	10
[8] 賞およびポイント.....	7	[20] レースの延期、中止および打ち切り.....	10
[9] 出場車輛.....	7	[21] 抗議.....	10
[10] 公道での走行禁止.....	8	[22] 損害の補償.....	11
[11] 器具および装備品.....	8	[23] 競技規則の違反行為に対する罰則.....	11
[12] 燃料およびオイル.....	8		

MFJ国内競技規則

総 則

〔1〕 M. F. J. 国内競技規則について

M. F. J. 国内競技規則は、日本国内のモーターサイクリススポーツのための規則であり、国際モーターサイクリスト連盟 (Fédération Internationale Motocycliste—略称 F. I. M.) の国際スポーツ憲章、F. I. M. 競技規則にもとづいたものである。

日本モーターサイクル協会(略称M. F. J.)はF. I. M. の日本における代表機関として、モーターサイクリススポーツの国内管理、一般的モータリゼーションの振興等の目的のために本国内競技規則を制定、施行する。

I. 適用の範囲

本国内競技規則は、日本国内の全てのモーターサイクリススポーツ国内競技会に適用され、各種目の共通事項は、総則に、競技種目によって、内容に差異のある事項は、それぞれの付則に記載する。

II. 競技規則の解釈

競技会開催期間中の判定および競技規則全般の解釈は、本国内競技規則にもとづいて、競技会審査委員会(以下大会審査委員会という)だけが行い、大会審査委員会の判定および解釈を最終的なものとする。

〔2〕 公示、特別規則および公式通知

- (1) 競技会はこの国内競技規則にもとづいておこなわれ、競技会の運営上、競技の細部の規則並びに指示は公示、特別規則、および公式通知によって示される。
- (2) 公示、特別規則および公式通知は、競技会主催者(以下主催者という)が発行する。
- (3) 特別規則には次の各項が示される。
 - 1) 競技会の名称
 - 2) 主催者の名称、所在地および連絡先
 - 3) 開催日時
 - 4) 開催場所(コース)
 - 5) 競技の内容と参加者、ライダーの資格
 - 6) 出場申し込み受付場所
 - 7) 出場申し込み期間
 - 8) 出場料と保険料金
 - 9) クラス区分
 - 10) 出走者の定員
 - 11) 賞およびその詳細
 - 12) 運営組織
 - 13) その他、国内競技規則に定められた事項
- (4) 競技会運営の細部に亘る規則、指示等について公示または特別規則に記載し得なかつた事項は、公式通知によって示される。

〔3〕 ライセンス

ライセンスとは国際モーターサイクリスト連盟の国際スポーツ憲章、F I M 競技規則に準拠して、MFJ が会員に対して発行する競技者認定書であり、国内のモーターサイクル競技会に参加するに必要な証書である。

I. ライセンス区分

ライセンスには下記のライセンス資格区分がある。

種目 ライセンス 名 称	ロードレース	モトクロス	トライアル	ライセンスカラー	適 用
国際 A 級	○	○	○	赤	スポーツ専用車を含む競技を対象として種目別に発行する競技者認定証
国際 B 級	—	○	—		
ジュニア	○	○	○	緑	
ノービス	○	○	○		
B	対象種目=プロダクション・ミニモトクロス・ミニエンデューロ・スノースクランブル			青	一般市販車を含む競技を対象として発行する競技者認定証

総則

II. ライセンス新規取得者の資格

新たにライセンス取得申請をおこなう者は下記の条件を満たしていなければならない。

- (1) 日本にスポーツ国籍を有する者であること。
- (2) 運転免許証所持者であること。
- (3) 職業選手でないこと。また過去に職業選手として登録されたことのある者は、登録取消し1年以上経過した者でなければならない。
- (4) ロードレースノービスライセンス取得申請の場合は、サーキットの3時間走行証明またはMFJ公認ロードレーシングスクール修了証を必要とする。
- (5) ロードレースBライセンス取得申請の場合は、サーキットのライセンス講習会受講証明を必要とする。

注 1) 日本国内に3ヵ月以上継続的に居住した外国人がその期間を証明できる書類を提出すれば、スポーツ国籍は日本にあるものとみなされる。ただし、当人が所属するF.M.N.R.の書面による承諾を必要とする。

注 2) 職業選手とは、日本小型自動車振興会所管のレースのために登録しまたは登録された者、および、スタントカー、サーカス等に所属している者をいう。

III. ライセンスの停止

下記の場合ライセンスは停止される。

- (1) 日本にスポーツ国籍がなくなった場合。
- (2) 運転免許証取消処分または停止処分を受けた場合。
(停止の場合はその期間満了の日まで)
- (3) 職業選手として登録された場合。
- (4) MFJの認めない競技会に出場した場合。
- (5) MFJ資格審査委員会の裁定により停止処分を受けた場合。(資格審査委員会の定める期間)

IV. ライセンス資格の昇格および降格

①自動昇格者の決定

ライセンス資格自動昇格者は、MFJ資格審査委員会の定める基準にもとづいて決定される。

②特別昇格および降格

特別昇格および降格の申請に対しては地方協会またはスポーツ委員会、MFJ資格審査委員会が審査決定する。

[4] 参加者およびライダー

I. 参加者 (エントラント)

- (1) M.F.J.に所属していて、「参加の申請」をおこなった個人およびクラブ。
- (2) コマーシャル・ライセンスを所有している車輛メーカー、その部品およびその関連産業メーカーおよびディラーで、「参加者の申請」をおこなったもの。

II. ライダー

ライダーとはM.F.J.会員で、当該競技会に「出場申し込み」をおこなったもの。

III. ライダーの資格

- (1) 当該競技会出場申込のときに、日本にスポーツ国籍を有する者で、運転免許証、MFJの競技者ライセンスとを所有する者に限る。ただし、満20歳未満のものは親権者の承諾書を必要とする。
- (2) 主催者は競技会当日、運転免許証とMFJ競技者ライセンスと健康保険証の提示を求め、当日の資格を判定する。
- (3) ライダーは過去6ヵ月以降重大な刑法上又は道路交通法違反によって処罰された者であってはならない。
- (4) ライダーは、医師によってレース出場可能な健康体であると診断された場合、レース出場資格者、もしくはレース継続資格者としてみとめられる。
主催者は、どのライダーに対しても、指定した医師による健康診断を要求することができる。又この診断をもって最終とする。
- (5) 開催期間中、転倒等により負傷したライダーは指定医師の承認を得なければ再び出走することはできない。

IV. メカニック

メカニックとは、M.F.J.会員で、当該競技会に「参加の申請」をおこなったもの。

V. ヘルパー

ヘルパーとはライダーまたはメカニックの援助を行う目的で、当該競技会に「参加の申請」をおこなったもの。

VI. 参加者、ライダー、メカニックの遵守事項

参加者等は次の事項を守らなければならない。

- (1) 競技会中は、MFJ国内競技規則に則って行動し、参加者は全ての行動に対して責任を持たなければならない。
- (2) 国内競技規則、および競技管理上のあらゆる規定や競技役員の指示に従い、かつレース場以外では交通法規を守るものとする。
- (3) 常にスポーツマンとしての態度を持ち、公正に行動し言語は慎むこととする。
- (4) 競技に関する業務については飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろうことを禁ずる。
- (5) 競技会中は参加の身分証を必ず携帯する。(運転免許証・ライセンス等)

[5] 出場申し込み

I. 申し込み方法

- (1) 申し込み期間、申し込み場所、その他の詳細については当該特別規則に示される。
- (2) 主催者より支給された用紙の記載事項の全部に、指示どおり記入し、この競技規則を厳守することを誓約しなければならない。



(3) 主催者は、参加者、ライダーのいずれに対しても、その理由を明らかにすることなく申し込みを拒否、または無効とする権限を有する。

II. 定員

(1) レース出走者数または出場申込者数の定員は特別規則に示される。

(2) 各クラスとも出場申込者数が10名に満たない場合は、そのクラスのレース開催を中止することがある。

III. 出場車輛の登録

出場申し込み者は、「出場申し込み書」により競技会に使用する出場車輛（以下車輛という）を主催者に登録しなければならない。

〔6〕 出場料および保険料

I. 出場料

参加者またはライダーは、出場申し込みのときに出場料を払込まなければならない。

II. 保険料

各ライダーは出場申し込みのときにMFJ指定保険料の実費を主催者に払込まなければならない。

III. 保険の内容の詳細は特別規則に示される。

IV. 以上の各金額は特別規則に示される。

いったん主催者に受理された料金は一切払戻しされない

〔7〕 配布物品

参加費および配布物品は主催者（大会事務局）から交付される。時期および詳細は特別規則に示される。

〔8〕 賞およびポイント

I. 賞およびその詳細は特別規則に示される。

II. 競技会シリーズのポイントは次の通りである。

1位 15点, 2位 12点, 3位 10点, 4位 8点,
5位 6点, 6位 5点, 7位 4点, 8位 3点,
9位 2点, 10位 1点。

III. 出走台数が20台に満たない場合、次の通り賞およびポイントを制限する。但し賞は原則として6位迄とする。

出走台数	ポイント	出走台数	ポイント
18~19台	9位迄	10~11台	5位迄
16~17台	8位迄	8~9台	4位迄
14~15台	7位迄	6~7台	3位迄
12~13台	6位迄	5台	2位迄

(注) 出走台数とは、そのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数をいう。但し、予選がある場合は、その総出場台数をいう。

〔9〕 出場車輛

I. クラスの区分

車輛は排気量によって原則として次のようにわけられ、付則に示される。

(1) ロードレース

クラス	最小総排気量	最大総排気量
50cc	—	50cc
90cc	51cc	~ 90cc
125cc	91cc	~ 125cc
250cc	126cc	~ 250cc
350cc	251cc	~ 350cc
500cc	351cc	~ 500cc
750cc	501cc	~ 750cc

(2) モトクロス

クラス	最小総排気量	最大総排気量
50cc	—	50cc
90cc	51cc	~ 90cc
125cc	91cc	~ 125cc
250cc	126cc	~ 250cc
500cc	251cc	~ 500cc

(3) トライアル オープン

総則

II. 総排気量の算出基準

総排気量は直径および行程をミリにて、小数点以下1位までを4捨5入により測定し、次の計算式によって算出し小数点以下を切り捨てて表示する。この際直径はクランク軸方向とその直角方向を測定し平均する。

総排気量(cc) = $0.7854 \times \text{直径}^2 \times \text{行程} \times 10^{-3} \times \text{気筒数}$

III. 仕様

車輛は付則に示す「改造の限度」と「仕様」を満し、且つ特別規則の条件を満足し、安全上安全に整備されているものでなければならない。

IV. 危険な車

大会審査委員会より車体の強度など安全上の理由によって危険であると判断された車輛は、理由のいかんをとわずレースに使用することはできない。

[10] 公道での走行禁止

I. 公道の走行禁止

主催者に登録された、またそれはそれに近い構造の車によって一般公道を走行することは一切禁止する。

II. 走行禁止の例外

主催者に登録された車輛であっても、車輛保安基準に適合した完全な車はその限りではない。

III. レース用

車輛保安基準に適合した完全な車でも、レース・ナンバー・プレート装着して一般公道を走行することは一切禁止する。

[11] 器具および装備品

I. ナンバー・プレート

- (1) ナンバー・プレートの大きさ
ナンバー・プレートの大きさは、付則に示される。
- (2) 取り付け方法
 - 1) 付則に示される枚数のナンバー・プレートをライダー等によりかくれることなく、明瞭に見えるように取り付けなければならない。
 - 2) 取付は丈夫な方法により確実にとりつけられ、ハリガネなど安易な方法によってはならない。

II. ヘルメット



種々の検査を受けて公認されるヘルメット

- (1) ライダーは予選、レース中を問わず、走行中は必ずヘルメットを着用しなければならない。
- (2) ヘルメットは付則に定められた性能を有するもので主催者の検査に合格したものでなければならない。
注) M. F. J. の公認したヘルメットには認証マークが貼付されている。

III. ライダーの服装

- (1) ライダーの服装は競技中ライダーの身体の安全を確保し操縦技術を妨げるものであってはならない。
- (2) 突出部のない革靴を着用しなければならない。
- (3) 指示されたゼッケンは着用しなければならない。ただし、ナンバー固定者でライダーズーツの上着にゼッケンを縫い込んだものは認可する。
- (4) その他付則による。

[12] 燃料およびオイル

I. 燃料

レースに使用する燃料は、一般市販ガソリンでなければならない。また主催者が指定しレース場内にて供給する場合、ガソリンの銘柄およびその他の詳細は特別規則に示される。

II. オイル

オイルの銘柄は指定しない。

III. その他の規定

- (1) ガソリンおよびオイルには、オクタン価や燃料効率を高めるような添加剤あるいは起爆剤を加えてはならない。
- (2) ガソリンにオイルを混合する必要があるときは所定のパドック内の安全な場所で作業しなければならない。

[13] 車輛検査

I. 車輛検査

- (1) 車輛は出場車輛にもつづいた、車輛検査を受けなければならない。車輛検査の時刻、および場所は特別規則に示される。
- (2) 車輛は、レース直前に車輛検査の状態に保たれているかどうかのチェックを受けなければならない。
チェックの時刻および場所は特別規則に示される。

II. 使用部品の登録(車輛改造申告書)

ライダーは車輛検査の時に大会事務局より支給された車輛改造申告書を提出し、使用する車輛・部品等の銘柄、型式の登録をしなければならない。

[14] ライダーおよび車輛の変更

I. ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。
ただし、耐久レースの場合はこの限りではない。

II. 車輻の変更

出場登録した車輻を変更してはならない。

- (1) ただし、破損、またはその他の理由によって使用する車輻を変更する必要がある場合は、きめられた書式にしたがって車輻の変更申請をおこない、競技総監督がこれを認めた場合に限り、車輻の変更が認められる。
- (2) 紛争に際して、銘柄についての立証の責任は参加者側にあるものとする。
- (3) その他詳細は特別規則に示される。

III. ライダーと車輻の双方を変更することはできない。

〔15〕 走行中の遵守事項

- (1) 走行中、必要以外にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離したり、外につき出したりするような危険な姿勢をとってはならない。
- (2) 走行中、故意に他のライダーの走行を妨害するような走りかたをしてはならない。
- (3) 走行中、車輻はそれ自身が持つ動力、およびライダーの筋力、または重力などの自然現象以外の方法で、走ったり、加速したりしてはならない。
- (4) 走行中、他の人の援助を一切受けてはならない。他の人による援助とは、そのレースに参加しているライダー、きめられた位置についている担当のメカニックおよび業務執行中の役員以外の人々が車に触れることをいう。
- (5) 走行中、車輻にいかなる他人も同乗させてはならない。
- (6) ライダーはレース中、一切酒気をおびたり、または医薬品等（興奮剤、麻薬等）により故意に精神状態をつくろってはならない。

6] レース

I. 予選

出場申し込み者数が多い場合等は、予選によって決勝レース出場者を決定することがある。その詳細については付則および特別規則に示される。

II. スタート

付則および特別規則に示される。

III. 合図

- (1) レース中、大会役員が次の合図用旗を示した場合、各ライダーはただちにそれに従わなければならない。
 - 1) シグナル緑又は国旗…スタート
 - 2) 赤旗……………全ライダーの走行停止
 - 3) 黄旗
 - ① 静止……………危険予告
 - ② 振る……………コース上に重大な危険あり徐行

安全確認、追越禁止

(注) 重大な危険とは、コース上に事故車輻またはライダーの存在および役員等による事故等の処理作業中のため、コースの全面または部分的閉塞を意味する。

- 4) 緑旗……………先に示された合図の解除
- 5) 3本の黄色縦縞のある赤旗…コース上オイルあり
- 6) 青旗……………追越車あり、進路をゆずれ
- 7) 白旗または赤十字旗…コース上に救急車またはサービスマンあり、又はコース上にて救急作業が行なわれている。
- 8) ライダーのナンバーを付した黒旗…当該ライダー走行停止
- 9) 白と黒のイチマツ模様（チェッカー・フラッグ）……………レース終了（ゴールイン）

(2) この合図用旗の使用は、役員にのみ許され、他のいかなる合図旗またはそれとまぎらわしいものの使用は一切認められない。

IV. 停止

- (1) レース中、コース内で停止する場合には、ライダーはただちに車輻をコースの脇によせ、他のライダーの邪魔にならないように十分注意しなければならない。
- (2) レース中、車輻、コースの進行方向と逆に押したり、引いたりして車を移動してはならない。ただし大会役員の指示監督のある場合はこの限りではない。
- (3) 事故または車輻故障などの理由によって、リタイア（中途退場）する場合は、その地点からもっとも近いコース審判係に報告し、用意してある用紙によってリタイア届けを提出しなければならない。
- (4) ライダーは、リタイア届けを提出したコース審判係に車輻をあずけて退場しなければならない。
- (5) ライダーはこの車輻をそのレースが終了するまでコース審判係の管理下におかななければならない。

ただしそのレースに支障のない地点まで車輻を移動させることをコース審判係から指示された場合はこれに従わなければならない。

V. レースの終了

各レースの終了のチェッカーフラッグによりトップ走者がゴールしたのち付則および特別規則に示す時間を経過した時である。

〔17〕 優勝者、入賞者および完走者

付則に示す。

〔18〕 入賞車の検査

レース終了後各クラスの1位から6位までの車輻は、暫

総則

定結果発表後分以上保管され、必要に応じて検査される。

[19] レース結果および記録の公表

- (1) 大会審査委員会はレース終了直後、暫定結果の公表をおこなう。
- (2) レース正式結果は、レース終了後3時間以内に、大会審査委員会から公表される。
- (3) 参加者、ライダーは公表されたレース正式結果に対して抗議することはできない。

[20] レースの延期、中止およびうち切り

- (1) レースは特別な理由のない限り、うち切ったり、中止されたりされない。
- (2) 大会審査委員会が、特別な理由によってレースのいずれかを延期、または放棄しなければならないと判断したときに限り、レースを延期または中止することができる。
- (3) すべての関係者は大会審査委員会の決定にしたがわなければならない。
- (4) 特にやむを得ぬ理由によって、トップ走者がそのレースにきめられた周回数、または時間の3分の2を完走しないうちにレースを打切った場合は、そのレース

は無効となる。

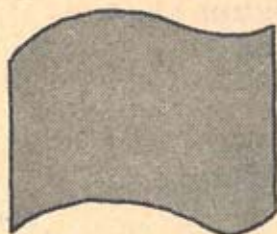
- (5) トップ走者がきめられた周回数または時間の3分の2以上を完走した場合でレースを打切った時は、大会審査委員会はそのレースの判定結果に条件を付して発表する。
- (6) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料を返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

[21] 抗議

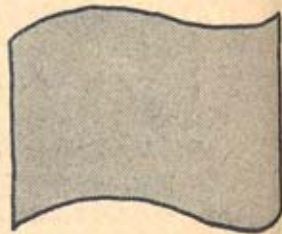
- (1) 参加者、ライダーおよびメカニックのみが抗議申し立てができる。
- (2) 抗議しようとするときは、定められた手続によって大会事務局に申し入れをしなければならない。
抗議手続は、大会事務局に備付の抗議申し立てに記載し、1項目につき、抗議保証金5,000円をそえて大会事務局に提出しなければならない。
- (3) 暫定結果に対する抗議は発表後30分以内に限り受付られる。
- (4) 正式の手続きをふんで提出された抗議申し立て書だけが受けられ、大会審査委員会において審議される。
- (5) 大会審査委員会は、必要を認めた場合、証人をた



スタート：シグナル旗
または国旗



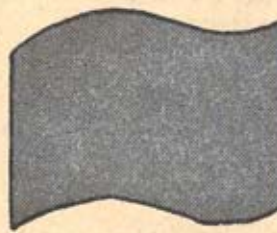
赤旗：全ライダーはただちに
停まれ!!



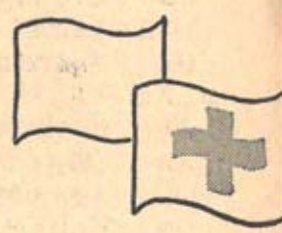
黄旗：危険あり注意



黄色縦縞の赤旗：コース上
にオイルあり注意!!



青旗：追越車あり進路を
ゆずれ!!



白旗または赤十字旗：
コース上に救急車あり!!

て、その証言を求め、十分実情を調査したうえで裁定をくだす。

- (6) 審査委員会が下した裁定に対しては一切抗議することはできない。
 (7) 抗議が成立した場合のみ抗議保証金が返還される。

[22] 損害の補償

I. 車輛の破損

- (1) ライダーは、車輛が大会審査委員会によって保管されている期間をのぞき車輛およびその付属品が破損した場合、その責任を各自が負わなければならない。
 (2) 大会審査委員会は、車輛を保管している期間中に、これらの車輛がなんらかの理由によって破損した場合には、一台当たり10万円を最高限度額としてその所有者に補償する。

II. 損傷の責任

競技会開催期間中、またはその前後に起された損傷は自らが責任を負うものとする。

III. 大会役員の責任

参加者、ライダーおよびメカニックは大会役員が一切の損害補償の責任を免ぜられていることを知っていなければならない。すなわち大会役員はその職務に最善を尽す

ことは勿論であるが、もしその行為によって起きた参加者、ライダー、メカニックおよび車輛等の損傷に対して、大会役員は一切の補償責任のないことをいう。

[23] 競技規則の違反行為に対する罰則

大会中（競技会）における違反行為に対しては、大会審査委員会ならびに競技総監督の権限で下記の罰則を課することができる。

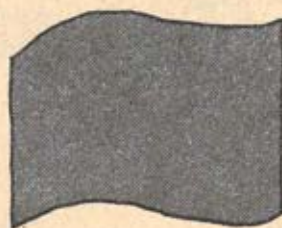
- (1) 注意処分（口頭による注意または注意処分通告書）
- (2) 厳重戒告（戒告通知を受けたものは始末書提出）
- (3) 罰金（1万円以上5万円以下）
- (4) 競技結果に対する1分加算
- (5) 競技結果に対する3分加算または1周減算
- (6) 失格

違反の判定は競技総監督の判断を優先するが、罰則の裁量や適用は大会審査委員会の決定を優先するものとする。

罰則は、審査委員会の報告にもとづきMFJ資格審査委員会によって、さらに事後の出場停止、資格停止にまでおよぶかどうか審査裁定され30日以内に通告される。



黄旗が振られた場合は大いに危険!!
スピードダウン徐行せよ!!



緑旗：先に示した合図解除

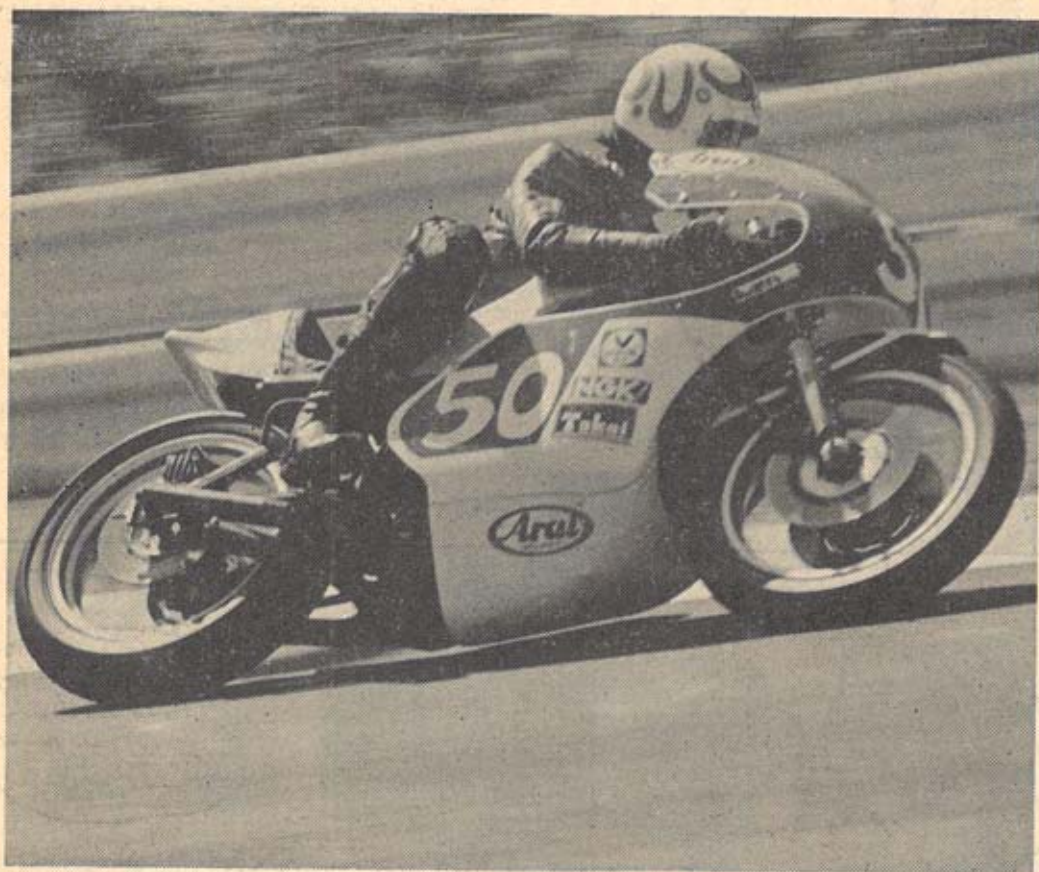


黒旗：指示されたライダーは走行停止せよ!!



チェッカー旗：レース終了!!
キミはゴールした。





ロードレース規則・目次

- [1] 適用の範囲.....13
- [2] ロードレース.....13
- [3] 出場車輛.....13
- [4] プロダクション出場車輛.....17
- [5] ライダーの装備.....19
- [6] 公式予選.....19
- [7] レース.....19
- [8] 優勝者、入賞者、完走者および順位...20

MFJ国内競技規則 付則1

ロードレース規則

〔1〕 適用の範囲

以下に記す規則は総則と共に全てのロード・レース競技会に適用される。

〔2〕 ロード・レース

ロード・レースとは舗装され、完全にクローズドされたサーキットで行なわれるレースであり、総則およびこの付則による管理される。

〔3〕 レース出場車輛

出場車輛（以下車輛という）は、下記の改造の限度と仕様をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

なお、改造されて型式（モデル）が判明できないような車輛は出場することができない。

I. 車輛の排気量区分

車輛のクラス区分は原則として次のようにわけられ、開催目および運用は特別規則に示される。

クラス	最小総排気量	最大総排気量
50cc	—	50cc
90cc	51cc	~ 90cc
125cc	91cc	~ 125cc
250cc	126cc	~ 250cc
350cc	251cc	~ 350cc
500cc	351cc	~ 500cc
750cc	501cc	~ 750cc

II. 改造の限度

§1 国際A級部門

車輛は一般生産型モーターサイクルで、MFJ公認車輛

またはFIMフォーミュラ750レース用公認車輛でなければならない。

その銘柄、型式の詳細は公示に示される。

改造をおこなう場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 下記の諸点について車輛は公認仕様と異なっていないはならない。

ただし、公認車輛の部品および公認部品の組合わせはこの限りではない。

1) エンジン型式

気筒数、ストローク

2) シリンダーのボアアップは公認された車輛の排気量区分をオーバーしてはならない。

3) 4ストロークの場合のシリンダーバレルの鋳造および材質

4) 2ストロークの場合のシリンダーバレルの鋳造および材質とポート数

5) シリンダーヘッドの鋳造および材質

6) クランクケースの鋳造および材質

7) ギヤボックスの鋳造および材質

8) プライマリドライブ方式

9) トランスミッションの変速段数

10) 吸排気方式

11) 気化方式

(2) 燃料タンク容量は最少限6ℓ、最大限24ℓとする。

(3) 半乾燥重量は下記の最低重量を満たしていなければならない。

半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車輛重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

125cc 単気筒 70kg

2気筒 75kg

250cc 90kg

350cc 95kg

500cc 100kg

750cc 110kg

なお、上記重量を満たすために、ダミーウエイトを装着してはならない。

(4) 騒音は下記の条件を満たしていなければならない。

1) 車輛には、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。

2) 騒音はFIM方式による測定方法で、4サイクル車の場合=110+5db(A)、2サイクル車の場合=110db(A)以下でなければならない。

3) FIM方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4サイクルの場合11m/s、2サイクルの場合13

付則 1

m/s でエンジンを回転している騒音を測定する方法をいう。

(5) 下記の部品構造にチタニウムを使用してはならない。

フレーム、フロントフォーク、フロントフォーク・ブラケット、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、ハンドルバー、ホイールスピンドル、スワアリング、シャフト

§2 ジュニア部門、ノービス部門

車輛は一般生産型モーターサイクルで、MFJ が公認したものでなければならない。

その銘柄、型式の詳細は公示される。

機械加工または仕上げによる修正、調整、軽量化もしくは形状の変更をおこなう場合は下記各項に限定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 機械的伸長、他の物質の添加または分子構造や金属面に変更をもたらす様な処理（焼き入れ等）および材質の変更をしてはならない。

(2) フレームの基本骨格は公認型式のものでなければならない。

ただし、250cc以下の車輛はこの限りではない。

なお、補強等は行なってもよい。

(3) 異なった機種エンジンのフレームの組合せをしてはならない。

ただし、250cc以下の車輛はこの限りではない。

(4) クランクケース本体やクランクシャフト・アクセッブリーは公認型式のものでなければならない。

1) クランクウェブのバランス穴の充填は認められる

2) ユニット・コンストラクション（単体構造エンジン）の場合のクランクケース本体とは変速機部分も含まれる。

(5) 変速機の段数は6段を限度とする。

ただし、変速ギヤはクランクケース及びミッションケース外に増設してはならない。

(6) 冷却方式の変更は公認されたものでなければならない。

(7) 弁形式を変更してはならない。

(8) 燃料吸入方式を変更（フェューエルインジェクターの取付等）してはならない。

(9) 気化器の個数は気筒あたり1個を限度とする。
（ダブルベンチュリーの場合は2個とみなす）

(10) 半乾燥重量は下記最低重量を満たしていなければならない。

1) 半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車輛重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

2) 車輛最低重量は次の通りである。

90cc(1気筒)	65kg	250cc(1気筒)	90kg
90cc(2気筒以上)	72kg	250cc(2気筒以上)	105kg
125cc(1気筒)	70kg	350cc(1気筒)	95kg
125cc(2気筒以上)	75kg	350cc(2気筒以上)	110kg

3) 最低重量より軽い場合には、ダミーウエイトを取付けなければならない。ただし、ダミーウエイトは5kgを越えてはならない。

4) ダミーウエイトは、ボルトまたは溶接によりフレームに完全に固着したもので、転倒などの際に危険でないものとし、車輛検査において封印を受けなければならない。

01 騒音は下記の条件を満たしていなければならない。

1) 有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていないなければならない。

2) 騒音はFIM方式による測定方法で、4サイクル車の場合=110+5db(A)、2サイクル車の場合=110db(A)以下でなければならない。

3) FIM方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4サイクルの場合11m/s、2サイクルの場合13m/sでエンジンを回転している騒音を測定する方法をいう。

02 構成部品

1) 下記部品はMFJが公認したものでなければならない。

●ミッション、シリンダー、シリンダーヘッド

2) 下記部品はMFJに市販届出申請を行ない承認されたものでなければならない。

●フロントクッション、リアクッション

3) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

III. 仕様

車輛は安全のために下記各項の全てを満たしていなければならない。

(1) 過給

過給機を取付けたり、過給したりしてはならない。

(2) ブレーキ

車輛は前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを



ブレーキはマシンのカナメだ。

備えなければならない。

(3) リムとタイヤ

車輻は下記に示す呼称寸法以上のリムおよびタイヤを装着しなければならない。

●前輪

クラス	リム		タイヤ	
	最小寸法	幅	最小寸法	幅
	インチ	mm	インチ	mm
50cc	—	—	2.00	50.8
90cc	—	—	—	—
125cc	2.00	38	2.50	63
250cc	2.00	38	2.50	63
350cc	2.25	40.5	2.75	70
500cc	2.25	40.5	3.00	75
750cc	2.50	47	3.25	83

●後輪

クラス	リム		タイヤ	
	最小寸法	幅	最小寸法	幅
	インチ	mm	インチ	mm
50cc	—	—	2.00	50.8
90cc	—	—	—	—
125cc	2.00	38	2.50	63
250cc	2.25	40.5	2.75	70
350cc	2.25	40.5	3.00	75
500cc	2.50	47	3.25	83
750cc	2.50	47	3.50	90

(注) タイヤのビードは、ワイヤ入りビードでなければならない。

(4) ハンドル・バー

1) ハンドルの端から端までの幅は500mm以上でなければならない。

ただし、90ccクラス以下に限り450mm以上でなければならない。

2) 中心線または中央位置の両側に対するハンドルの回転角度は20度以上でなければならない。

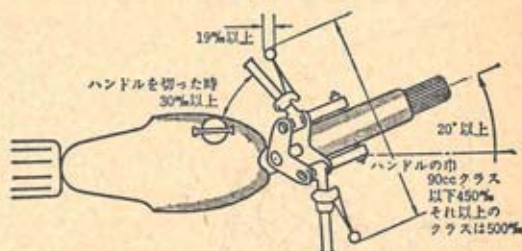
(5) ハンドル・バーのクリアランス

1) ハンドル・バーのいかなる位置においても、またいかなるその付属品も含めて、ハンドル・バーの先端と流線形覆いととのクリアランスは50mm以上でなければならない。

2) ハンドルを一杯に切ったとき、ライダーの指をはさまないように、ハンドルおよびレバーとタンクの間で最低30mmの間隔を確保するために、止め具か他の装置を必ずとりつけなければならない。〔第1図〕

(6) クラッチとブレーキ・レバー

ハンドル・クラッチ・レバーおよびブレーキ・レバーはその末端が球状に作られ、その球は直径19mm以上で容易に取れたり外れたりするものであってはならない。



〔第1図〕 ハンドルの回転角度、ハンドルの幅、ハンドルを切ったときのタンクとの間隔

(7) フートレストおよびペダル

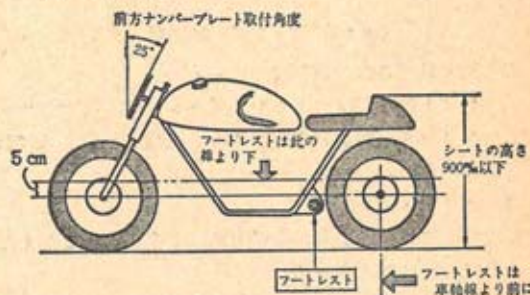
1) フートレストは、前後車輻の中心を通過する線の50mm上方より下側に、そして後輪の中心を通過する垂線の前側になるように取付けられ、どのコントロール・ペダルも容易に操作出来る位置になければならない。

2) フートレストおよびペダル類の先端の角は安全上丸められ、とがっていない。

(8) 車輻の高さ

車輻が無負荷の場合、サドルあるいはこの後方の部分が地上90mm以上の高さであってはならない。

〔第2図参照〕



〔第2図〕 車輻の高さおよびフートレストの位置

(9) 排気管

すべての排気は側方に開口のない管により後方に行なわれなければならない。その排気管は車輻の進行方向になるべく平行でなければならない。また後輪最後端垂線より突出してはならない。排気管はほこりを立てるように排出されたり、いかなる状態でも後続車のライダーに迷惑を与えるように排出されてはならない。

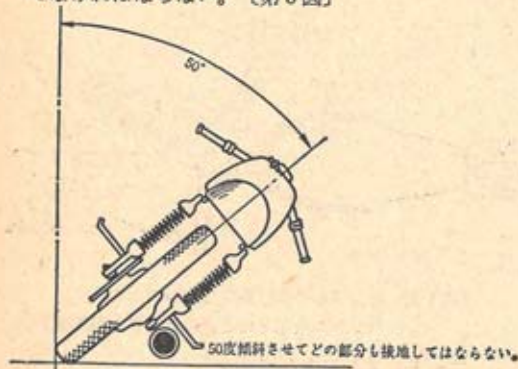
余剰オイルの排出装置は排気ガス流の内に出たり、

付則 1

後続ライダーに迷惑を与えたりしないように作られていなければならない。

00 車輻の傾斜角

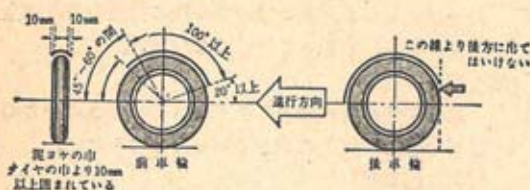
無負荷の場合、車輻はタイヤを除き、どの部分も接地する事なく垂線に対して50°傾斜させることが可能でなければならない。〔第3図〕



〔第3図 車輻の傾斜角度〕

01 フェンダー

フェンダーは前後とも、とりのぞいてもかまわない。取付ける場合は第4図に示すとおり確実に装備しなければならない。



〔第4図 フェンダーの角度〕

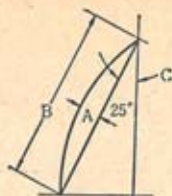
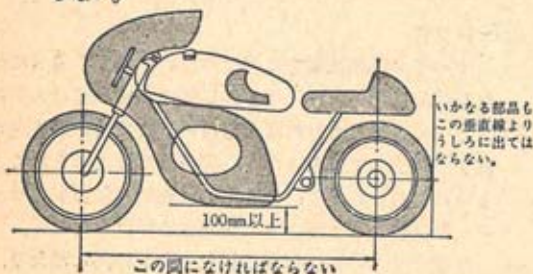
02 取りはずさなければならないもの

ライト類、バックミラー、スタンド類、荷台、チェーンケース、およびキックアームは取りはずさなければならない。

03 カウリング

カウリングを使用する場合は以下の条件をそなえたものでなければならない。

- 1) タイヤを除く前輪は両側に明瞭に見えなければならない。



- A: 25mm以下
- B: 230mm (ナンバーの高さ)
- C: ナンバーの取付角度

〔第5図 カウリングおよびその前面の丸みと傾斜角度〕

- 2) 前後輪の車輻を通る垂線の間になければならない
- 3) カウリングの下端と地面との間隔は100mm以上でなければならない。
- 4) ライダーは普通に乗車した状態で両前膝部以外は、上方、後方、両側面から見えなければならない。
- 5) 上記の適用を避けるために透明な物質を使用することはできない。
- 6) カウリングの前端部の型状は第5図に示す範囲でなければならない。

04 ナンバー・プレート

- 1) ナンバープレートの大きさ

ナンバー・プレートは、左図に示す大きさのものでなければならない。



〔第6図 ナンバープレート
の大きさ〕

- 2) 取り付け方法

ナンバー・プレートは、車輻の前面に、1枚を前向きに、垂直から25度の角度をつけ（大きさは第6図の限りではない）、車輻の両側面に1枚垂直にとりつけなければならない。

- 3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

- プロダクション・白地に黒文字
- ノービス部門・白地に黒文字
- ジュニア部門・黄地に黒文字
- 国際A級部門・赤地に白文字

- 4) ナンバーの字体および寸法

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体の斜体であってはならない。

ナンバーの寸法は、高さ200mm、巾25mmとする。



05 後輪の可視範囲

後輪のリムは後輪の車軸の垂直線の後部円周180度
にわたって明瞭に見えなければならない。

06 部品の最後端

いかなる部品も後輪最後端垂線よりうしろに突出し
ていてはならない。

07 エンジン・ドレーン・ボルト類はかならずワイヤロ
ックを施さなければならない。

08 他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような構
造をしてはならない。

〔4〕 プロダクション出場車輛

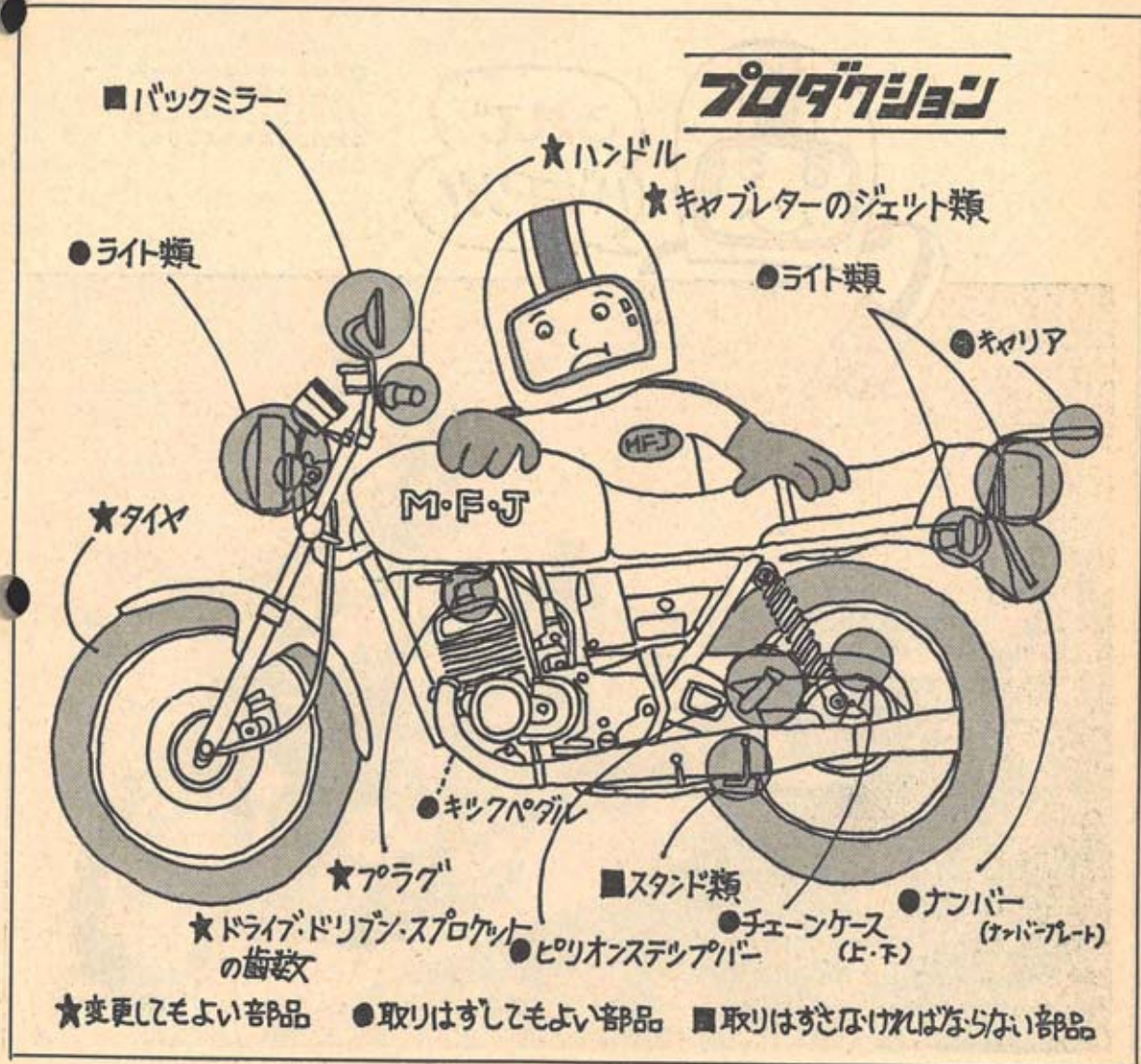
プロダクション出場車輛（以下車輛という）は市販レー
サーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJご公認
したものでなければならない。なお、車輛のクラス区分は
〔3〕Iに示す通りとし、開催種目および運先は特別規則
に示される。

I. 改造の限度

(1) 変更してもよい部品

1) キャブレターのジェット類。ただしキャブレター
本体の改造、変更は出来ない。

2) ハンドル。ハンドル幅は500mm以上とし、グリップ
および取付け位置はトップブリッジより上とする。
分割型であったり、危険な構造であってはなら
ない。なおハンドルをいっばいに切ったとき、ライ
ダーの指をはさまないようにハンドルおよびレバー



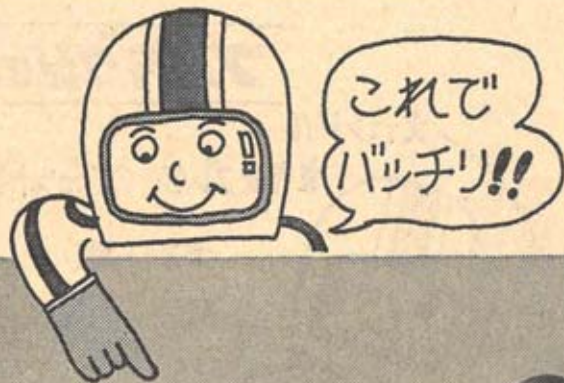
付則 1

と燃料タンクの間に最低30mmの間隔を確保するために、止め具か他の装置を必ず取付けなければならない。(p.15第1図参照)

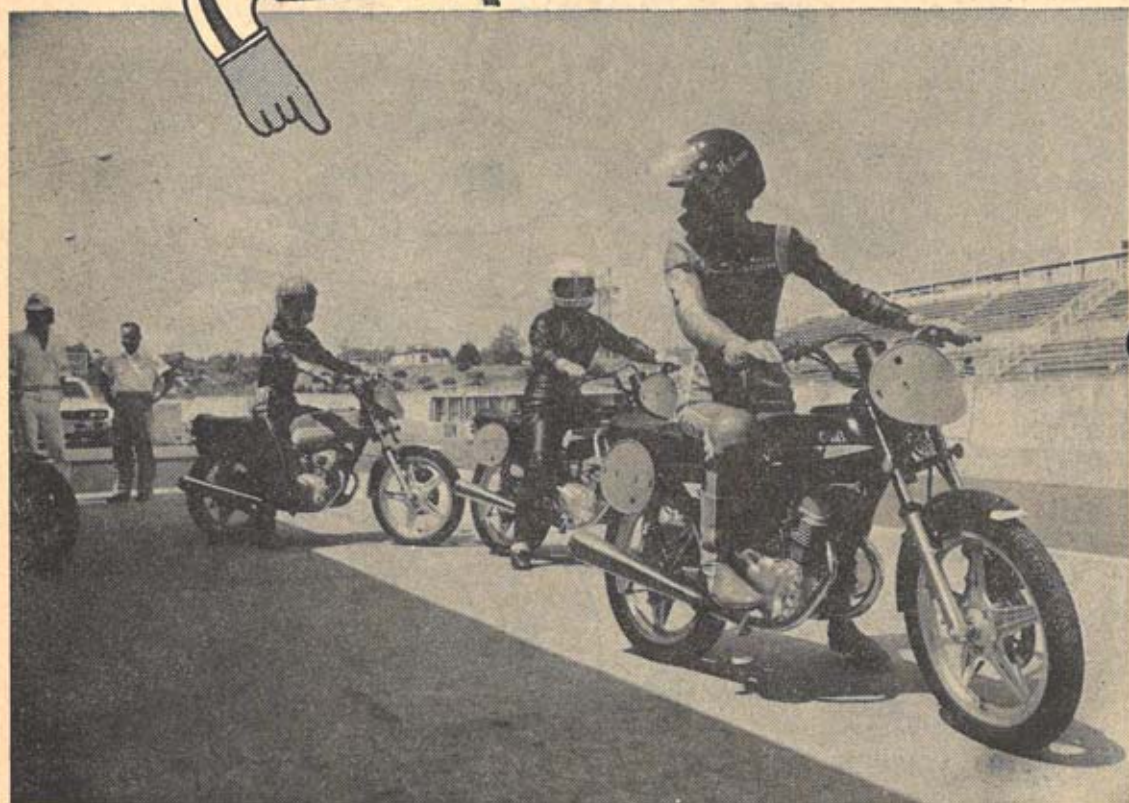
- 3) スパークプラグ
 - 4) ドライブ、ドリブン、スプロケットの歯数。ただしチェーンサイズの変更およびレーシングチェーンの装着は出来ない。
 - 5) タイヤ。タイヤは市販公道タイヤに限り変更することが出来る。ただし、その車輻の諸元に示されるサイズの変更は出来ない。
- (2) 取外してもよい部品
ライト類およびヘッドライトケース、ヘッドライトステー、キャリア、チェーンケース上下、ピリオンス

テップバー、キックペダル、ナンバープレートおよび支持ステー、メーター類。なおライト類を取り外さない場合はレンズ類の飛散防止処置を施さなければならない。

- (3) 取外さなければならない部品
バックミラー、スタンド類。
- (4) (4)取付けなければならない部品
競技用ナンバープレート(ナンバープレートに関する規定は〔3〕Ⅲ04に示す通りとする)、エンジン・ドレーンボルトのワイヤーロック。
- (5) 上記(1)~(4)の各項に示された部品以外は、いっさい変更、改造を行なってはならない。



市販のクルマでロードレースのしんずいを味わえるのが、プロダクションレースの大きな魅力。みんなで楽しもう。

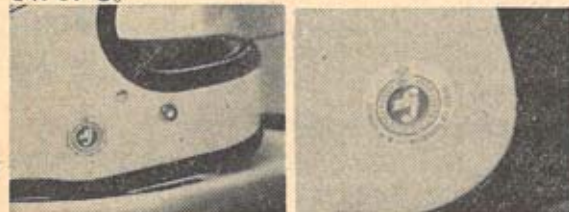


〔5〕 ライダーの装備

I. ヘルメット

ヘルメットは、日本工業規格 J.I.S.T 8133 の 2 種、U.S.A. S. 1 STANDARD. Z 90-1-1966、またはそれ以上の性能を有するもので、M. F. J. または F. I. M. が公認し、主催者の検査に合格したものでなければならない。

M. F. J. の公認したヘルメットには 認証マークが貼付されている。



この認証マークがないとレースには出場できない

II. ゴoggles

ゴogglesは破損した場合ガラスが鋭く割れない安全なガラスが使用されたものでなければならない。枠は柔軟なもの、または危険でないものでなければならない。

III. ライダーの服装

- (1) ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を確保し、操縦を妨げるものであってはならない。
- (2) 皮製のレーシングスーツ、皮製の手袋、あみあげ用金具製止め具（外部に突出しているフック等）のないピッタリしたレザーブーツ（あるいは着脱容易な膝までおおわれた革製脚絆）を着用しなければならない。

〔6〕 公式予選（オフィシャル・プラクティス）

I. 公式予選の日程

- (1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- (2) 公式予選の日程および時間は特別規則に示される。

II. 公式予選の内容

- (1) すべてのライダーはレースに出場するため、かならず公式予選に参加し、最終的出場資格を取得しなければならない。
- (2) 公式予選においては役員による車輛の安全上のチェックがなされた後、一台ごとにスタートし、与えられた時間を任意に走行することができる。与えられた時間内であれば中断または再スタートすることができる。
- (3) 公式予選において走行中のライダーは常にラップタイムを測定されており、最高ラップ・タイムがはなはだしくおとるものは、たとえ定員以内であっても出場資格を与えられない場合がある。
- (4) 公式予選において測定された各ライダーの最高ラップ・タイムにより特別規則に示されるレース出場台数を

を限度としてスタート位置が決定される。最高ラップ・タイムが同じ場合は次のラップ・タイムによる。

- (5) 各クラスの公式予選義務周回数 は、3 周以上とする。なお、最初の 1 ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。
- (6) 2 種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。

〔7〕 レース

I. スタート位置

- (1) 各クラスともレースのスタート位置は、各ライダーに与えられている車番とは関係なく最高ラップ・タイムによって決定される。
- (2) レースにおけるスタート位置の発表は、公式予選の終了後、審査委員会がおこなう。

II. チーム

チーム参加の場合のチーム編成、チーム競技の成立等特別規則に示す。

III. スタートまでの行動

- (1) スタートまでの行動は原則として次の時間割による

スタート	約60分前	給油およびレース前車輛チェック開始、終了後ただちに待機区域に入る。待機区域コースへ誘導。
スタート	15分前	ウォーミング・アップ開始
"	5分前	スタート位置整理
"	3分前	エンジン停止
"	2分前	表示 メカニック離れる
"	1分前	表示
"	30秒前	表示
"	10秒前	表示

スタート 緑色シグナル又は国旗にて表示

- (2) 決められた時間以外にエンジンを始動させてはならない。

IV. スタート

- (1) スタートは、原則として、おしげけによる同時スタートとする。
- (2) スタート位置は、すべて正規のスタート・ラインからなされたものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップは一切考慮されない。
- (3) スタートの合図は原則としてシグナル・ランプによって行なわれる。特別の理由による旗によって行われることがある。

V. ビット

ビットとは車輛の修理、調整、部品交換、燃料補給などの作業をおこなう目的のためにライダーに与えられた区域のことである。

付則 1

VI. ピットイン

- (1) ピットインする時はピット前のコース上に区画されたイエローラインとホワイトラインの間を減速地帯としてここを走行し、他の車が走行できる停車余地を残して車輛をピットに近づけて停車し、エンジンを必ず停止しなければならない。
- (2) 審判員の指示または危険回避以外の目的でイエローラインをカットして走ってはならない。
- (3) 自分のピットを通り越した時はエンジンを停止した後、ピット審判員の承認を得た上でどす事ができる。

VII. ピットアウト

ピットアウトする際は、必ず審判員の合図によって確認し、自力で押してスタート後減速地帯を走行し、コーナーの内側を走行しながら次のコーナーを通過しなければならない。

VIII. ピット作業

- (1) レース中における車輛の修理、調整、部品交換は、ピットに準備してある部品と工具によって行ない、必ずエンジンは停止しておこななければならない。
- (2) ピットに準備してある部品、工具による作業は正規にピットインした車に対してのみ行なうことができる。
- (3) エンジンアッセンブリーおよび、フレームアッセンブリーを交換してはならない。また当該アッセンブリーをピットに持込んではいけない。
- (4) メカニックは区画内にオイルをこぼしたり汚したりした場合は、ただちにきれいに掃除しておかなければならない。

IX. ピット作業人員

- (1) ライダーは2名までメカニックを持つことができる。
- (2) レース中ピットインし、エンジンを停止した車輛に対しては、2名のピット要員と、その車輛のライダー、計3名だけが停止位置で作業できる。
- (3) ライダーに対するメカニックのレース中の合図は、大会役員の使用する合図用旗にまぎらわしくないものによって「ピット区画」のみで合図を送ることができる。
- (4) ピット作業を行うものはすべて、登録をし参加の申請がなされた者でピット保険加入者でなければならない。年齢は、16歳以上であること。
- (5) メカニックは開催期間中を通じてどの大会役員の指示にもしたがわなければならない。
- (6) メカニックが守らなければならないことに違反した時は、そのメカニックの担当ライダーが責任を問われペナルティが課せられる。

X. レースの終了

各レースの終了はチェッカーフラッグによりトップ走者がゴールしたのち特別規則に示す時間を経過した時(注1)であり、チェッカーフラッグ・マーシャルが指定位置より退場したことにより示される。

(注1) 原則的にコースの1周を1kmにつき1分として定められる。

〔8〕 優勝者、入賞者、完走者および順位

I. 優勝者

各レースにおける優勝者は、レースの総距離を最短時間で完走した。または定められた時間内に最も長い距離を走破したライダーである。

II. 入賞者および順位の優先順序

- (1) 入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走車の中から周回数が多い順に決まされ、同周回数の場合はゴールラインの通過順位による。
- (2) レース終了時までにゴールラインに達しない走行中の完走者。
- (3) 完走周回数をまっとうしたのち、リタイアした者。
- (4) 上記以外の者については周回数が多い者を優先する。

III. 完走者

- (1) 各クラスのレースにおいて優勝者の80%以上の周回数を完了したライダーが完走者である。
- (2) レース途中でリタイア届を提出したライダーでも完走周回数を完了しているライダーは完走者とみなされる。



ロードレース

'79全日本選手権大会特別規則



目次

[1] 開催競技会の日程, 名称, 主催, 出場 開催場所, 申込み期間.....22	[19] ライダーの変更.....27
[2] 運営実行組織.....24	[20] 出場車輛の変更.....27
[3] 公式通知, タイムスケジュール.....24	[21] 公式予選.....27
[4] 開催種目.....24	[22] 決勝レース出場台数.....27
[5] 競技内容.....24	[23] スタート.....28
[6] 参加定員.....25	[24] スタート反則.....28
[7] 参加資格.....25	[25] レース.....28
[8] 出場申込み.....25	[26] レース中の合図.....28
[9] 出場料および保険料.....25	[27] 停車指示.....29
[10] 参加受理.....25	[28] 棄権(リタイア)と停止.....29
[11] 賞およびポイント.....25	[29] レース終了.....29
[12] レース出場車輛.....25	[30] 優勝者, 入賞者, 完走者および順位.....29
[13] 競技番号(ナンバー).....25	[31] レース終了後の車輛の保管と再検査.....29
[14] ライダーの装備.....26	[32] レースおよび大会の延期中止等.....29
[15] ガソリンおよびオイル.....26	[33] 抗議.....29
[16] ビット割当て.....26	[34] 違反に対する罰則.....29
[17] 出場受付.....26	[35] 本規則の解釈.....29
[18] 車輛検査.....27	[36] 本規則の施行.....29

ロードレース

本競技会シリーズは、日本モーターサイクル協会(MFJ)公認のもとに、MFJ国内競技規則に従い開催される。本特別規則は、1979年度全日本選手権シリーズ全戦に適用される。

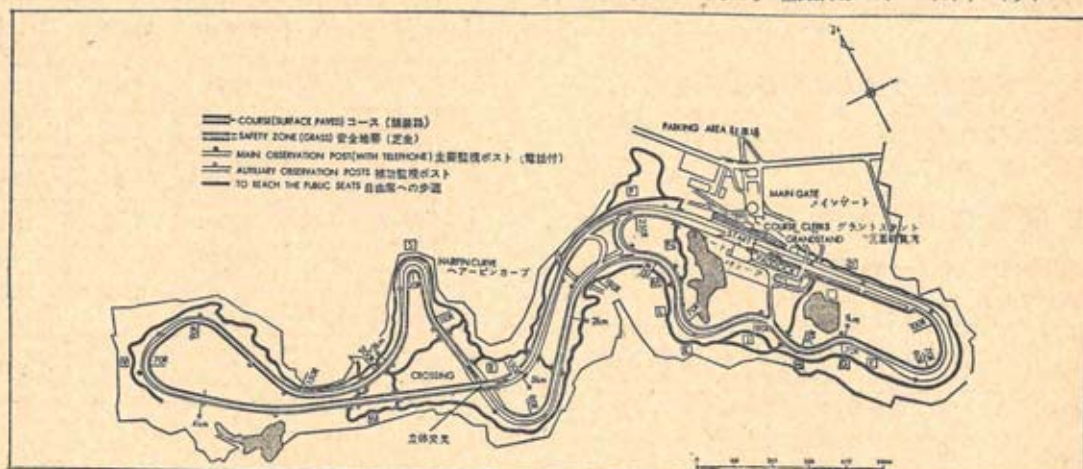
[1] 開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間

日 程	大会名称	主 催	開催場所	出場申込み期間
2月25日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 筑波ロードレース大会	日本オートスポーツセンター 東京都港区虎の門2-6-7 ☎105 和孝第10ビル8階3号 Tel 03(591)6056	筑 波	1月12日(金) ? 1月25日(木) 消印有効
3月10日(土) 11日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 鈴鹿2&4	テクニカルスポーツ 三重県鈴鹿市住吉町6786 ☎513 鈴ホンダワールド内 代表 藤井球美 Tel 0593(78)1455	鈴 鹿	2月2日(金) ? 2月13日(火) 消印有効
4月8日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 筑波ロードレース大会	日本オートスポーツセンター 東京都港区虎の門2-6-7 ☎105 和孝第10ビル8階3号 Tel 03(591)6056	筑 波	2月27日(金) ? 3月8日(木) 消印有効
4月21日(土) 22日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 鈴鹿ロードレース大会	テクニカルスポーツ 三重県鈴鹿市住吉町6786 ☎513 鈴ホンダワールド内 代表 藤井球美 Tel 0593(78)1455	鈴 鹿	3月13日(火) ? 3月22日(木) 消印有効
5月13日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 筑波ロードレース大会	日本オートスポーツセンター 東京都港区虎の門2-6-7 ☎105 和孝第10ビル8階3号 Tel 03(591)6056	筑 波	4月4日(水) ? 4月13日(金) 消印有効
6月2日(土) 3日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 鈴鹿200マイル ロードレース大会	テクニカルスポーツ 三重県鈴鹿市住吉町6786 ☎512 鈴ホンダワールド内 代表 藤井球美 Tel 0593(78)1455	鈴 鹿	4月25日(水) ? 5月4日(金) 消印有効
7月22日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 菅生ロードレース大会	菅生スポーツクラブ 宮城県柴田郡村田町菅生 ☎909-14 スポーツランド菅生内 Tel 022483-3111	菅 生	6月13日(水) ? 6月22日(金) 消印有効
8月12日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 筑波ロードレース大会	日本オートスポーツセンター 東京都港区虎の門2-6-7 ☎105 和孝第10ビル8階3号 Tel 03(591)6056	筑 波	7月3日(火) ? 7月12日(木) 消印有効
9月8日(土) 9日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 第16回日本グランプリ ロードレース大会	日本モーターサイクル協会(MFJ) 東京都中央区銀座1-9-12 ☎104 大盛ビル Tel 03(561)8566	鈴 鹿	7月20日(金) ? 7月30日(月) 消印有効

開催場所

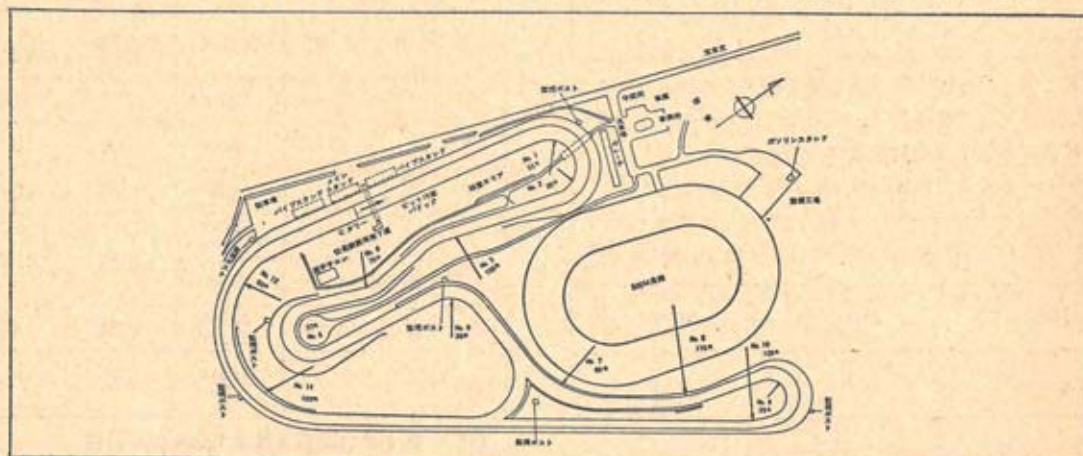
第1戦, 第3戦, 第5戦, 第8戦

〔第7図 鈴鹿サーキット〕 全長2,045mのクローズドサーキット



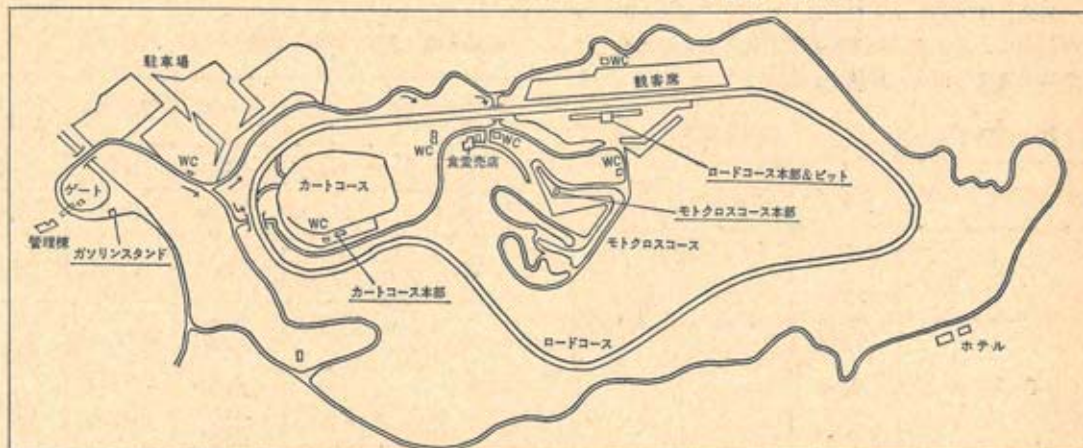
第2戦, 第4戦, 第6戦, 第9戦 (G.P)

〔第8図 筑波サーキット〕 全長6,004mのクローズドサーキット



第7戦

〔第9図 スポーツランド菅生〕 全長2,655mのクローズドサーキット



ロードレース

[2] 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式知通に示される。

[3] 公式通知、タイムスケジュール

公式通知および詳細なタイムスケジュールは、申し込み締切後発送される。

[4] 開催種目

(1) 全日本選手権シリーズの競技部門、クラス区分は下記の通りである。

部門 クラス	ノービス (N)	ジュニア (J)	国際A級
125cc	○	○	○
250cc	○	○	○
350cc	—	○	○
750cc	—	—	○

(2) 第1戦、第5戦A第8戦を除く全大会にはプロダクションレースが併催される。ただし、プロダクションレースは全日本選手権の対象とはならない。プロダクション・レースのクラス区分は下記の通りである。

クラス	最小排気量～最大排気量
125cc	91cc ～ 125cc
250cc	126cc ～ 250cc

[5] 競技内容

レース区分は下記の通りである。ただし、参加台数、天候等の都合により変更される場合は公式通知に示される。周回数等の変更の場合も同様である。

<第2戦：鈴鹿2&4>

区分	部門	クラス	周回数	完走 周回数
①	ジュニア	250cc	17周	14周
		350cc		
	国際A級	250cc		
		350cc 750cc		

<第1戦、第3戦、第5戦、第8戦：筑波>

区分	部門	クラス	周回数	完走 周回数
①	ノービス	125cc	15周	12周
②	ノービス	250cc	15周	12周
③	ジュニア	255cc	15周	12周
④	国際A級	125cc	18周	15周
⑤	ジュニア	250cc 350cc	18周	15周
	国際A級	350cc 750cc		
⑥	プロダクション	125cc 250cc	10周	8周

<第4戦、第9戦(GP)：鈴鹿>

区分	部門	クラス	周回数	完走 周回数
①	ノービス	125cc	10周	8周
②	ノービス	250cc	13周	10周
③	ジュニア	125cc	12周	10周
	国際A級			
④	ジュニア	250cc 350cc	15周	12周
	国際A級	250cc		
⑤	国際A級	350cc 750cc	17周	14周
⑥	プロダクション	125cc 250cc	8周	7周

(注) 第4戦の国際A級は125ccのみ開催

<第6戦 200マイル：鈴鹿>

区分	部門	クラス	周回数	完走 周回数
①	ノービス	125cc	10周	cc周
②	ノービス	250cc	13周	10周
③	ジュニア	125cc	12周	10周
	国際A級			
④	ジュニア	250cc 350cc	100マイル (27周)	合計で 44周
	国際A級	250cc 350cc 750cc		

〈第6戦：菅生〉

区分	部 門	クラス	周回数	完 走 周回数
①	ノ ー ビ ス	125cc	20周	16周
②	ジュニア 国際 A 級	125cc	20周	16周
③	ノービス 国際 A 級	250cc	25周	20周
④	ジュニア 国際 A 級	350cc	30周	24周
	国際 A 級	750cc		
⑤	プロダク ション	125cc 250cc	15周	12周

〔6〕 参加定員

参加定員は定めない。

〔7〕 参加資格

- (1) 参加者およびライダーは、1979年版MFJ国内競技規則・総則〔4〕（6頁）に合致していなければならない。
- (2) プロダクションレース出場者はBライセンス（ロード）を所持していればよい。

〔8〕 出場申し込み

- (1) 申し込み場所 申し込み場所は各主催 住所とする。
- (2) 出場申し込み
 - 1) 各部門とも所定の申込書に必要事項を全て記入の上、出場料および保険料を添えて提出しなければならない。
 - 2) 2クラス以上に出場を申込み場合は別々に申込書に記載しなければならない。
 - 3) 郵送の場合は現金書留とし、締切日当日の消印のある者までが有効となる。
 - 4) 締切日以後の申込みおよび電話による申込みは一切受け付けない。

〔9〕 出場料および保険料

- (1) 出場料およびライダー保険料

（第1戦～第9戦）

出場料 1クラス 5,000円
 保険料 1人1口 2,000円（保険額150万円）
 但し2口以上10口までは1口 1,350円

（保険額1口 50万円）

（プロダクション）

出場料 1クラス 3,000円

保険料 1人1口 1,000円（保険額150万円）

- (2) ビット要員保険料
1人 300円（保険額150万円）

〔10〕 参加受理

- (1) 必要事項の全てを明記した出場申込書、必要金額を大会事務局が受理した時点で、参加受理書が送られる。
- (2) 一旦受理された出場料、保険料はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかったものも同様である。
- (3) 大会が中止された場合、参加が拒否された場合（申込者が必要な手続きを怠った場合はこれに、あてはまらない）にのみ出場料、保険料が返還される。

〔11〕 賞およびポイント

- (1) 賞
賞の詳細については公式通知に示される。
- (2) 日本GP大会における賞の規定
 - 1) 最優秀クラブ賞は、MFJ公認クラブでそのクラブの全入賞者の得点を合計し、最多得点を獲得したクラブに授与される。
 - 2) 最優秀クラブ賞の得点集計は1位15点、2位12点、3位10点、4位8点、5位6点、6位5点、7位4点、8位3点、9位2点、10位1点で行なわれる。
- (3) 全日本選手権ランキンポイント
ポイントは、総則〔8〕II（7頁）による。なお日本GP大会のポイントには3点が加算される。
- (4) 賞およびポイント制限
賞およびポイントの制限は、総則〔8〕III（7頁）による。

〔12〕 レース出場車輛

車輛は、付則1〔3〕（13頁）を遵守しなければならない。

〔13〕 競技番号（ナンバー）

- (1) 国際A級部門のライダーには、付録に示す通り年間指定ナンバーが割当てられる。
- (2) 他部門のライダーには、主催者によってナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- (3) ナンバーは、車輛検査までに、規定の書体および色でナンバーを記入しなければならない。
- (4) ナンバーの状態は、車輛検査時に検査員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。

ロードレース

- (5) レース中、ナンバープレートおよび配布されたゼッケンを装着せずに走行した場合、またまちがったナンバーを装着して走行した場合は、その周回を記録されない。

[14] ライダーの装備

- (1) ライダーの服装、ヘルメットおよびゴーグル等は、付則1[5] (19頁)による。
(2) レーシングスーツの色は自由であるが3色以上にするのが望ましい。
(3) レーシングスーツには、ライダー名を背後のゼッケンナンバーの上に記入することが望ましい。

[15] ガソリンおよびオイル

- (1) ガソリンおよびオイルは総則[12] (8頁)による。
(2) ガソリンの銘柄およびその詳細は公式通知に示される。
(3) 車輻検査および公式予選中は、パドック内の所定の給油区域内においてガソリンの供給を受けなければならない。

200マイルレースの場合の補給規定

- (1) 燃料タンクは24ℓ以下とする。
(2) レース中の車輻への燃料補給は、一般市販のケイコウカンを使用しなければならない。
(3) レース中の燃料補給の義務回数は、各ヒートとも1回

以上および10ℓ以上とする。

- (4) レース中の燃料補給が行なわれる場合は、当該チームのメカニック1名が立合い、監督は補給監査委員の指示に従って、所定の用紙に少なくとも補給1ラップ前に給油届をすることが必要である。補給中はエンジンを停止し、他の作業を併行しておこなうことができない。
(5) 燃料補給中、ピット要員1名は必ず消火器を持って作業中待機していなければならない、且つこぼれた燃料、オイル等はピットに用意されたモップ、オガクズ等を使用して必ず拭きとらねばならない。
(6) 燃料補給及びサーキット、パドックの詳細及びその取扱についての説明は、公式通知によって示す。

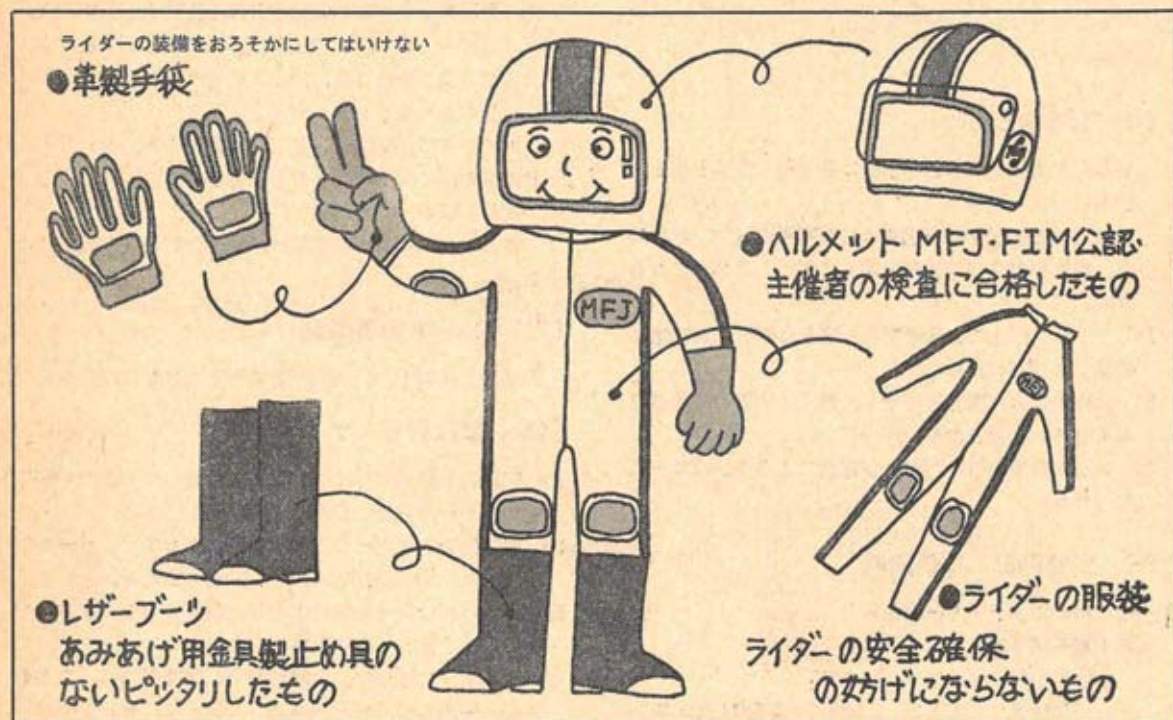
上記に違反した場合は、違反に対する罰則が適用される。

[16] ピット割当て

- (1) 各ピットの使用は、公式通知による。

[17] 出場受付

- (1) 出場受付の時間および場所は、公式通知に示される。
(2) 定められた時間内に、必ず本人が出頭し運転免許証、MFJライセンス、健康管理カード、参加受理書を提示して出場資格の確認を受けなければならない。
(3) 運転免許証を所持していないものは、出場が認められ



ない。

- (4) MFJライセンスを提示できない者は、理由の如何を問わずペナルティ料金(2000円)を支払い、更にその場でMFJ登録料、ライセンス料を支払い仮登録しなければならない。

尚、後日MFJ事務局において二重登録と判明した場合には、仮登録の料金は全額本人宛返還される。

[18] 車輛検査

- (1) 車輛検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールに従って、パドック内の車輛検査区域においておこなわれる。
- (2) タイムスケジュールに示された時間内に、かならずライダー本人が車輛を持参し車輛検査を受けなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が、不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行われぬ。
- (3) 車輛検査受付において、ライダーは、装備品一式および改造申告書を提示しなければならない。
- (4) 車輛検査持込台数はノービスおよびジュニア部門は出場1レースにつき1台に限定、国際A級部門は2台までとする。
- (5) 車輛検査において、規則または安全上出場が不適当と判断された車輛は、公式予選を含む一切の走行を拒否さ

れる。

- (6) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車輛検査を行なうことがある。

[19] ライダーの変更

ライダーの変更は、総則[14](8頁)による。

[20] 出場車輛の変更

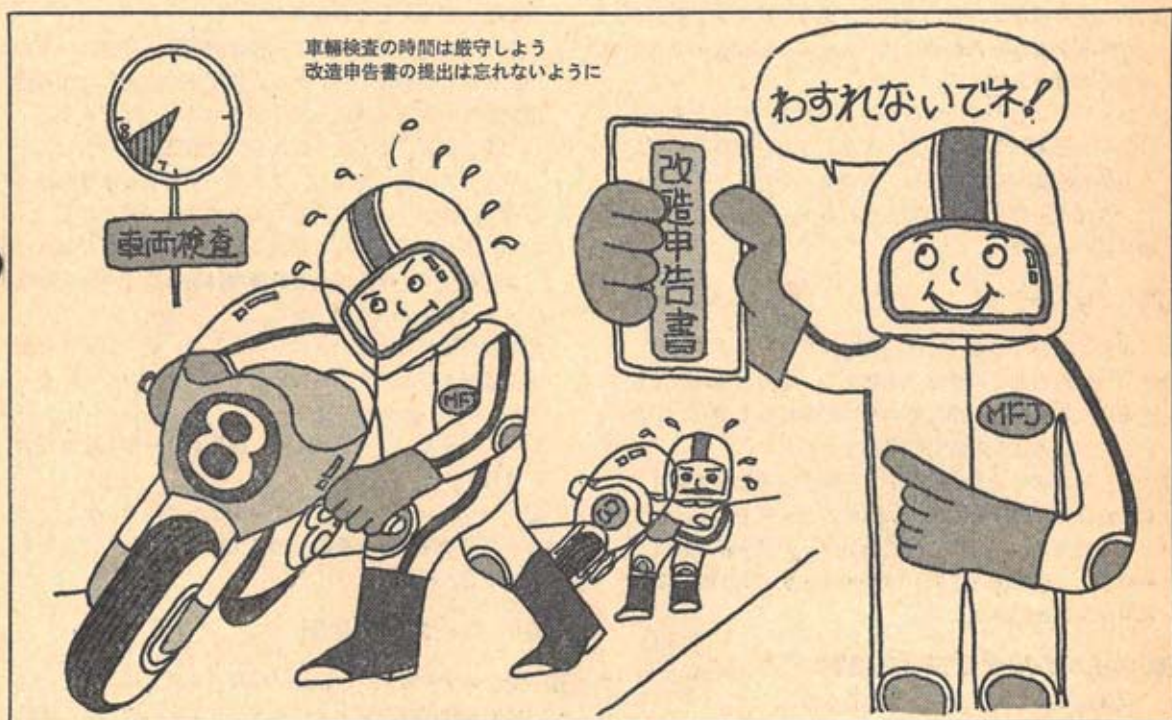
- (1) 車輛の変更は総則[14](8頁)による。
- (2) ただし、車輛変更申請は、同部門、同クラスの車輛に限定され、手数料5000円を添付しなければならない。
- (3) 車輛の変更は、公式予選終了後、如何なる理由があっても認められない。

[21] 公式予選

- (1) 公式予選の内容は付則1[6](19頁)による。
- (2) 公式予選の日程および時間は公式通知またはプログラムに示される。

[22] 決勝レース出場台数

- (1) 決勝レース出場台数は、開催場所により原則として次の通りとする。
- 1) 鈴鹿サーキット・44台まで
 - 2) 筑波サーキット・22台まで



ロードレース

3) スポーツランド菅生・26台まで

[23] スタート

- (1) スタート前のウォーミング・アップは、役員の指示に従い慎重に安全を確認して所定の区域内を、所定の巡回方向で走行しなければならない。
- (2) パドック内においてはウォーミング・アップ走行をすることは禁じられる。
- (3) スタートまでの行動は、付則1. [7]III (19頁)による。
- (4) スタート2分前の表示が出されたあと、ただちにメカニック、ヘルパーは、所定のスタート区域からコース外へ退去しなければならない。違反したものには罰則が適用される。
- (5) スタートは、付則1. [7]IV (19頁)による。
- (6) スタートでエンジンが始動しないライダーは、審判員の指示に従って、ピットにレーサーを押し入れ、整備後、再び審判員の指示に従って、ピットから再スタートすることができる。

[24] スタートにおける反則行為

- (1) スタートラインについて車輛およびライダーは、スタート用意からスタート合図がされてスタートが終るまでに出発合図の統制下にあり、スタート合図がなされるまでに所定の位置から前進したり、あるいはピット要員が規制に従わなかった場合には、スタート審判員によって反則とみなされる。
- (2) スタートにおいて反則を行なった場合、当該ライダーはレース結果に1分を加算するか、1週の減算か、または失格の罰則が適用される。この場合できるだけ速やかに、ライダーのピットに通告されるが、判定に対する抗議は受けられない。

[25] レース

- (1) 走行中の遵守事項は、総則[15] (9頁)による。
- (2) コースは右回りの所定の走路とし、如何なる場合でも逆方向、若しくは、規定外コースを走行してはならない。これに違反した場合は失格とする。
- (3) レースまたは予選中、グランドスタンド前直線部分では、前車を追越す目的か、後車のスリップ・ストリーミングを外す目的以外で、進路を著しく変更する事は許されない。この範囲(区間)はイエローラインが設けられたコース直線部分とする。

200マイルの場合のレース規定

(鈴鹿2&4のスタート方法を含む)

- (1) 1ヒート目のスタート・ポジションは公式予選の成績

により、2ヒート目のスタート・ポジションは1ヒート目の成績によりそれぞれ定められる。

- (2) スタートまでの行動は原則として次の時間割による。
 - ① エンジン停止状態でスタートポジション順に入場、各グリッドに整列
 - ② 選手紹介
 - ③ ウォーミングアップのため1周し、3分前にダミーグリッドに整列、エンジン停止
 - ④ 2分前の表示 メカニック退場、エンジン始動開始
 - ⑤ 1分30秒前の表示 エンジン始動完了 ダミーグリッドから正規のグリッドに移動
 - ⑥ 1分前の表示 各正規のグリッドに整列
- (3) スタート合図は国旗(日の丸)が用いられる。3分前、2分前、1分前、1分30秒前の掲示ボードで示し、30秒前、15秒前は場内アナウンスと国旗の保持スタイルによって示される。国旗は5秒前から徐々に上方に掲げられていき、振り下される瞬間をスタート合図とする。
- (4) スタートはエンジン始動のクラッチスタートとする。
- (5) 第1ヒート、第2ヒートともライダーは途中で1回以上ピットインしなければならない。ピットインの際ピットに用意した10ℓの燃料を完全に補給しなければならない。もし1回のピットインで全量が補給で10ℓきない時は、再度ピットインして残量の補給を終了しなければならない。補給に際して故意に燃料をこぼしたり、危険と思われる行為をしてはならない。
- (6) 第1ヒート、第2ヒート間の休憩時間、車輛は一定の場所に保管が義務づけられる。保管中の車輛に対する修理調整等の作業は次に示す手続き方法が必要である。
 - 1) 大会検査長あてに作業内容(交換部品等を含む)を申請する書類を提出し、ライダーが署名しなければならない。検査長の許可を得た範囲の作業が許される。
 - 2) 作業は保管区域内で競技役員の監視下で行なわなければならない。作業が許されるのは当該ライダーと担当メカニック2名だけである。
 - 3) 許可される作業内容は原則として、第2ヒートの安全確保を目的とするものに限られ、タイヤ、ホイール、ブレーキ部品、チェーン、ショックアブソーバー、ペダル、フットレスト、操作レバー類の交換が含まれる。
 - 4) エンジン、クラッチ、ミッション等のアッセンブリ交換は禁止されるが、部品交換は検査長の許可があれば許される。

[26] レース中の合図

- (1) レース中の合図は、総則[16]III (9頁)による。
- (2) 赤旗の使用はコントロール・ライン上において、競技総監督、または競技総監督の命を受けた代理役員のみ

に限られる。

[27] 停車指示

- (1) レース続行が危険とみなされるライダー又は車輛については競技総監督は、大会審査委員会の同意を得てピットインを命ずるか又は、レースから除外することができる。この決定に対する抗議は受けられない。
- (2) 天災、大事故等不慮の事態が発生した場合は、競技総監督は、赤旗によって全車に対し、その場に停止を指示することができる。

[28] 棄権（リタイア）と停止

- (1) リタイアと停止は、総則[16]IV（9頁）による。
- (2) ライダー本人が負傷その他の理由でリタイア届を提出できないときは、審判員の判定により、リタイアと認めることができる。
- (3) ピット以外の地域でリタイアする場合、ライダーは車輛をレース（または予選）終了までコース審判員の管理下におこななければならない。ただし、審判員から車輛移動を指示された場合は、これに従わなければならない。
- (4) コースを押してピットに帰る場合は必ずコース両サイドのグリーンゾーンの上を歩くこと。
- (5) コース外側よりの援助で作業もしくは、工具・部品を受けてはならない。この場合は失格とされる。

[29] レース終了と順位

- (1) 各レースの終了はチェッカーフラッグによりトップ走者がゴールインしたのち次の時間を経過したときである。
鈴鹿サーキット 4分間
筑波サーキット、スポーツランド蒼生 2分間

[30] 優勝者、入賞者、完走者および順位

優勝者、入賞者、完走者および順位は付則1[8](20頁)による。

200マイルレースの場合の順位

- (1) 各ヒートの順位により次のポイントが与えられ、第1第2ヒートの合計得点によって、総合順位を決定する。同ポイントの場合は、入賞内容で優位のもを上位としそれも同順位の場合は、第2ヒートの順位で優位のもを上位とする。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
位	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
100	90	85	80	75	70	65	60	55	50	45	40	35	30	25
点	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

16位以下のチェッカーフラッグを受けた

完走者は→20点

その他チェッカーフラッグを受けられなかった

完走者は→15点

10周以上走行した完走回数に達しなかった

者は→10点

スタート後1周以上走行したが10周に達しなかった

者は→5点

スタートしなかったか、1周もできなかった

者は→0点

- (2) 完走者は両ヒートの合計周回数により決定される。

[31] レース終了後の車輛の保管と再検査

- (1) チェッカー・フラッグを振られた車輛は、所定の位置より役員の誘導に従って車輛保管区域へ入らなければならない。
- (2) 上位入賞車輛は騒音測定およびエンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再検査をおこなう。

[32] レースおよび大会の延期中止等

- (1) 大会は本規則に発表した日程を、変更または延期されることはない。
- (2) レースまたは大会が中止された場合、参加者が、支払った出場料、保険料は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

[33] 抗議

- (1) 抗議は、総則[21]（10頁）による。
- (2) 車輛の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車輛の分解等に要した費用は検査長が算定するものとする。

[34] 違反に対する罰則

競技規則の違反行為に対する罰則は、総則[23]（11頁）による。

[35] 本規則の解釈

本特別規則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑申立てができる。なおこの解答は大会審査委員会の解釈、決定を最終的なものとして示される。

[36] 本規則の施行

本規則は、各競技大会の参加申込受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項はMFJ国内競技規則による。

昭和54年1月1日

大会事務局長



モトクロス規則・目次

- [1] 適用の範囲.....31
- [2] モトクロス.....31
- [3] 出場車輛.....31
- [4] ライダーの装備.....33
- [5] 公式予選（オフィシャル
 ブラクティス）.....33
- [6] レース.....33
- [7] 優勝者、入賞者、完走者および順位...34

MFJ国内競技規則 付則 2

モトクロス規則

〔1〕 適用の範囲

以下に記す規則は総則と共に全ての国内モトクロス競技会に適用される。

〔2〕 モトクロス

モトクロスとは、走路面に凹凸、急勾配、走行方向が急変化する等の部分のある所で行なわれるクロスカントリー・レースであり、総則およびこの付則により管理される。

〔3〕 出場車輛

車輛は下記の改造の限度と仕様を満し、安全上完全に整備されているものでなければならない。

なお、改造されて型式（モデル）が判明できないような車輛は出場することができない。

I. クラス区分

車輛のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は、特別規則に示される。

クラス	最小総排気量	最大総排気量
50cc	—	50cc
90cc	51cc	~ 90cc
125cc	91cc	~ 125cc
250cc	126cc	~ 250cc
500cc	251cc	~ 500cc

II. 改造の限度

§ 1. 国際B級部門

車輛の銘柄型式は制限しない。

改造をおこなう場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 半乾燥重量は下記の最低重量を満していなければならない。

らない。

1) 半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車輛重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

2) 車輛最低重量は次の通りである。

125cc 80kg 250cc 88kg 500cc 95kg

3) ダミーウェイトを装着してはならない。

(2) 騒音は下記の条件を満していなければならない。

1) 車輛には、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。

2) 騒音はFIM方式による測定方法で110dB(A)以下でなければならない。

3) FIM方式とは排気管後方0.5m、後方45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4サイクルの場合11m/s、2サイクルの場合13m/sでエンジンを回転させている騒音を測定する方法をいう。

(3) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

§ 2. 国際B級、ジュニア、ノービス部門

車輛は、一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

その銘柄、型式の詳細は公示に示される。

機械加工または仕上げによる修正、調整、軽量化、もしくは形状の変更を行う場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 機械的伸長、他の物質の添加又は分子構造や金属面に変更をもたらす様な処理（焼き入れ等）および材質の変更をしてはならない。

(2) フレームの基本骨格は公認型式のものでなければならないが、補強等は行ってもよい。

(3) 異った機種エンジンの、フレームの組み合わせは公認車輛同士に限りおこなうことができる。ただし、小排気量車のフレームと大排気量車のエンジンを組み合わせることはできない。

(4) クランクケース本体やクランクシャフト・アッセンブリーは公認型式のものでなければならない。

1) クランクウェブのバランス穴の充填は認められる。

2) ユニット・コントラクション(単体構造エンジン)の場合のクランクケース本体とは変速機部分も含まれる。

(5) 変速機の段数は6段を限度とする。

ただし、変速ギアはクランクケースおよびミッションケース外に増設してはならない。

(6) 冷却方式を変更してはならない。

(7) 弁形式を変更してはならない。

付則 2

(8) 燃料吸入方式を変更（フェーエルインジェクターの取付等）してはならない。

(9) 気化器の個数は気筒あたり1個を限度とする。
（ダブルベンチュリー）の場合は2個とみなす。

00 半乾燥重量は下記の最低重量を満していなければならない。

1) 半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車輛重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

2) 車輛最低重量は次の通りである。
90cc 73kg 125cc 80kg 250cc 88kg

3) ダミーウェイトを装着してはならない。

01 騒音は下記の条件を満していなければならない。

1) 車輛は、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。

2) 騒音はFIM方式による測定方法で、110dB(A)以下でなければならない。

3) FIM方式とは排気管後方0.5m、後方45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4サイクルの場合11m/s、2サイクルの場合13m/sでエンジンを回転させている騒音を測定する方法をいう。

02 構成部品

1) 下記部品はMFJが公認したものでなければならない。

○ミッション ○シリンダー ○シリンダーヘッド

2) 下記部品はMFJに市販届出申請を行ない承認されたものでなければならない。

○フロントクッション ○リアクッション

3) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

§ 3. プロダクション

(1) 車輛は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、M. F. J. が公認したものでなければならない。

その銘柄、型式の詳細は公示に示される。

(2) 変更してもよい部品。

1) ハンドルおよびその附属品

2) コントロール・ケーブルワイヤー類

3) タイヤ 4) フートレスト

5) フェンダー 6) シート

7) 消音器の内部 8) エアクリーナ

9) 点火栓 10) メインスイッチ

11) ペダル類 12) スプロケット

13) チェンケース

(3) 取りはずさなければならない部品。

1) スタンド類 2) キャリア類

3) タンデム・フートレスト

4) 車輛番号標板（ブラケットごと）

5) バックミラー

6) ライト類およびガラス類（ただし、レンズおよびライト類の飛散防止を施せばよい）

(4) とりつけなければならない部品。

1) 競技用レースナンバープレート

2) ハンドルレバーエンド

(5) 騒音は下記の条件を満していなければならない。

1) 車輛は、有効かつ外見で判断しうる消音器が装着されていなければならない。

2) 騒音はFIM方式による測定方法は、110dB(A)以下でなければならない。

3) FIM方式とは排気管後方0.5m、後方45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4サイクルの場合11m/s、2サイクルの場合13m/sでエンジンを回転させている騒音を測定する方法をいう。

(6) 上記、(2)(3)(4)の各項に記載された部品以外は一切変更改造をおこなってはならない。

III. 仕様

(1) 排気管および消音器

2) 規定の騒音規制値を満足していなければならない

2) その長さは後輪後端を通る垂直線より突出してはならない。

(2) タイヤ

タイヤにチェン・スパイク等を加工装備してはならない。

(3) 過給

過給を取付けたり過給したりしてはならない。

(4) クラッチとブレーキレバーおよびペダル

1) クラッチレバーおよびブレーキレバーはその末端が直径19mm以上の球状に作られ、容易にとれるものであってはならない。

2) ブレーキペダルおよびギアシフトレバーの位置は自由である。ただしその先端は安全上丸められていなければならない。

(5) ブレーキ

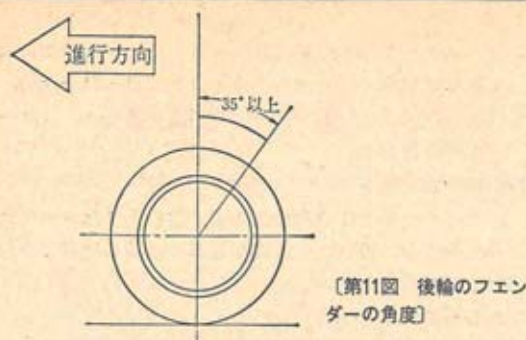
前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキをそなえていなければならない。

(6) フェンダー

前後車輪には有効なフェンダーが装備されていなければならない。

特に後輪はその後部上四半分の上側から35°以上覆われていることが望ましい。〔第11図参照〕

ただし、前輪フェンダーについては、主催者が認めればとりはずしてもよい。



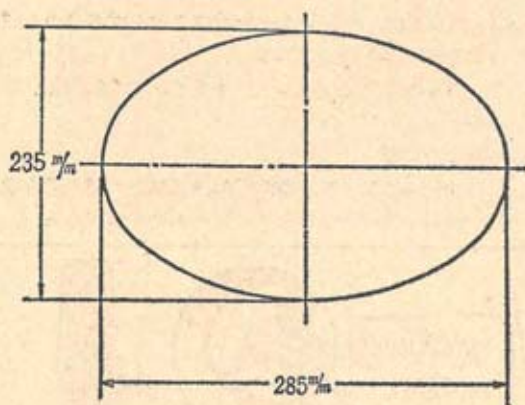
(7) 取りはずさなければならない部品。

ライト類、バックミラー、スタンド類、荷台、およびチェーンケース（プロダクションのみチェーンケースはこの限りではない）取りはずさなければならない。

(8) ナンバープレート

1) ナンバープレートの大きさ

ナンバープレートは、第12図に示す大きさのものでなければならない。



〔第12図 ナンバープレートの大きさ〕

2) 取り付け方法

ナンバープレートは、車輻の前面に1枚を横向きに垂直につけ、車輻の両側面に各1枚を垂直に取り付けなければならない。

3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

プロダクション・白地に黒文字

ノービス部門・白地に黒文字

ジュニア部門・黄地に黒文字

国際B級部門・緑地に白文字

国際A級部門・赤地に白文字

4) ナンバーの字体

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ば

った字体や斜体であってはならない。

例 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

悪い例

6

7

(9) 他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような構造をしてはならない。

〔4〕 ライダーの装備

I. ヘルメット

ヘルメットは、M. F. J. 普及型ヘルメット規格以上の性能を有するもので、M. F. J. または F I M が公認し、主催者の検査に合格したものでなければならないが、日本工業規格 J. I. S. T 8133 の2種、U. S. A. S. I. STANDARD Z 90-1-1966、と同等以上のものが望ましい。M. F. J. の公認したヘルメットには、M. F. J. 認証マークが貼付されている。

II. ゴoggles

ゴogglesおよびマスクの使用は規定しない。

III. ライダーの服装

- (1) 服装はレース中ライダーの身体の安全を確保し、操縦技術を妨げるものであってはならない。
- (2) 下半身は皮製または革と同等以上の耐摩耗性耐熱性を有する材質のズボンを着用しなければならない。
- (3) 上衣は特に規制しないが、安全で自由な動作をさまたげず、丈夫なものを着用しなければならない。
- (4) 革手袋、突出部品のない革靴を着用しなければならない。

〔5〕 公式予選

I. 公式予選の日程

- (1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- (2) 公式予選の日程は特別規則に示される。

II. 公式予選の内容

- (1) そのクラスの出場申し込み台数が規定の同時出走最多台数（30台）を大きく越えた場合、決勝進出者決定のための公式予選がおこなわれる。
- (2) 公式予選は、原則として特別規則に示される周回数レースによっておこなわれる。
- (3) 決勝進出台数は特別規則に示される。

〔6〕 レース

I. スタート位置

レースにおけるスタート位置の決定方法は特別規則に

付則 2

示される。

II. スタートまでの行動

- (1) ライダーは、特別規則に定められた時間割りを厳守しなければならない。
- (2) ライダーは、レース直前のチェックの後、車輛とともに指定区域内に待機していなければならない。
- (3) エンジンのウォーミング・アップは特別規則に定められた時間内でだけおこなわなければならない。

III. スタート

- (1) スタートの方法については、原則として各部門ともエンジンスタートとし、その際、かならずヘルメット上部に左手を当て待機し、合図によりスタートすることとする。

ただし、スターティングマシンを使用する場合は上記の待機姿勢をとらなくてもよい。

- (2) スタート位置は、すべて正規のスタート・ラインからなされたものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップは一切考慮されない。
- (3) スターティングマシンが使用される場合は、車輛の位置は原則としてスターティングマシンの後方2.5mの区画内とする。
- (4) スタートの合図は、スタート係が国旗を振ることによって行われる。ただし、スターティングマシンを使用する場合はこの限りでない。

- (5) スタート合図以前にスタート・ラインを出たものがあつた場合、すなわちフライングのあつた場合は、スタート・ライン前方において赤旗が振られ、スタートをやりなおす。

IV. コースアウト

ライダーは走行中やむをえず、定められたコースを外れ出た場合、再びコースにもどるには同じ地点よりなされなければならない。

V. レース終了

レースの終了は優勝者の完走後、チェッカーフラッグマーシャルが定位置をはなれること又は大会役員車がコースを一巡することによって示さる。

[7] 優勝者、入賞者、完走者および順位

I. 優勝者

優勝者は、規定のレース時間および周回数を最短時間で完走したライダーである。

II. 入賞者および順位

- (1) 入賞者は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定される。
- (2) 同周進数の場合は、ゴールラインの通過順位による。

III. 完走者

各レースにおいて、優勝者の80%以上の周回数を完了してチェッカーを受けたライダーが完走者である。



モトクロス

'79全日本選手権大会特別規則



目次

- | | | | |
|---|----|----------------------------|----|
| [1] 開催競技会の日程, 名称, 主催,
開催場所, 出場申込み期間..... | 36 | [18] 車輛検査..... | 40 |
| [2] 運営実行組織..... | 39 | [19] ライダーの変更..... | 41 |
| [3] 公式通知・タイムスケジュール..... | 39 | [20] 車輛の変更..... | 41 |
| [4] 開催種目..... | 39 | [21] 部品の変更..... | 41 |
| [5] 競技内容..... | 39 | [22] 自由練習および公式練習..... | 41 |
| [6] 参加定員..... | 39 | [23] 公式予選..... | 41 |
| [7] 参加資格..... | 39 | [24] スタート..... | 41 |
| [8] 出場申し込み..... | 39 | [25] レース..... | 42 |
| [9] 出場料およびMFJ選手共済組合費..... | 39 | [26] レース中の合図..... | 42 |
| [10] 参加受理..... | 39 | [27] レース終了..... | 42 |
| [11] 賞およびポイント..... | 39 | [28] 優勝者, 入賞者..... | 42 |
| [12] 出場車輛..... | 40 | [29] 入賞車輛の検査..... | 42 |
| [13] 競技番号, ナンバー..... | 40 | [30] レースおよび大会の延期, 中止等..... | 42 |
| [14] ライダーの装備..... | 40 | [31] 抗議..... | 42 |
| [15] ガソリンおよびオイル..... | 40 | [32] レース中の違反行為に対する罰則..... | 42 |
| [16] ビットエリア..... | 40 | [33] 本規則の解釈..... | 42 |
| [17] 出場受付..... | 40 | [34] 本規則の施行..... | 42 |

モトクロス

本競技会シリーズは、日本モーターサイクル協会（MFJ）公認のもとに、MFJ国内競技規則に従い開催される。本特別規則は、1979年度、全日本選手権シリーズ全戦に適用される。

〔1〕 開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間

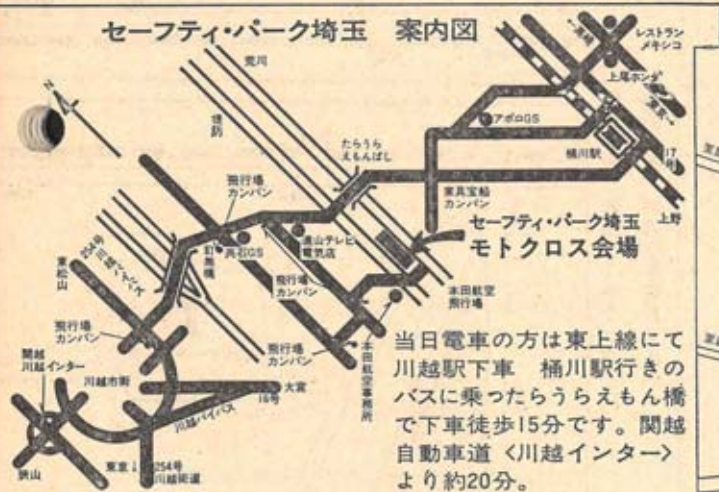
日 程	大会名称	主 催	開 催 場 所	出場申込み期間
3月17日(土) 18日(日)	全日本選手権 シリーズ第1戦 関東モトクロス大会 (国際A級2ヒート制) (N地方大会併催)	関東信越モーター サイクル協会 ☎108 東京都港区港南 3-3-10 東京都軽自動車協会内 Tel 03(472)6241	セフティーパーク埼玉 埼玉県比企郡川島町 (本田航空飛行場内)	2月16日(金) ? 2月26日(月) 消印有効
3月31日(土) 4月1日(日)	全日本選手権 シリーズ第2戦 山口モトクロス大会 (国際A級2ヒート制) (N地方大会併催)	MFJ 西日本スポーツ委員会 ☎730 広島市松川町3-19 廣島島英油内 Tel 0822(61)8386	西日本サーキット 山口県美弥市原保	3月7日(金) ? 3月20日(月) 消印有効
4月29日(日)	全日本選手権 シリーズ第3戦 九州モトクロス大会 (国際A級1ヒート制) (N地方大会併催)	MFJ 九州地方本部 ☎812 福岡市東区箱崎埠頭 2-5-16 福岡県軽自動車協会内 Tel 092(641)0431	星野特設コース 福岡県八女郡星野村	3月30日(金) ? 4月9日(月) 消印有効
5月12日(土) 13日(日)	全日本選手権 シリーズ第4戦 鈴鹿モトクロス大会 (国際A級2ヒート制) (N地方大会併催)	鈴鹿サーキット ☎510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 Tel 0593(78)1111	鈴鹿サーキット モトクロス場 三重県鈴鹿市稲生町	4月13日(金) ? 4月23日(月) 消印有効
6月2日(土) 3日(日)	全日本選手権 シリーズ第5戦 東北モトクロス大会 (国際A級2ヒート制) (N地方大会併催)	MFJ東北スポーツ委員会 ☎980 仙台市北根字前沢69 アイビーモータース内 Tel 0222(73)0475	スポーツランド菅生 宮城県柴田郡村田町菅生	5月4日(金) ? 5月14日(月) 消印有効
7月7日(土) 8日(日)	全日本選手権 シリーズ第6戦 札幌モトクロス大会 (国際A級2ヒート制) (N地方大会併催)	北海道 モーターサイクル協会 ☎065 札幌市東区東雁来町52 札幌地区軽自動車協会内 Tel 011(781)7468	大和ルスツスキー場 特設コース 北海道虻田郡留寿都村	6月8日(金) ? 6月18日(月) 消印有効

日 程	大 会 名 称	主 催	開 催 場 所	出場申込期間
7月28日(土) 29日(日)	全日本選手権 シリーズ第7戦 東北モトクロス大会 (国際A級2ヒート制) (N地方大会併催)	MFJ 東北スポーツ委員会 ☎980 仙台市北根字前沢69 アイビーモータース内 Tel 0222(73)0475	青 森 空 港	6月29日(金) 7月9日(月) 消印有効
9月22日(土) 23日(日)	全日本選手権 シリーズ第8戦 松山モトクロス大会 (国際A級2ヒート制) (N地方大会併催)	MFJ 四 国 地 方 本 部 ☎780 高知市棧橋通 3-25-27 高知スズキ内 Tel 0888(31)4161	松 山 オ ー ト テ ッ ク 愛媛県松山市五明	8月24日(金) 9月3日(月) 消印有効
10月13日(土) 14日(月)	全日本選手権 シリーズ第9戦 第16回 モトクロス 日本グランプリ大会 (国際A級2ヒート制)	日本モーターサイクル協会 (MFJ) ☎104 東京都中央区銀座 1-9-12 大盛ビル内 Tel 03(561)8566	ス ポ ー ツ ラ ン ド 菅 生 宮城県柴田郡村田町菅生	8月31日(金) 9月12日(水) 消印有効

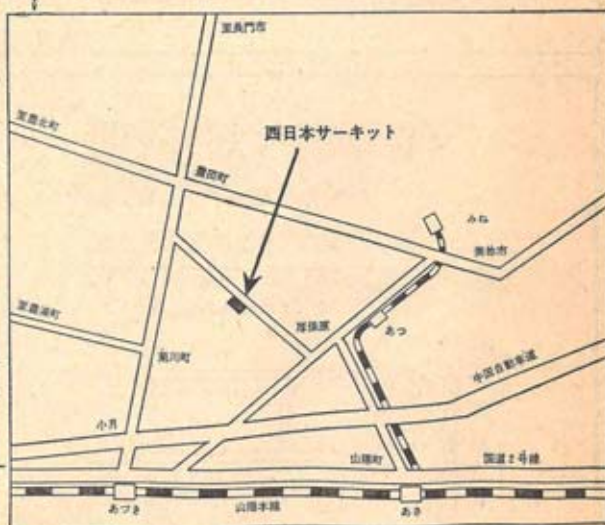
〔開催場所〕

第1戦 セフティーパーク埼玉

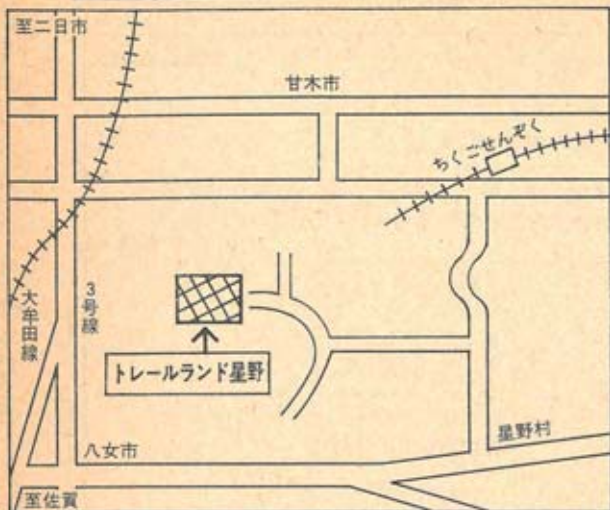
セフティーパーク埼玉 案内図



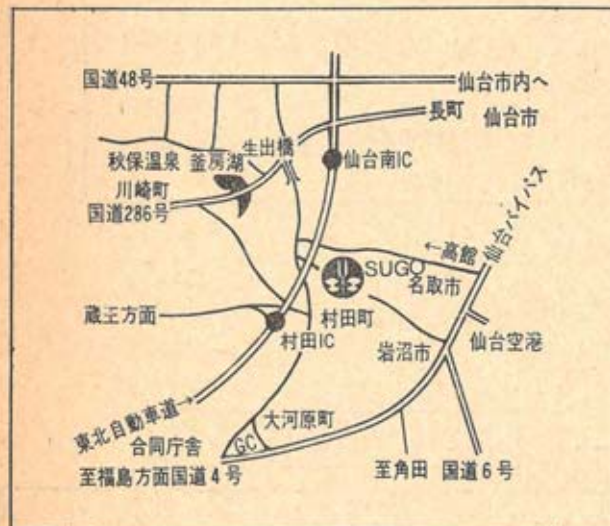
第2戦 西日本サーキット



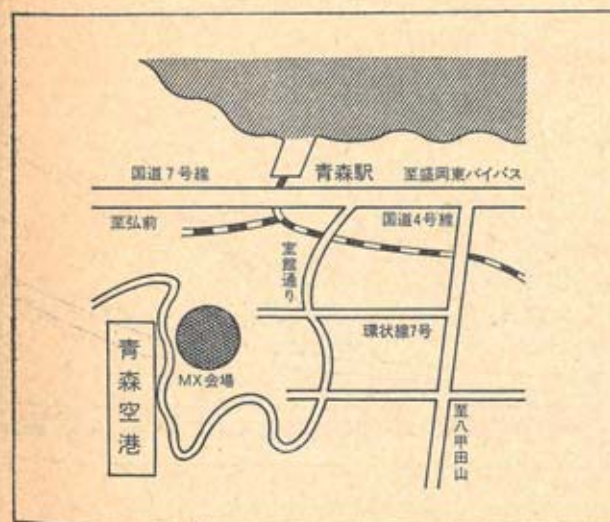
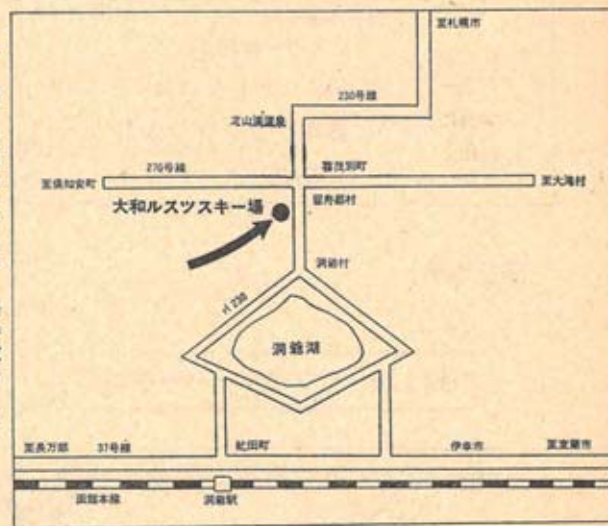
モトクロス



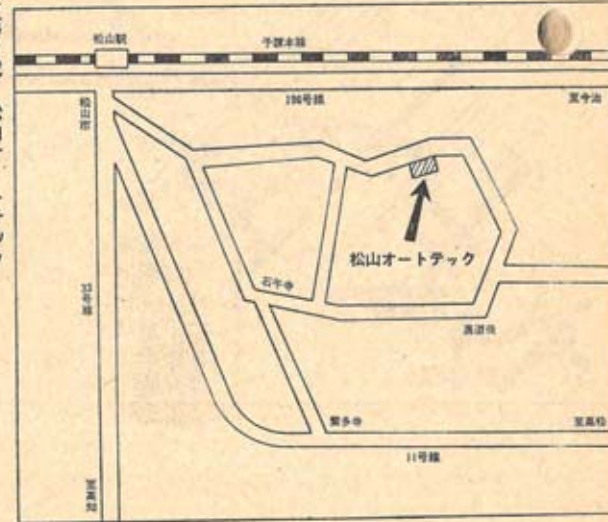
▶ 第4戦、鈴鹿モトクロス場
▶ 第3戦 星野特設コース



▶ 第6戦 大和ルーツスキー場特設コース
▶ 第5戦 大和ルーツスキー場特設コース
▶ 第9戦 スポーツランド菅生



▶ 第8戦 松山オートテック
▶ 第7戦 青森空港特設コース



〔2〕 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

〔3〕 公式通知、タイムスケジュール

公式通知および詳細なタイムスケジュールは、申込締切後発送される。

〔4〕 開催種目

(1) 全日本選手権シリーズの競技部門、クラス区分は下記のとおりである。

部 門	ジュニア	国際B級	国際A級
	90cc	—	—
クラス	125cc	125cc	125cc
	250cc	250cc	250cc

(2) 大会により当日または前日にノービス部門の競技が行なわれるが、この場合のノービス部門には全日本選手権はかけられない。

(3) 日本GP大会にはブロック対抗ノービス選抜レース(125cc)が行なわれる。なおジュニア90ccクラスは開催されない。

〔5〕 競技内容

ノービス	10分+2周
ジュニア	15分+2周
国際B級	30分+2周
国際A級	40分+2周

(注) 上記競技内容は天候等の都合により、大会審査委員会の決定によって変更される場合がある。

〔6〕 参加定員

定員は定めない。

〔7〕 参加資格

(1) 参加者およびライダーは、MFJ国内競技規則、総則〔4〕(6頁)に合致していなければならない。

(2) 日本GP大会の参加資格

1) ノービス部門。ブロック対抗ノービス選抜レース(125cc)出場者は、各地方スポーツ委員会により各ブロック4名が推薦される。

2) ジュニア部門。9月25日までの全日本選手権シリーズ戦および地方選手権シリーズ戦のポイント合計で各ブロックより125cc、250ccの各クラス上位7名。

3) 国際B級部門。9月25日までの全日本選手権シリー

ズ戦において各クラスともランキング上位30名+2名。

〔8〕 出場申し込み

(1) 申し込み場所 申し込み場所は各主催者住所とする。

(2) 出場申し込み

1) 各部門とも所定の申込書に必要な事項を全て記入の上、出場料およびMFJ選手共済組合費(通称MFJ保険)を添えて提出しなければならない。

2) 2クラス以上に出場を申し込み場合でも、1枚の申し込み書に記載しなければならない。

3) 郵送の場合は現金書留とし、締切当日の消印のあるものまでが有効となる。

4) 締切日以後の申し込みおよび電話による申し込みは一切受け付けない。

〔9〕 出場料およびMFJ選手共済組合費

(J, 国際B級, 国際A級)

出場料(1クラス) 3,900円

(2クラス目より) 3,500円

(併催N地方大会) 出場料(1クラス) 2,900円

(2クラス目より) 2,500円

MFJ選手共済組合費(通称MFJ保険) 600円

〔10〕 参加受理

(1) 必要事項の全てが明記された出場申込書、必要金額が大会事務局に受理された時点で、参加受理書が発送される。

(2) 一旦受理された出場料(共済費)はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかったものも同様である。

(3) 大会が中止された場合、参加が拒否された場合(申込者が必要な手続を怠った場合はこれにはあてはまらない)にのみ出場料(共済費)が返還される。

〔11〕 賞およびポイント

(1) 次の賞が授与される。

(日本GPを除くシリーズ戦)

① 正賞各部門各クラス、優勝～6位。

② 特別賞

③ 参加賞

(日本GP)

① 正賞各部門各クラス、優勝～6位。

② 最優秀選手賞(各部門)

③ 最優秀クラブ賞

④ 最優秀ブロック賞(MFJブロック優勝旗)

⑤ ノービスブロック対抗賞

ブロック賞(1位~3位), 個人賞(1位~6位)

- ⑥ 特別賞
- ⑦ 参加賞
- (2) 日本GP大会における賞の規定
 - ① 最優秀クラブ賞は, MFJ公認クラブで, そのクラブの全入賞者の得点を合計し, 最多得点を獲得したクラブに授与される。
 - ② 最優秀クラブ賞, 最優秀ブロック賞およびノービスブロック対抗賞の得点集計は, 1位15点, 2位12点, 3位10点, 4位8点, 5位6点, 6位5点, 7位4点, 8位3点, 9位2点, 10位1点により行なわれる。
- (3) 全日本選手権ランキング・ポイント

ポイントは, 総則[8]II(7頁)によるが2ヒートの場合には, 各ヒート毎にポイントが与えられる。
なお, 日本GP大会のポイントには3点が加算される。
- (4) 賞およびポイントの制限

賞およびポイントの制限は, 総則[8]III(7頁)による。

[12] 出場車輛

車輛は, 付則2[3](31頁)を遵守しなければならない。

[13] 競技番号・ナンバー

- (1) 国際A級および国際B級の一部(20番まで)のライダーには, 付録に示す通り年間指定ナンバーが割当てられる。
- (2) 他のライダーには, 主催者によってナンバーが割当てられ, 参加受理書に記入して通知される。
- (3) ナンバーは, 車輛検査までに, 規定の書体および色で記入しなければならない。
- (4) 年間指定ナンバーを与えられているライダーは, ヘルメットの両側にナンバーを記入しなければならない。
- (5) ナンバーの状態は, 車輛検査時に検査員によって点検され, 判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
- (6) レース中, ナンバープレート, 配布されたゼッケンおよびヘルメットナンバーシールを装着せずに走行した場合, また, まちがったナンバーを装着して走行した場合はその周回を記録されない。

[14] ライダーの装備

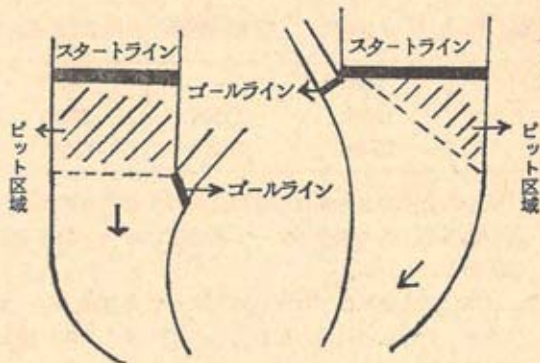
- (1) ライダーの服装は, 付則2[4]III(33頁)による。
- (2) M.F.J. 認証マークが貼付されていない公認ヘルメットを使用しているものについては100円のパナルティを課す。

[15] ガソリンおよびオイル

- (1) ガソリンおよびオイルは, 総則[12](8頁)による。
- (2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって主催者から指定された時は, 当該ガソリンを使用しなければならない。

[16] ピットエリア

ピットエリアは主催者により指定される。特に指定のない場合のピットエリアはスタートラインからゴールラインまでの周回走行にさしつかえないコース上である。(下図参照)



[17] 出場受付

- (1) 出場受付の時間および場所は, 公式通知に示される。
- (2) 定められた時間内に, かならずライダー本人が出頭し運転免許証, MFJライセンス, 健康保険証, 参加受理書を提示して, 当日の資格を判定されなければならない。
- (3) 運転免許証を所持していない者は, 原則として出場を認められない。
- (4) MFJライセンスを提示できない者は, 理由の如何を問わずパナルティ料金(2000円)を支払い, 更にその場でMFJ登録料, ライセンス料を支払い仮登録しなければならない。
尚, 後日MFJ事務局において二重登録と判明した場合には, 仮登録の料金は全額本人宛返還される。

[18] 車輛検査

- (1) 車輛検査は, 公式通知に示されたタイムスケジュールに従って, パドック内の車輛検査区域において行われる。
- (2) タイムスケジュールに示された時間内に, かならずライダー本人が車輛を持参し車輛検査を受けなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が, 不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行われな

い。

- (3) 車輛検査持込台数は1クラスにつき、ノービス（地方大会）ジュニア、国際B級部門は1台に限定、国際A級部門のライダーは制限を設けない。
- (4) 車輛検査において、規則または安全上出場が不相当と判定された車輛は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。
- (5) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時検査を行なうことができる。

[19] ライダーの変更

- (1) ライダーの変更は総則[14]（8頁）による。

[20] 車輛の変更

- (1) 車輛の変更は総則[14]（8頁）による。
- (2) 2ヒート・システムの場合、1ヒート目と2ヒート目の車輛の変更は認められない。

[21] 部品の変更

エンジン・アッセンブリーの変更は認められない。
2ヒートの場合1ヒート終了後、すべての出走車輛は封印される。尚、封印された部品以外のものの交換は許される。

[22] 自由練習および公式練習

- (1) 競技前日の練習は行なわない。
- (2) ライダーは主催者が安全上設けた公式練習を走らなければならない。

[23] 公式予選

- (1) 公式予選の内容は、付則2[5]（33頁）による。
- (2) 公式予選の有無、周回数、決勝進出台数、その他の詳細は公式通知またはプログラム等に示される。
- (3) 公式予選の組分けは公式練習終了以前に発表される。

[24] スタート

- (1) スタートの方法については原則として各部門ともスターティングマシンを使用する。ただしスターティングマシンを使用しないエンジンスタートの際は必ずヘルメット上部に左手を当てて待機し、合図によりスタートすることとする。
- (2) 同時出走最多台数は、原則として30台とする。
- (3) 決勝スタート位置は予選および予選のないクラスは抽選によるものとし、予選のあるクラスは予選順位により上位を優先して自由選択するものとする。
- (4) 2ヒート制の場合は、1ヒートのスタート位置は抽選



により決定し、2ヒート目のスタート位置は、1ヒート目順位を優先してスタート位置を自由選択する。

- (5) エンジンのウォーミングアップは主催者の指示する時間内だけで行なわれなければならない。
- (6) ウォーミングアップ以後、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は(キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後)ライダーからタイムのサインがあっても、スタート係はこれを考慮しない。

[25] レース

- (1) レース中の遵守事項は、総則[15](9頁)による。
- (2) ピットエリア内で車輻の整備などを行えるメカニックは1名に限られ、他のメカニックは如何なる場所において如何なる直接的援助もすることはできない。
- (3) レース中、消音器またはエキスパンションチャンパーがはずれた場合は、当該ライダーに対して黒旗が示され、ピットインし、修理の後、審判長の許可を得た上で再走が許される。

[26] レース中の合図

- (1) レース中の合図は総則[16]Ⅲ(9頁)による。
- (2) 競技内容に示されている規定の時間を経過した後、トップ走者がゴール地点に現われた時点から、残り周回数を示す合図が出される。

[27] レース終了

レースの終了は付則2[6]Ⅴ(34頁)による。

[28] 優勝者、入賞者、完走者および順位

各レースにおける優勝者、入賞者、完走者および順位は、付則2[7](34頁)による。

2ヒートシステムの総合順位決定方法。

- (1) 各ヒートごとに次に託す得点が与えられる。1位15点、2位12点、3位10点、4位8点、5位6点、6位5点、7位4点、8位3点、9位2点、10位1点。
- (2) 総合順位決定は、①合計得点の多いもの、②合計周回数の多いもの、③着順上位のあるもの、④2ヒート目の成績に従っておこなわれる。

[29] 入賞車輻の検査

- (1) レース終了後、入賞となったレーサーは、直ちに車検員によって、決められた区域内に管理され、暫定結果発表後30分保管され、必要に応じて検査される。
- (2) 入賞車輻は車輻重量および騒音が測定され、規定を満たしていないレーサーは失格となる。

[30] レースおよび大会の延期中止等

- (1) 大会は本規則に発表した日程を変更または延期されることはない。
- (2) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料(共済費)を返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

[31] 抗議

- (1) 抗議は、総則[21](10頁)による。
- (2) 車輻の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車輻の分解等に要した費用は検査長が算定するものとする。
- (3) 車輻の分解検査に立合う者は、検査長および抗議を受けた当事者のみとする。

[32] レース中の違反行為に対する罰則

レース中の違反行為については、競技総監督ならびに大会審査委員会の権限において、下記の罰則を課せられることがある。

- (1) 故意に走路を妨害した場合、失格とする。
- (2) レース中に他の援助を受けた場合、失格とする。
- (3) コース上で逆走した場合、失格とする。
- (4) コース審判により示された信号旗に従わなかった場合失格とする。
- (5) 1度コース外に出て他の所より再びレースに復帰した場合失格とする。
- (6) ウォーミングアップ中止後、エンジンを始動させた場合、1周減算とする。
- (7) フライングスタートが確認された場合、その旨ライダー本人に通告される。黒旗で合図されたライダーは、その場で1分間停止し競技役員の指示によって再スタートする。
- (8) 同じライダーによってフライングが2度繰返された場合は失格とする。

[33] 本規則の解釈

本規則および競技に関する疑義は、大会事務局あて質疑申立てができる。なお、この解答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

[34] 本規則の施行

本規則は出場申込受付日より有効となる。
尚、本規則に示されていない事項は、MF J国内競技規則による。

昭和54年1月1日

大会事務局長



トライアル規則・目次

[1] トライアル (オブザベーション・ トライアル)	44	[8] セクション.....	45
[2] 適用の範囲.....	44	[9] タイムキーピング.....	46
[3] 賞.....	44	[10] 競技の進行.....	46
[4] 出場車両.....	44	[11] ペナルティ.....	46
[5] ライダーの装備.....	45	[12] ペナルティの定義.....	46
[6] コース.....	45	[13] 競技結果.....	47
[7] サインオン, サインオフ.....	45	[14] 同点者の判定.....	47
		★ トライアルタイヤ公認規格.....	47

MFJ国内競技規則 付則 3

トライアル規則

〔1〕 トライアル

(オブザーベーション・トライアル)

オブザーベーション・トライアルとは、自然の地形に設定された条件(セクション、コース)に、多数のライダーが規定された1日または2日以上の大大会期間中に挑み、操縦の確実性とタイムキーピングにより結果が表わされる競技である。

〔2〕 適用の範囲

以下に記す規則は総則と共に全てのトライアル競技会に適用される。

〔3〕 賞

原則として次の通り賞を定める。

・ベストパフォーマンス(B・P)

出場者中最も減点の少ない者

・ランナーアップ(R・U) 二番目に減点の少ない者

・ファーストクラス B・P、R・Uを含む上位20%の者

・セコンドクラス 次の10%の者

〔4〕 出場車輛

出場車輛(以下車輛という)は下記の改造の限度と仕様を満し、安全上完全に整備されているものでなければならない。

なお、改造されて型式(モデル)が判明できないような車輛は出場することができない。

I. 競技が一般公道を使用する場合の車輛の改造限度

出場車輛は、運輸省認定車で、車輛保安基準に合致し、一般公道を走れる状態のものでなければならない。

ナンバープレート、ライト、スピードメーター、クラクション、フラッシャーランプ、バックミラー、ブレーキランプ、消音器等の保安部品を装着していなければならない。尚、ガラス類には飛散防止を施さなければならない。

II. 競技が一般公道を使用しない場合の車輛の改造限度

§ 1. 国際A級部門

出場車輛の銘柄、型式は規定しない。

改造仕上げ、調整をする場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 騒音はMFJ方式による測定方法で、80dB(A)以下でなければならない。

MFJ方式とは、排気管後方位15m、地上1.2mの位置にマイクロフォンを設置し、排気量別に下記の回転数でエンジンを回転させている時の静止騒音を測定する方法をいう。

—	～	90cc	6,000rpm
91cc	～	125cc	5,500rpm
126cc	～	250cc	5,000rpm
251cc	～	500cc	4,500rpm
501cc	～	—	4,000rpm

(2) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

§ 2. ジュニア部門、ノービス部門

出場車輛は工場レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。その銘柄、型式の詳細は公示に示される。改造仕上げ、調整をおこなう場合は、下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) 騒音はMFJ方式による測定方法で、80dB(A)以下でなければならない。

MFJ方式とは、排気管後方位15m、地上1.2mの位置にマイクロフォンを設置し、排気量別に下記の回転数でエンジンを回転させている時の静止騒音を測定する方法をいう。

—	～	90cc	6,000rpm
91cc	～	125cc	5,500rpm
126cc	～	250cc	5,000rpm
251cc	～	500cc	4,500rpm
501cc	～	—	4,000rpm

(2) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

III. 仕様

(1) 排気管および消音器

排気管および消音器は規定の騒音規制値を満足していなければならない。

(2) タイヤ

1) タイヤはMFJに公認申請を行ない承認されたものでなければならない。

ただし、エキスパート部門は、MFJ公認規格に合致していれば、この限りではない。

2) タイヤに改造を加えてはならない。

3) タイヤにチェーン、スパイク等を加工装備してはならない。

(3) クラッチ、ブレーキレバーおよびペダル

1) クラッチレバーおよびブレーキレバーはその末端が直径19mm以上の球状に作られ、容易にとれるものであってはならない。

2) ブレーキペダルおよびギヤシフトレバーの位置は自由である。但し、その先端は安全上丸められていなければならない。

(4) ブレーキ

前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えていなければならない。

(5) フェンダー

前後輪には有効なフェンダーが装備されていなければならない。

IV. ナンバープレート

競技が一般公道を使用しない場合は、ナンバープレートを装着しなければならない。

(1) ナンバープレートの寸法

ナンバープレートは第13図に示す大きさのものでなければならない。

(2) 取り付け方

ナンバープレートは車輻の前面に1枚前向きに見えやすいように取付けなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

ノービス部門	白地に黒文字
ジュニア部門	黄地に黒文字
国際A級部門	黒地に黄文字

(4) ナンバープレートの字体

ナンバープレートの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。

例 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0



なお、国際A級については第13図に示すようにプレート下部に記名しなければならない。



〔第13図 ナンバープレート〕

(5) 他のライダーに迷惑をおよぼすような構造をしてはならない。

〔5〕 ライダーの装備

I. ヘルメット

ヘルメットは、日本工業規格J. I. S. 1種以上のものでMFJ公認のものであること。M. F. J. の公認したヘルメットには、M. F. J. 認証マークが貼付されている。

II. ライダーの服装

(1) 下半身は長ズボン、上半身は長袖でなければならない。

(2) 手袋および足首以上を保護する突出部のない革（またはゴム）靴を着用しなければならない。

〔6〕 コース

コースには次のコースマークが設定される。

① 右折（ターンライト） 赤いカードに“R”の黒字

② 左折（ターンレフト） 青いカードに“L”の黒字

③ 直進（ストレート・オン）

白いカードに“S・O”の黒字

④ 一般公道を使用する場合は、上記カードの他に、交差点の手前50mに進行方向を予告するカードが設定される。

〔7〕 サインオン、サインオフ

ライダーは各自のスタート前迄に、主催者の指示する採点表にサインオンしなければならない。競技終了後、採点表を確認してサインオフしなければならない。

これを行なわないライダーはリタイアとみなされる。

〔8〕 セクション

(1) セクションの表示

セクションは次のセクションカードおよびテープで表示される。

① 入口 右側 赤地にセクションナンバー
左側 青地に“Section Begins”または“IN”

② 途中 右側 赤いカード
左側 青いカード

③ 出口 右側 赤地にセクションナンバー
左側 青地に“Section Ends”または“OUT”

(2) セクションの中

① セクションの横巾はできる限り自然の障害物で制限されるが、カードによって制限する場合は1.2m以上なければならない。

② 同じ側のカードとカードの間を迂回することは

付則 3

きない。

(3) 採点区間

セクションにおける採点は、前輪のスピンデルがセクション入口のカードを過ぎた時点から開始され、前輪のスピンデルがセクション出口のカードを過ぎた時点で終了する。

[9] タイムキーピング

(1) ライダーは、あらかじめ抽選で決められた順序により、1分間隔でスタートする。

決められたスタート時刻に遅れたライダーに対してはペナルティが課せられ、20分以上遅れた場合は失格となり、スタートすることができなくなる。

(2) コース走行時の平均時速は原則として20km/h以下とする。

(3) ライダーには全コースを走破するための時間が与えられ、これに遅れてゴールしたライダーに対してはペナルティが課せられる。

(4) 全コースを走り終えたライダーはゴール地点でチェッカーを受け、タイムチェックを受けなければならない。決められた持時間をオーバーしてゴールしたライダーに対してはペナルティが課せられ、特別規則に示された規定時間までにゴールしないライダーは全員リタイアとみなされる。

[10] 競技の進行

(1) スタートの合図を受けて初めてエンジンを始動させることができる。

(2) タイムキーピングを採用した場合、各セクションへのライダーの進入順序は自由であるが、オブザーバーによって指示された場合はこれに従わなければならない。

(3) セクション間の移動はコースマークに従って行なわなければならない。

(4) ライダーはセクションに入る準備ができ次第、手を上げてオブザーバーに合図しなければならない。

(5) オブザーバーの指示により、速かにセクションに入らなければならない。

(6) セクション内でフルペナルティ(減点5点)を受けたライダーは、速かにセクションより車輛を移動させなければならない。

(7) セクション内でライダーは一切の援助を受けてはならない。ただし、フルペナルティを受けたライダーはこの限りではない。

(8) 競技中、車輛の整備はライダー自身で行なわれなければならない。これに違反した場合は失格となる。

競技中、事故を起した場合や車輛の故障等の理由で

競技続行が不可能な場合は、速かに役員に申し出なければならない。

[11] ペナルティ

(1) セクションにおける採点は0-1-2-3-5-10方式を採用する。

○クリーン	0点
○足つき1回	1点減点
○足つき2回	2点減点
○足つき3回以上	3点減点
○失敗	5点減点
○放棄	10点減点

(2) タイムキーピングによるペナルティは次の通り課せられる。

○タスタートの遅れ1分につき	1点減点
○予定されたスタート時間に20分以上遅れた場合	失格
○最終タイムチェックの遅れ1分につき	1点減点

(3) ライダーの不適切な行為に対するペナルティは次の通り課せられる。

○役員に対する不適当な態度	100点減点
○セクションにおいて役員の指示に従わなかった場合	10点減点
○定められたコースを不適当にカットした場合	50点減点

[12] ペナルティの定義

セクションにおけるペナルティの定義は次の通りとする。

(1) 足つき

○ライダーの身体のどの部分でも地面に着地した場合
○車輛およびライダーのどの部分でも、立木、岩または土の壁面等の障害物にもたれかかった場合。

(2) 失敗

○停止 前輪が前進を止めた場合。(足をつかなかった場合は停止としない。但し、ライダーが支えなくても、それ以上車輛が姿勢を変えない状態になった場合は停止とする。)

○降車 ライダーが車輛から離れる状態になった場合

○クロス ライダー自身の車輛のわだちに再び触れたり、これを踏みついたり、越えたりした場合。

○マーカー移動 セクションを表示するものを車輛で破損または移動させた場合。

○セクション・アウト 車輛の前輪・後輪のいずれか一方でもセクションを表示するものの外側を通過した場合。および迂回した場合。

○援助 第三者の援助を受けた場合。

(3) 放棄

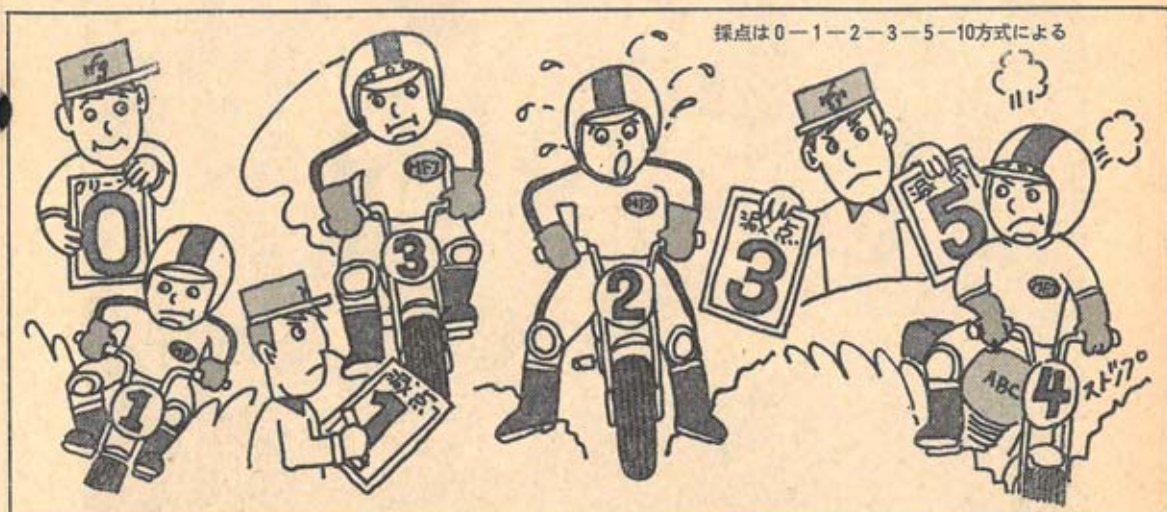
○セクションを走行しなかった場合。

〔13〕 競技結果

- (1) 総減点数の少ないものから順位を定める。
- (2) ワンディトライアルの場合は、原則として当日の競技結果の発表を公式とする。
- (3) 2日以上にわたって競技が行なわれる場合は、競技終了日より一週間以内に公式結果が発表される。

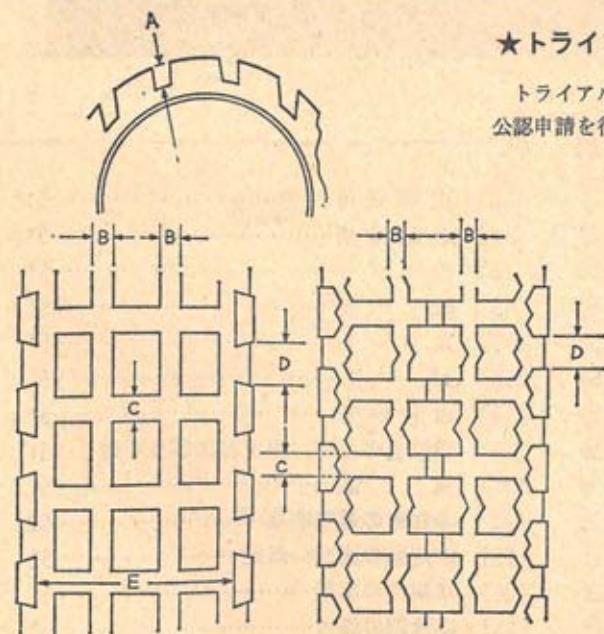
〔14〕 同点者の判定

- (1) 同点者の判定は次の判定順序に従って行なう。
 - ① クリーンの数の多い者を上位とする。
 - ② 1点減点の多い者を上位とする。
 - ③ 2点減点の多い者を上位とする。
 - ④ 3点減点の多い者を上位とする。
 - ⑤ 以上によって決定できない場合は同位とする。
- (2) 主催者の権限によりスペシャルテスト等で判定する場合もある。



★トライアルタイヤ公認規格

トライアル競技に使用するタイヤは下記各項を満し、MFJに公認申請を行ない、承認されたものでなければならない。



A：トレッドの深さ

トレッド面に直角に測って13mm以内であること。同一円周のすべてのスタッドの深さは同一であること。

B：トレッドの巾

タイヤの巾方向では9.5mm以内であること。

C：トレッドの巾

タイヤの円周方向では13mm以内であること。

D：肩部スタッドのスペース

22mm以内であること。

E：トレッドのさしわたし付法

タイヤウォールに直角に測った場合、タイヤの全巾に及んでいてはならないが、スタッドによって中断されている場合はこの限りではない。

トライアル

'79全日本選手権大会特別規則



目次

- | | | | |
|---|----|-----------------------------|----|
| [1] 開催競技会の日程, 名称, 主催,
開催場所, 出場申込み期間..... | 49 | [13] 出場受付..... | 51 |
| [2] 公式通知, タイムスケジュール..... | 50 | [14] 車輛検査..... | 51 |
| [3] 開催種目..... | 50 | [15] ライダー..... | 51 |
| [4] 運営実行組織..... | 50 | [16] 練習..... | 51 |
| [5] 参加者およびライダー..... | 50 | [17] スタート..... | 51 |
| [6] 出場申し込み..... | 50 | [18] ゴール..... | 51 |
| [7] 出場料およびMFJ選手共済組合費..... | 50 | [19] 車輛保管..... | 51 |
| [8] 賞およびポイント..... | 50 | [20] 競技会の延期, 中止およびうち切り..... | 51 |
| [9] 出場車輛..... | 50 | [21] 抗議..... | 51 |
| [10] 競技番号(ナンバー)..... | 51 | [22] 参加者の遵守事項..... | 52 |
| [11] ライダーの装備..... | 51 | [23] 本規則の違反, 裁定..... | 52 |
| [12] ガソリンおよびオイル..... | 51 | [24] 本規則の解釈..... | 52 |
| | | [25] 本規則の施行..... | 52 |

'79全日本選手権大会特別規則

本競技会シリーズは、日本モーターサイクル協会（MFJ）公認のもとに、MFJ国内競技規則に従い開催される。本特別規則は、1979年度全日本選手権シリーズの全戦に適用される。

〔1〕 開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間

日 程	大 会 名 称	主 催 (出場申込先)	開催場所	出場申込期間
2月11日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 関西トライアル大会	MFJ関西トライアル委員会 ☎675 兵庫県加古川市野口町良野 261-3 Tel 0794(23)2335	奈良県 生駒テック	1月11日(木) 1月22日(月) 消印有効
3月4日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 中部トライアル大会	MFJ中部トライアル委員会 ☎441-31 豊橋市雲谷町外ノ谷279 森田哲男方 豊橋モンスター Tel 0532-41-4751	静岡県 オートランド浜松	2月4日(日) 2月12日(月) 消印有効
3月25日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 四国トライアル大会	MFJ四国地方本部 ☎780 高知市一宮3054 城北塗装内 MFJ高知県トライアル委員会 Tel 0888-45-2867	高知市S RC正蓮 寺オート ランド	2月25日(日) 3月5日(月) 消印有効
6月3日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 関東トライアル大会	MFJ関信越トライアル委員会 ☎108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 Tel 03(472)6241	群馬県奥 利根国際 スキー場	5月3日(木) 5月14日(月) 消印有効
7月15日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 九州トライアル大会	MFJ九州トライアル委員会 ☎834 八女市大字吉田1328 内野徳助気付 Tel 09432-4-3629	宮崎県 三股町 細目川	6月15日(金) 6月25日(月) 消印有効
9月22日(土) 23日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 東北トライアル大会	MFJ東北トライアル委員会 ☎982 仙台市長町3-3-9 ホンダ宮城販売管内 大友克人氣付 Tel 0222(47)0123	福島県 磐梯国際 スキー場	8月23日(木) 9月3日(月) 消印有効
10月7日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 中国トライアル大会	MFJ西日本スポーツ委員会 ☎705 岡山県備前市大内946-4 備前自動車教習所 備前トライアルクラブ Tel 08696(6)9212	岡山県備 前トライ アルパー ク	9月7日(金) 9月17日(月) 消印有効
11月11日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 第7回日本グランプリ トライアル大会	日本モーターサイクル協会(MFJ) ☎104 東京都中央区銀座1-9-12 大盛ビル Tel 03(561)8566	宮城県ス ポーツラ ンド菅生	10月11日(木) 10月22日(月) 消印有効

トライアル

[2] 公式通知、タイムスケジュール

公式通知および詳細なタイムスケジュールは、申込締切後発送される。

[3] 開催種目

§ 1. オブザベーショントライアル

付則3[1] (44頁) 参照。

- (1) 全日本選手権シリーズの競技部門は国際A級部門とする。但し、大会当日ジュニア部門の地方大会併催も行なわれることもある。
- (2) セクション数およびタイムキーピングの方法については、公式通知に示される。
- (3) 日本GP大会はブロック対抗ジュニア選抜競技が行なわれる。

[4] 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

[5] 参加者およびライダー

I. 参加資格

- (1) 1979年版MF J国内競技規則、総則[4] (6頁) に合致していなければならない。
- (2) 国際A級部門
(但し、地方大会併催のジュニア部門も含む)
- (3) 日本GP大会
 - ① 国際A級部門 全国選手権シリーズ戦に1回以上出場した者。
 - ② ジュニア部門 各地方選手権ランキング上位の者で次に示す人数。
北海道=3名 東北=5名 関東=10名 中部=10名 北陸=3名 関西=10名 中国=3名 四国=3名 九州=3名

(注) 地方選手権シリーズには、大会ごとに総則[8] (7頁) に示されたポイントが与えられ「全日本選手権ランキング順位決定の方法」(64頁) に準じて地方選手権ランキングが決定される。ただし、他ブロックに所属する者にはポイントは与えられず、そのブロックの者を繰り上げてポイントを与える。

[6] 出場申し込み

- I. 全日本選手権シリーズ戦用出場申し込み書(ジュニア部門の地方大会併催、日本GP各地方選抜者用も含む)に必要な事項を記入の上、出場料およびMF J選手共済組合費を添えて提出しなければならない。
- II. 参加定員

(1) 特に定めませんが、併催ジュニア部門については主催者の判定により制限される場合がある。

(2) 日本GP大会については参加資格に示された選抜規定による。

[7] 出場料およびMF J選手共済組合費

出場料	4,800円
MF J選手共済組合費	200円

[8] 賞およびポイント

I. 賞

§ 1. 全日本選手権大会(日本GP大会を除く)

- (1) ベストパフォーマンス(BP)ランナーアップ(RU)ファーストクラス(FC)セコンドクラス(SC)
- (2) 特別賞
- (3) 参加賞

§ 2. 日本GP大会

- (1) ベストパフォーマンス(BP)ランナーアップ(RU)ファーストクラス(FC)セコンドクラス(SC)
- (2) ベストクリーン賞
- (3) 最優秀クラブ賞
- (4) 最優秀ブロック賞
- (5) 特別賞
- (6) 参加賞
- (7) 賞の規定

① 最優秀クラブ賞は、MF J公認クラブで、そのクラブの全入賞者の得点を合計し、最多得点を獲得したクラブに授与される。

② 最優秀ブロック賞は、全国9ブロックで両部門を対象に入賞者の得点を合計し、最多得点を獲得したブロックに授与される。

③ 最優秀ブロック賞および最優秀クラブ賞の得点は、全日本選手権ランキングポイントに準じて集計される。

II. 全日本選手権ランキングポイント

§ 1. 国際A級部門

- (1) 全日本選手権シリーズランキングポイントは、上位入賞者に次のポイントが与えられる。
1位15点、2位12点、3位10点、4位8点、5位6点
6位5点、7位4点、8位3点、9位2点、10位1点
- (2) 日本GP大会のポイントは、上記ポイントにボーナス点3点が加算される。

§ 2. ジュニア部門

ジュニア部門は、日本GP大会選抜者の入賞順位による。

[9] 出場車輛

車輛は、付則3〔4〕ⅡおよびⅢ（44頁）を遵守しなければならない。

〔10〕 競技番号（ナンバー）

- (1) 国際A級部門のライダーには、付録に示す通り年間指定ナンバーが割当てられる。
- (2) 併催する他部門のライダーには、主催者によってナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- (3) 主催者から特に指示がない場合は、車輛検査までに、規定の書体および色でナンバーを記入しなければならない。
- (4) ナンバーの状態は、車輛検査時に検査員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
- (5) 競技中、ナンバープレートおよび配布されたゼッケンを装着せずに走行した場合、またまちがったゼッケンを装着して走行した場合はそのトライを記録されない。

〔11〕 ライダーの装備

ライダーの服装、ヘルメットは、付則3〔5〕（45頁）による。

〔12〕 ガソリンおよびオイル

- (1) ガソリンおよびオイルは、総則〔12〕（9頁）による。
- (2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって主催者から指定された場合は、当該ガソリンを使用しなければならない。

〔13〕 出場受付

- (1) 出場受付の時間および場所は、公式通知に示される。
- (2) 定められた時間内に、かならずライダー本人が出頭し、運転免許証、MF Jライセンス、健康保険証、参加受理書を提示して、当日の資格を判定されなければならない。
- (3) 運転免許証を所持していない者は出場を認められない。
- (4) MF Jライセンスを提示できない者は、理由の如何を問わずペナルティ料金（2000円）を支払い、更にその場でMF J登録料、ライセンス料を支払い仮登録しなければならない。

尚、後日MF J事務局において二重登録と判明した場合には、仮登録の料金は全額本人宛返還される。

〔14〕 車輛検査

- (1) 競技会前車輛検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールに従って、パドック内の車輛検査区域において行なわれる。
- (2) タイムスケジュールに示された時間内に、かならず

ライダー本人が車輛を持参し車輛検査を受けなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が、不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行なわれない。

- (3) 車輛検査への持込台数は1台に限定する。
- (4) 車輛検査において、規則または安全上出場が不適当と判定された車輛は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。
- (5) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時検査を行なうことがある。

〔15〕 ライダー

- (1) ライダーおよび出場車輛の変更は原則として認められないが総則〔14〕（8頁）に該当する場合は出場受付終了以前に申請することとし、各手数料5,000円を添付しなければならない。

〔16〕 練習

大会当日コースおよびセクションのいかなる場所においても練習は禁止される。これに違反した選手は失格とする。

〔17〕 スタート

原則としてスタート順位は抽選によって定める。

〔18〕 ゴール

予定されたゴール時間に20分以上遅れた場合は失格とする。

〔19〕 車輛保管

- (1) 車輛検査後スタートまで、およびゴール後主催者から保管解除の通知があるまでは車輛は指定された区域に保管されなければならない。
- (2) 入賞車は、暫定結果発表後原則として30分以上保管され、必要に応じて検査される。

〔20〕 競技会の延期、中止およびうち切り

- (1) 大会は本規則に発表された日程から、変更または延期されることはない。
- (2) 大会審査委員会が特別な理由によって競技の延期または放棄しなければならないと判断したときに限り、競技を延期または中止することができる。
- (3) 大会が中止された場合、参加者が支払った出場料、保険料を返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

〔21〕 抗議

競技結果に対するいかなる抗議も受けられない。

〔22〕 参加者の遵守事項

(監督、ライダー)

参加者は次の事項を守らなければならない。

- (1) 本競技会中は、MFJ国内競技規則に則って行動し、参加者はすべての行動に対して責任をとらなければならない。
- (2) 参加者はすべて本競技会特別規則にのっとり行動すること。従ってすべての違反者は5,000円の罰金か、または失格さらに退場に至る罰則が課せられる。
- (3) 国内競技規則、本規則および競技管理上のあらゆる規定や競技役員の指示に従い、かつ公道上では交通法規を守るものとする。
- (4) 常にスポーツマンとしての態度を保ち、公正に行動しなければならない。
- (5) 競技期間中は飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。
- (6) 競技期間中ライダーは運転免許証、ライセンスを必ず

携帯しなければならない。

〔23〕 本規則の違反、裁定

本規則に対する違反は、大会審査委員会が決定し罰則が適用される。裁定後はいかなる理由といえどもこれに従わなければならない。

〔24〕 本規則の解釈

大規則および競技に関する疑義は、事務局あて質議申立てができる。なお、この解答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

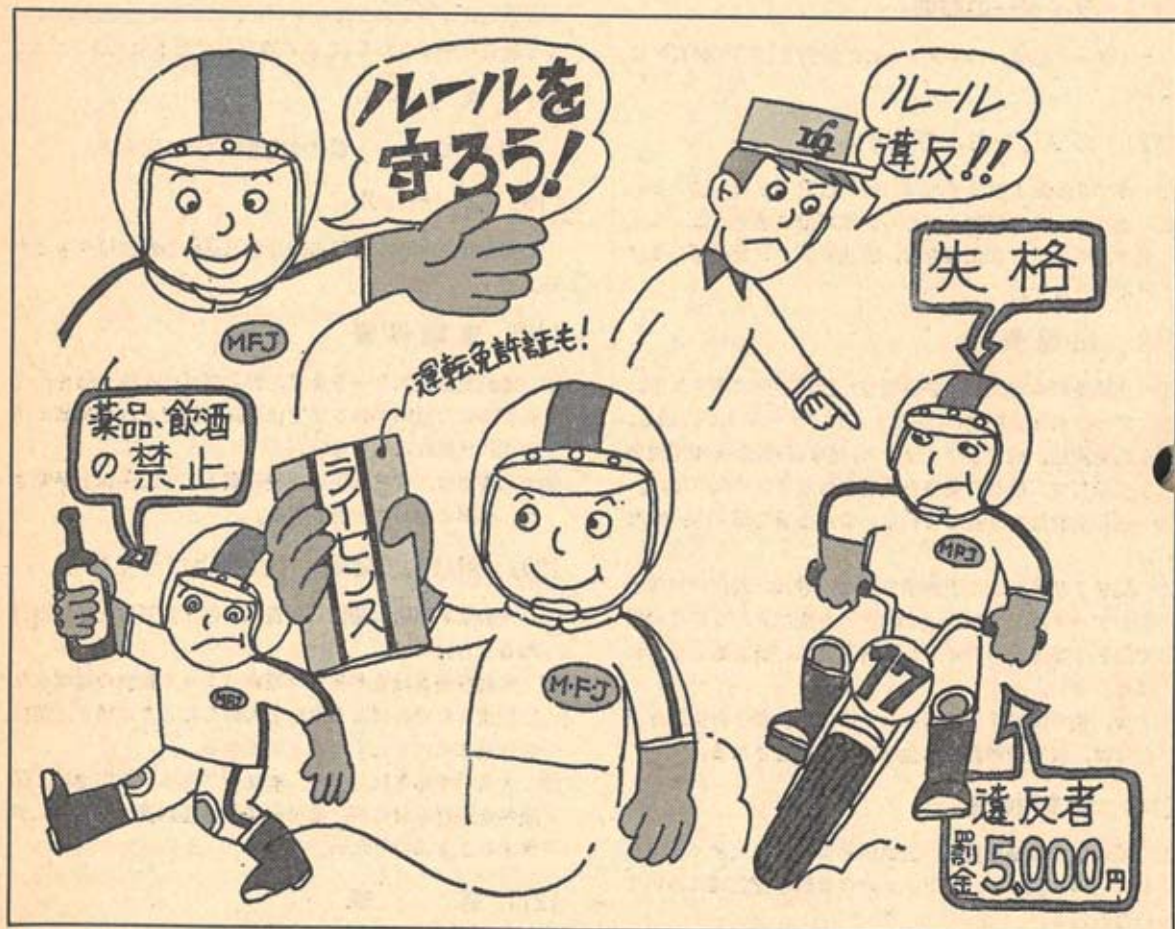
〔25〕 本規則の施行

本規則は出場申込受付日より有効となる。

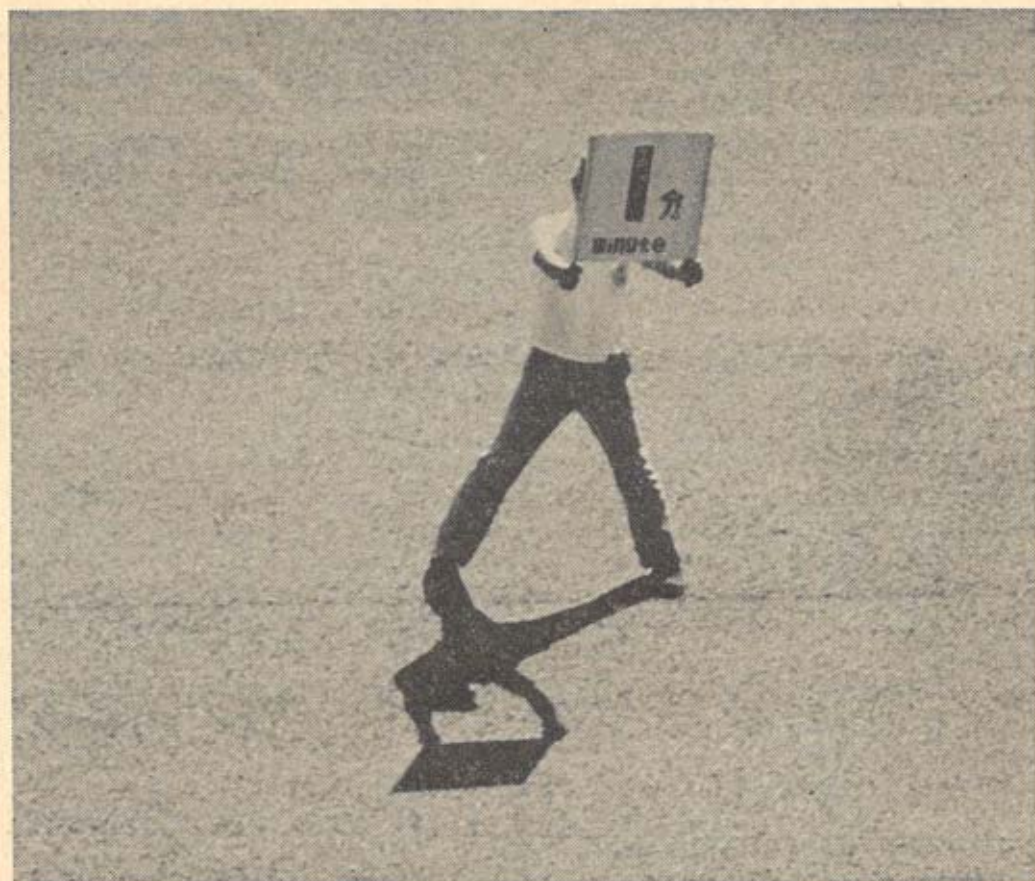
なお、本規則に示されていない事項は、MFJ国内競技規則による。

昭和54年1月1日

大会事務局長



'79全日本選手権大会特別規則



目次

MF J 公認車輛 (一般市販車)	54	MF J 公認競技会主催団体クラブ	60
MF J 公認車輛 (ロードレーサー)	56	ゼッケン・ナンバー	
MF J 公認車輛 (モトクロッサー)	56	(ロードレース部門)	61
MF J 公認車輛 (トライアラー)	56	ゼッケン・ナンバー	
MF J 公認車輛 (輸入車輛)	57	(モトクロス部門)	62
F I M 公認車輛	57	ゼッケン・ナンバー	
MF J 公認部品	57	(トライアル部門)	62
市販届出部品	58	全日本ランキング順位決定の方法	64
MF J 公認トライアルタイヤ	58	保険制度	64
MF J 公認ヘルメット	59		

付録

M. F. J. 公 認 車 輛

●一般市販車

	川崎重工業(株)	鈴木自動車工業(株)	本田技研工業(株)	ヤマハ発動機(株)
50 cc		スズキAC50 スズキAS50 スズキTS50 スズキGA50 スズキCM50 スズキRG50 スズキOR50 スズキミニタン50	ベンリイSS50 ベンリイCL50 ベンリイCD50 グックスホンダST50 ベンリイCB50JX-1 (CB50J) ホンダXE50 バイアルスTL50 ホンダXE50-II ホンダモンキー ホンダゴリラ	ヤマハスポーツ50FS1 ヤマハ50F5D ヤマハFT50 ヤマハトレールMR50 (354) ヤマハスポーツFX50 (353) ヤマハスポーツRD50 (481) ヤマハトライアルTY (354) ヤマハミニGT50 (FT1) ヤマハミニGR50 (FT1) ヤマハミニトレールGT50II ヤマハトレールMR50II ヤマハスポーツRD50 (II) ヤマハスポーツRD50SP
90 cc	カワサキGA4 (トレールボス90TR) カワサキ90G1L カワサキ90GA1 (90S) カワサキ90GA2 (90SS) カワサキ90GA3 (90SSS) カワサキG8T カワサキG8S カワサキG6 カワサキKE90 (G6) カワサキKC90 (G8T) カワサキKM (MC1)	スズキA90 スズキK90 スズキスポーツAS90 スズキスクランブラー AC90 スズキT90 (ウルフ90) スズキTS90 (ハスラー90) スズキTS904 スズキCM75	ホンダCL65 グックスホンダST70 ホンダCS90 ホンダCD90 ホンダSL90 ベンリイCL90 ベンリイCL90K ベンリイSL90K ベンリイCB90 ホンダXE75 ホンダXE75-II	ヤマハミニJT60 (JTI) ヤマハメイトV70 (S, D, ES, ED) ヤマハメイトV90D (V90) ヤマハトレール90HT1 ヤマハトレールHT90 (HT-2) ヤマハトレールDT90 (429) ヤマハスポーツRD90 (464) ヤマハHS1 ヤマハトライアルTY80 (597) ヤマハミニGT80 (374) ヤマハミニGR80 (374) ヤマハトレールGT90-II (429) ヤマハミニトレールGT80 (II) ヤマハスポーツRD90 (II)
125 cc	カワサキB1-T カワサキ120CI カワサキ120C2SS カワサキF6 (125-TR) カワサキB1 カワサキKC125 (B1) カワサキKE125 (KS125) カワサキKH125	スズキK125 (S10) スズキTC120 スズキT125 スズキT125-2 (ウルフ125) スズキTS125 (ハスラー125) スズキGT125 スズキRG125 スズキGP125	ベンリイCD125S ベンリイCL125 ベンリイCB125 ベンリイCB125S ホンダCD125 CD125K ホンダCL125K ホンダCB125 バイアルスTL125 エルシノアMT125 バイアルスTL125K2 ベンリイSL125S ホンダXL125 ホンダCB125JX バイアルスTL125S ホンダCB125T1 ホンダXL125S	ヤマハ125A7 ヤマハスポーツ 125AS1デラックス ヤマハスポーツ125AS2 ヤマハトレール125AT1 ヤマハスポーツRD125 (404) ヤマハトレールDT125 (452) ヤマハスポーツAX125 (AS3) ヤマハトライアルTY125 (539) ヤマハトレールDT125II (452) ヤマハスポーツRD125-II (404) ヤマハトレールDT125 (M)

M. F. J. 公 認 車 輛

●一般市販車

	川崎重工業(株)	鈴木自動車工業(株)	本田技研工業(株)	ヤマハ発動機(株)
50 cc	カワサキ175B11L カワサキ175B11TL カワサキ250A1 カワサキF8(250-TR) カワサキF11(250-TR) カワサキ250SS(S1) カワサキKH250 (KH250B) カワサキKL250A	スズキT200 スズキTC200 スズキT250(T20) スズキTC250 スズキTS250 (ハスラー250) スズキTS250-III (ハスラー250) スズキGT250B スズキトライアルRL250 スズキGT185 スズキRG185 スズキRG250	ホンダCL175 ホンダSL175 ホンダCB175 ホンダCL250 ホンダCB250 エルシノアMT250 ホンダTL250 ホンダXL250 ドリーム(J250T) ホンダHAWKCB250T ホンダXL250S	ヤマハトレールDT1 ヤマハトレールDT250(DT1) ヤマハトレールDT250-R(♂) ヤマハトレールDT250(DT1F) ヤマハ250DS6 ヤマハスポーツDX250(DS7) ヤマハスポーツ DX250PRO(352) ヤマハスポーツRD250(361) ヤマハトライアルTY250J(461) ヤマハトレールDT250(450) ヤマハトライアルTY250-(461) ヤマハトライアルTY175 (1R1) ヤマハスポーツRD250III (1A4) ヤマハスポーツRD250(IV) ヤマハトレールDT250(M) ヤマハスポーツGX250 ヤマハスポーツGX250SP
350 cc	カワサキ350A7 カワサキ350SS(S2) カワサキF5(350-TR) カワサキS2T	スズキGT350(T350)	ホンダCL350 ホンダSL350 ホンダCB350	ヤマハスポーツ350R1 ヤマハスポーツ350R3 ヤマハスポーツRX350(R5) ヤマハスポーツ RX350PRO(351) ヤマハスポーツRD350(360)
351 750 cc	カワサキ500SS(KA) カワサキ650W1 カワサキ650W1スペシャル カワサキ750SS(H2) カワサキZ2 カワサキW3 カワサキH1 カワサキS3 カワサキKZ400 カワサキZ400(KZ400) カワサキKH400(S3) カワサキZ750TWIN (KZ750B) カワサキ750FOUR(Z2) カワサキZ650	スズキTS400 (ハスラー400) スズキGT380 スズキGT380B スズキT500 スズキGT550B スズキGT750 スズキGT750B スズキGS400 スズキGS750 スズキGS550 スズキSP370	ドリームCB450 ホンダCL450 ホンダCB450K1 ホンダCB500, 同F2 ホンダCB750, 同F2 ドリームCJ360T ドリームCB400F ドリームCB400F-I,II ドリームCB500T ドリームCB550F ホンダCB550K3 ホンダCB750K7 ホンダCB750FII ホンダHAWKCB400T ホンダGL400 ホンダHAWKII, III ホンダCB750K	ヤマハトレール360RT1 ヤマハスポーツ650XS1(S650) ヤマハトレールDT360 ヤマハスポーツTX500, TX650 ヤマハスポーツTX750 ヤマハトレールDT400 ヤマハエンデューロXT500 ヤマハスポーツRD400 ヤマハスポーツGX500, GX750 ヤマハスポーツGX400, 同SP ヤマハスポーツTX650(III) ヤマハスポーツRD400(II) ヤマハスポーツGX750(II) ヤマハスポーツSR400, SR500 ヤマハスポーツXS650スペシャル ヤマハスポーツXS750スペシャル

付録

●ロードレーサー

M. F. J. 公 認 車 輛

	川崎重工業(株)	鈴木自動車工業(株)	本田技研工業(株)	ヤマハ発動機(株)
125 cc			ホンダMT125R (325) ホンダMT125R-II ホンダMT125R-III	ヤマハTA125
250 cc			ホンダRS250R	ヤマハTD3 (DS7) ヤマハTZ250 (430) ヤマハTZ250-II (430) ヤマハTZ250-III
350 cc				ヤマハTR3 (R5) ヤマハTZ350 (430) ヤマハTZ350-II (383) ヤマハTZ350-III

●モトクロス

	川崎重工業(株)	鈴木自動車工業(株)	本田技研工業(株)	ヤマハ発動機(株)
90 cc		スズキTM75 スズキRM50 スズキRM80 スズキRM50-II スズキRM80-II	ホンダXR80	ヤマハトレールスペシャル MX90 (HT2-MJ) ヤマハトレールスペシャル MX90 (403) ヤマハYZ80(D), YZ80(2X6)
125 cc	カワサキKX125 カワサキKX125A	スズキTM125 スズキRM125 スズキRM125-II スズキRM125-III スズキRM125-IV スズキRM125-V	エルシノアCR125M エルシノアCR125M1 ホンダCR125M2 ホンダCR125M3 ホンダCR125R	ヤマハトレールスペシャル MX125 (AT2-MJ) ヤマハトレールスペシャル MX125 (401) ヤマハYZ125 (453) ヤマハYZ125 (537) ヤマハYZ125MII (1J8) ヤマハYZ125III, YZ125IV ヤマハYZ125 (2Y5)
250 cc	カワサキF21M カワサキKX250 カワサキKX250A	スズキTM250 スズキRH250 スズキRH250-II スズキRM250 スズキRM250-II スズキRM250-III スズキRM250-IV スズキRM250-V	エルシノアCR250M エルシノアCR250M1 ホンダCR250R	ヤマハトレールスペシャル MX250 (DT2-MR) ヤマハトレールスペシャル MX250 (364) ヤマハYZ250 (431) ヤマハYZ250 (483) ヤマハYZ250-II (509) ヤマハYZ250M-II (509) ヤマハYZ250III ヤマハYZ250IV ヤマハYZ250 (2X4)
500 cc		スズキTM400		

●トライアラー () 内は一般市販車

	川崎重工業(株)	鈴木自動車工業(株)	本田技研工業(株)	ヤマハ発動機(株)
50 & 250 cc	カワサキKT250	スズキRL250L (スズキトライアルRL250)	(バイアルSTL125) (バイアルSTL125K2) (バイアルSTL125S) ホンダTL250 (バイアルSTL50) ホンダTL200R	(ヤマハトライアルTY50) (ヤマハトライアルTY80) (ヤマハトライアルTY125) (ヤマハトライアルTY250J) (ヤマハトライアルTY250-II) (ヤマハトライアルTY175) (ヤマハトライアルTY50-II)

M. F. J. 公 認 車 輛 (輸入車輛)

	ハスクバーナ	ヤ	ワ	モリビデリ
125 cc	125 CR			MBA 145
250 cc	250 CR	(仮公認)	CZ 250	(有)モリワキエンジニアリング

F. I. M. 公 認 車 輛 (フォーミュラ750レース用)

銘 柄	年式	車 名	排気量cc	銘 柄	年式	車 名	排気量cc
B.M.W.	61	R69S	590	Moto-Guzzi	70	Amhassador mba	750
	70	R75/5	745	M. V. Agusta	70	M. V4C7	743
	73	R75/6	745	Norton	62	Atlas	750
B.S.A.	62	A65 Royal Star	650		64	Scrambler	750
	64	A65-1T Thunderbolt	650		67	P-11	750
	64	A65-2L Lightening	650		71	Commando "S"	745
	64	A65-2SPH Hornet	650		76	Challenge	747.58
	69	A75 Rocket 3	749	Suzuki		Export	750
	71	A75V	740	Norton		Commando	750
	71	A70L	750			Commando Racer	750
Ducati				Suzuki	71	GT550J	544
Dunstall					71	GT750J	738
Goegebeur & Vigoni	74	GILA/Kawasaki	750		72	GT550B	543
					74	GT750 LeMans Sport	739
H · D	52	KR	750	Triumph	63	TR6C TR6R	650
	52	KRTT	750		69	Trident T150	750
	70	XR	748		70	T120/RT	750
	71	XR750	749		71	T150V	740
Honda	70	CB750	736			Bonneville	650
Kawasaki	68	W2SS	624	Yamaha	70	XS650	654
	71	H2	748		71	XS650	744
	73	Z2	746		71	XS-2 GXS-1	654
	74	KR750	740.8		72	TX750	743
Konig	76	VDM	680		73	TZ750	694
Laverda		SF	750		74	TZ750R	747

M. F. J. 公 認 部 品

川崎重工業(株)	GAキットパーツ	ヤマハ発動機(株)	AX125オブショナルパーツ
	C2SSキットパーツ		DX250オブショナルパーツ
	F6キットパーツ F8キットパーツ		RX350オブショナルパーツ
	F11キットパーツ (ミッション含む)		MX250用ボディシリンダー
	A1レーシングパーツ (ブレーキ)		MX90オブショナルパーツ
KA1レーシングパーツ (ブレーキ)	MX125用シリンダー		
KA2レーシングパーツ	AX(TA)125(AS3)用6速ミッション		
H2レーシングパーツ			
Z2用オイルクーラーアッセンブリー			
Z2用前輪右ディスクブレーキ			
鈴木自動車工業(株)	TS50キットパーツ TS250Ⅲキットパーツ	(株)ホンダRSC	CB90キットパーツ CB125S用6速ミッション
	TS90キットパーツ TS125用5速ミッション		CB90キットパーツ CB125フロントブレーキ
	TS125キットパーツ TS500用5速ミッション		CB250キットパーツ CB125リヤブレーキ
	TS904オブショナルパーツ (含むミッション)		CB350キットパーツ CR125Mオブショナルパーツ
	RL250キットパーツ		CB750キットパーツ
	RM125-II } オブショナルスペシャルキットパーツ		CB350用6速ミッション
	RM250 } (含むリヤクッション)		CB250M1オブショナルパーツ
			MT125R水冷エンジンキットパーツ

付録

M. F. J. 公 認 部 品

(株)モリワキエ シニアリング	水冷シリンダーキット ホンダ J X125用 MRE125	(株)ヨシモト	シリンダーヘッド MT125R用 YWH125	(株)無 限	リードバルブ式シリンダー-12100-381-MEA 250cc用 ME250シリンダーヘッド 12200-381-MEA 250cc用 ME250リードバルブ式シリンダー 12100-400-MEA 125cc用 ME125シリンダーヘッド 12200-400-MEA 125cc用 ME125
	野口スモ (株)		YZ125用水冷シリンダーキット(MX用)NSW-1 YZ125用水冷シリンダーキット(RR用)NSW-2		

M. F. J. 市 販 届 出 部 品

董 場 工 業 (株)	フロントフォーク125MXF フロントフォーク250MXF リヤクッションユニット 125MXF リヤクッションユニット 250MXF エアサスペンション 2510D-EE ニューマチックフロントフォーク ニューマチックリヤクッション ニューマチックリヤクッション変型(ブーツ付) ニューマチックリヤクッション変型(ブーツなし) ガス封入式リヤクッション別タンク付	ガス封入式リヤク ュッションユニット C36080 SD-EE C36085 SD-EE C36090 SD-EE C36095 SD-EE C36100 SD-EE C36105 SD-EE	(株) ホ シ ダ R S C	チッソガス封入式リヤクッションユニット G×3-00-000 フロントフォークアッセンブリー G×3-00-100 51400-381-811(右) 51500-381-811(左) フロントフォークアッセンブリー 125cc用 51400-400-00(右) 51500-400-00(左) 250cc用 51400-381-00(右) 51500-381-00(左) ガス封入式リヤクッションアッセンブリー-GX5 125cc用 52400-400-40 250cc用 52400-381-40
	カワサキオートバイ販売(株)	フロントフォークアッセンブリー(250cc用) 539911-019-R(右) 539911-019-L(左) リヤクッションアッセンブリー(250cc用) 539911-020 リヤクッションアッセンブリー(125cc用) 779911-500 リヤクッションアッセンブリー(250cc用) 539911-039		(株)極東 所 精 機 製 作 東
タイ ス ポ ツ (株)	フォクスエアショックス(MX用) オーリングスショックス(MX用)		(株)無 限	フロントフォークアッセンブリー 51400(右)-381-MEA 51500(左)-381-MEA リヤクッションアッセンブリー 52400-381-MEA

M. F. J. 公 認 ト ラ イ ア ル タ イ ヤ

(株)日本 ダ ン ロ ッ プ	TRIALS UNIVERSAL 2.71-21 3.00-21 3.50-18 4.00-18	横 浜 ゴ ム (株)	トレールスポーツ 250-18 4PR y620 300-21 4PR y620 275-18 " 325-18 " 275-19 " 325-19 " 275-21 " 350-18 " 300-18 " 400-18 " 300-19 "
	井上 タ イ ヤ (株)		井上トリアルタイヤ2.75-19 2.75-21 3.00-18 3.00-21 3.25-18 3.50-18 4.00-18

M. F. J. 公認ヘルメット

JIS T8133-2種以上

(ロードレース、モトクロス用)

(株)新井広武	クノー工業(株)	(株)コミネオートセンター	昭栄化工(株)	日栄プラスチック(株)	マルシン工業(株)
R-5	KH-25	JS-1	H-1	CX-300	M-37
R-6(R6M)	KH-35	BD-201	SHF	CX-300P	M-38
R-7	KH-39	RT-201	SR-X7	CX-320	M-52
R-7G		RT-200	SR-Z	CX-500	M-56
RX-7(X7)		FUJI-500	new-GV	DX-700	M-450
Z-1		FUJI-600	DV	FF-100	M-480
RS-8			ST-		M-500
ZX-1			H2		M-800
RS-Z			RC1		DXM-750
R-70			RC2		DXM-850
R			SR-X		
S			ZR		
			ZG		
			ZV		
			ZX		
本田技研工業(株)パーツセンター		(株)極東			
BELL STAR-II		ノラン			
BELL MAGNUM-II		スペースライダー			

普及型ヘルメット規格品

(モトクロス用)

JIS T8133-1種

(トライアル用)

昭栄化工(株)	日栄プラスチック(株)	(株)新井広武	マルシン工業(株)	(株)新井広武	昭栄化工(株)
SV	FS-100	R-2	M-130	TL-1	BL-1
L5	CS-500	R-10	M-230	TL-3	BL-2
	CS-600	R-16	M-250	TL-8	
		RS-10	M-280		
		TX-10X	M-350		
		TX-7			
		TX-8			

ひとりでも仲間を多く！ すばらしいモーターサイクルスポーツの世界を広げよう。

M. F. J. 公認競技会主催クラブ

札幌オブザーバーユニオン(SOU)	062	札幌市豊平区豊平2条5丁目 AME内	011-823-1980
スポーツランド 蒼生	909-14	宮城県柴田郡村田町大字蒼生字猪石6-1	02248-3-3111
NTR(西多賀トライアルライダース)	982	仙台市富沢字金山37-1	0222-45-4414
レーシングチーム 炎	982	仙台市鉤取字上定31-5 仙仙台パドック内	0222-44-1311
M F J 城北ブロック会	123	足立区江北6-9ニ6 藤村上製作所内	03-896-5865
グループ 日新	111	台東区蔵前3-6-7 日新ホンダ販売内	03-862-1731
北辰 T R C	951	新潟市川端町1-5-2 北辰ホンダ販売内	0252-23-5661
小出サンフラワーTC	946	新潟県北魚沼郡小出町屯野113-3 高橋正則方	02579-2-0778
チームスケアクロ	406	山梨県東八代郡石和町上平井464 笠原英男方	05526-3-0455
上州トライアル	370-12	高崎市九藏町53 宮野入礼司方	0273-22-3797
大月レーシングチーム	132	江戸川区東小松川1-5738 大月ヤマハ内	03-656-5415
トライ・トライ・トライクラブ	210	川崎市幸区塚越3-145 清水広方	044-533-6016
ヨコハマトライアルメイツ	246	横浜市瀬谷区三ツ境15-2 広瀬和彦方	045-363-7100
日本オートスポーツセンター	105	港区虎門2-6-7 和孝第10ビル8階	03-591-6000
虎意有組	252	藤沢市真浦沢629 比留川方	0466-48-0505
チームカニ	280-01	千葉市下泉町670 布施猛方	0472-39-0612
布施レーシングチーム千葉	280-01	千葉県印旛郡八街町上砂600	0434-45-4847
新潟とっぷとらいあるす	956	新潟市市場57-1 国分繁雄方	02502-4-2744
D O T S	152	目黒区目黒本町2-19-16 稲葉方	03-714-1647
チーム・アンテロープ	390	松本市北深志1-13-5 ヤマトヤ内	0263-32-4679
ワールドトレールメン塩沢	449-63	新潟県南魚沼郡塩沢町南田中423 高喜屋輪店内	02578-3-2403
チームエスベラント	350-04	埼玉県入間郡越生町黒岩139-3	04929-2-3143
116 内田 S C	950-21	新潟市寺尾808-3 内田俊治方	0252-67-5355
鈴鹿サーキット	510-02	鈴鹿市稲生町7992	0593-78-1111
テクニカルスポーツ	513	鈴鹿市住吉町6786 ホンダワールド内	0593-78-1455
名古屋トライアルクラブ	470-01	愛知県愛知郡東郷町諸論字東脇59-99 鈴木方	05613-8-0736
豊橋モンスター	441-31	豊橋市雲谷町外ノ谷279 森田哲男方	0532-41-4751
鈴鹿トライアルメイツ	513	鈴鹿市平田町1-1-2 小林商会内	0593-78-0032
続まむしの兄弟トライアルクラブ	519-21	三重県多気郡多気町四疋田324 三谷正次方	05983-8-2222
チームキャニオン	425	焼津市田尻北1620 橋ヶ谷昇次方	05462-4-2673
カンガループロダクション	923	小松市長田町757 逢信行方	0761-24-0411
金沢城北トライアルクラブ	920-01	金沢市利屋町132 北村義孝方	0762-58-0169
レッドアローレーシングチーム	934	高岡市姫野36-1 ベニヤサイクル内	07668-4-4000
和歌山トライアルクラブ	640	和歌山市秋月563 辻正義方	0734-71-0500
フライングドルフィン	612	京都市伏見区下鳥羽面田町95 精野方	075-622-0225
山本レーシングチーム	675	加古川市野口町良野261-3 山本レーシングサービス内	0794-23-2335
備前トライアルクラブ	705	備前市大内946-4 備前自動車教習所内	08696-6-9212
四国 S R C	780	高知市一宮3054 矢野秀高方	0888-45-1589
チームサファリ	790	松山市本町3-2-23 井原修方	0899-45-7130
九州トライアルクラブ	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下ノ府字塩出599 交通教育センター内	09296-2-2761
仙台モーターサイクルスポーツクラブ	982	仙台市鉤取字上定31-5 仙仙台パドック内	0222-44-1311
新潟 Y R T		新潟市上大川前通り4番地 高橋商店内	0252-29-2531
モト・コムラートクラブ	211	川崎市中原区新丸子東1-983	044-422-1559
八女トライアルクラブ		八女市大字吉田1328	09432-4-3629
宮崎県北トライアル愛好会		延岡市山下町3丁目1-1 甲斐ホンダ商会内	0982-32-4012
有限会社佐世保大塔自動車学校		佐世保市大塔町27	0956-31-9177
トム and ジェリー M C	513	鈴鹿市末広町5351-76	0593-83-3043
トライアルクラブ三重	514	津市大字半田朝日795-1 セントラル自動車サービス内	0592-25-7171
大阪チームブルーイーグルス	577	東大阪市川俣4-53 スポーツショップ フェ内	06-789-7008

'79ロードレース国際A級ゼッケンナンバー

No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名
①	上野 真一	チームレーシングスポーツ	④⑨	岩道 博	岡山ユニオンRT	⑦⑧	東金 育男	浜松エスカルゴRT
②	金谷 秀夫	チームカナヤ	④⑩	井上 哲雄	小田原キャッスルR	⑦⑨	渡辺 勝雅	野田ジュニアレーシングC
③	高井幾次郎	ブレイムイトレーシングチーム	④⑪	新田 茂	木の実レーシングチーム	⑧⑩	井上 誠	個人
④	毛利 良一	チームカナヤ	④⑫	高橋 力也	小田原キャッスルR	⑧⑪	高橋 清志	小田原キャッスルR
⑤	和田 正宏	マックウェスタン	④⑬	輝井 峰	個人	⑧⑫	長堀 幸夫	野田ジュニアレーシングC
⑥	河崎 裕之	マウンテンライダース	④⑭	山田 純	フライングオリバー	⑧⑬	本田 和雄	個人
⑦	浅見 貞男	ワールドワイドMC	④⑮	佐藤 健正	モリワキレーシング	⑧⑭	菅野 豊	チームブレーブス
⑧	阿部 孝夫	マウンテンライダース	④⑯	山梨 保	ブルーヘルメットMSC	⑧⑮	藤本 泰東	チームカナヤ
⑨	清原 明彦	神戸スーパースポーツRT	④⑰	徳野 政樹	神戸スーパースポーツRT	⑧⑯	酒井 清孝	チームIVY
⑩	鈴木 修	ブレイムイトレーシングチーム	④⑱	松井 正一	チームヤングース	⑧⑰	森田 隆	スズカササキチーム
⑪	木山 賢悟	チームRSC	④⑲	築地三千盛	鈴鹿レーシングチーム	⑧⑱	伊藤 巧	T.S.Uレーシングチーム
⑫	上田 公次	チームRSC	④⑳	富江 昭孝	アキレーシングチーム	⑧㉑	和歌山利宏	磐田レーシングファミリー
⑬	杉本五十洋	マックウェスタン	④㉑	平井 裕	アカマツレーシング	⑧㉒	黒田 寛	チームロードボーイズ
⑭	飯島 茂雄	狭山レーシングチーム	④㉒	榎本 勤	ウエグレーシングチーム	⑧㉓	伊藤 裕之	ブルーヘルメットMSC
⑮	飯田 浩之	明和RC	④㉓	石井 康夫	ワールドワイドMC	⑧㉔	太田 勇	鈴鹿レーシングチーム
⑯	石川 岩夫	チームIVY	④㉔	辻 司	オートルーキーRC	⑧㉕	宮前 和彦	チームヤングース
⑰	角谷 新二	ブルーヘルメットMSC	④㉕	藤本 進	月木レーシングチーム	⑧㉖	三原 嗣厚	チームハニービー
⑱	(上野真一)		④㉖	杉野 順三	浜寺レーシングC	⑧㉗	草間 郁夫	個人
⑲	外谷 悦男	浜松エスカルゴRT	④㉗	渡辺 靖夫	明和RC	⑧㉘	今井 進	マックウェスタン
⑳	長谷 利之	月木レーシングチーム	④㉘	芳賀 信二	ダブルイーグルC	⑧㉙	石出 和之	チームIVTY
㉑	岩崎 勝	浜松チームタイタン	④㉙	平井 隆	野田ジュニアレーシングC	⑧㉚	西谷 裕司	個人
㉒	吉村 辰美	モリワキレーシング	④㉚	有馬 通正	鈴鹿レーシングチーム	⑧㉛	一の瀬憲明	鈴鹿レーシングチーム
㉓	水谷 勝	東海スポーツライダース	④㉛	森脇 謙	モリワキレーシング	100	阪本 裕介	ビートルレーシングチーム
㉔	若菜 博	チームフリー	④㉜	青木 辰己	個人	101		
㉕	糟野 雅治	フライングドルフィン	④㉜	相沢 清	ブルーヘルメットMSC	102		
㉖	木下 恵司	ブレイムイトレーシングチーム	④㉝	酒井 克	ウエグレーシングチーム	103		
㉗	川上 浩	明和RC	④㉞	南口 俊彦	チームヤングース	104		
㉘	岸本 悟	マックウェスタン	④㉟	小島 英俊	鈴鹿レーシングチーム	105		
㉙	高橋 良夫	オートルーキーRC	④㊱	松本 文宏	マックウェスタン	106		
㊱	大塚 茂春	チームロードボーイズ	④㊱	五味潤安彦	チーム荘	107		
㊱	山名 久	浜松チームタイタン	④㊱	山川 守	個人	108		
㊱	真田 哲道	チームワークス永楽	④㊱	浅見 敏夫	ブルーヘルメットMSC	109		
㊱	佐藤 順造	ブレイムイトレーシングチーム	④㊱	柳川 利明	明和RC	110		
㊱	榎本 健	フライングドルフィン	④㊱	山田 正典	結城レーシングチーム	111		
㊱	森田 泰男	ビートルレーシングチーム	④㊱	張間 利治	プレストレーシング	112		
㊱	江崎 正	チームカナヤ	④㊱	山本 篤美	チームヤングース	113		
㊱	荘 利光	チーム荘	④㊱	斉藤 三夫	結城レーシングチーム	114		

※ロードレース、モトクロス、トライアルその他のモーターサイクルスポーツにおいてMFJが認めない競技会に参加しますとライセンスが停止されます。ご注意ください。

'79モトクロス・ゼッケンナンバー

国際A級部門

No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名
①	光安 鉄美	福岡ブレイメイト	⑬	川崎 利広	浜松スクランブル	⑳	松本 満男	瀬戸レーシングチーム
②	瀬尾 勝彦	エキスプレスMCC	⑭	立脇三樹夫	米子レーシングクラブ	㉑	袴田 利明	中部SSC
③	杉尾 良文	杉尾レーシングチーム	⑮	末永 初弘	末永レーシング	㉒	河内 賢三	福岡ブレイメイト
④	藤 秀信	福岡ブレイメイト	⑯	市川 哲也	ブルーヘルメットMSC	㉓	岸川 清秀	シャドウレーシングチーム
⑤	内藤 勝司	中部SSC	⑰	佐藤 健二	千里スポーツクラブ	㉔	佐々木 隆	大阪チームブルーイグルス
⑥	橋本 敏夫	うず潮レーシングチーム	⑱	村上 光則	モトスポーツメイト	㉕	月岡 尚人	長野ベストライダーズ
⑦	大関 昌典	福岡ブルーエンゼル	⑲	吉村 太一	マウンテンライダーズ	㉖	菅野 俊彦	東北スーパースポーツ
⑧	鈴木 秀明	遠州ライダーズ	⑳	吉原 朋正	トモレーシングチーム	㉗	小野 明	スピードファイン群馬
⑨	竹沢 正治	個人	㉑	星野 春男	城北ライダーズ	㉘	伊田井佐夫	東希和レーシングチーム
⑩	東福寺保雄	スポーツライダーズ	㉒	佐藤 和夫	ブルーヘルメットMSC	㉙	奥村 勝昭	中部スポーツライダーズ
⑪	野宮 修一	大関	㉓	大泉 浩一	チームスピリット	㉚	山本 秀人	遠州ライダーズ
⑫	廣沢栄三郎	遠州ライダーズ	㉔	白戸 寛	個人			
⑬	渡辺 明	個人	㉕	青山 金助	函館カトウレーシング			
⑭	的場 平	チームRSC	㉖	星野 正博	遠州ライダーズ			
⑮	小田桐昭康	個人	㉗	佐々木健司	個人			

国際B級部門

No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名
①	渡辺 秀孝	レーシングチーム炎	⑧	大塚 保	イシイレーシング	⑰	手島 寅夫	福岡ブレイメイト
②	原口 衛	チュッカーズ	⑨	高野 洋一	中部SSC	⑱	藤本 三郎	クハシレーシング
③	秋本 春夫	浜松ランモアレレーシング	⑩	瀬戸 康一	YRTN	⑲	能智 三奈	レーシングチーム淀川
④	大賀 広美	チームNSTY	⑪	佐藤 敏和	杉尾レーシングチーム	⑳	馬淵 正利	遠州ライダーズ
⑤	野口 忠男	エンゼルス関東	⑫	星 紀夫	ブルーヘルメットMSC	㉑	福田 敬治	YRTN
⑥	高田 寛	ナチュラルライダーズ	⑬	佐藤 浩一	中部SSC	㉒	松下 雅明	阿波レーシング

'79トリアル国際A級ゼッケンナンバー

No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名
1	近藤 博志	チームRSC	16	鈴木 章平	個人	31	成田 省造	CRTC
2	丸山 胤保	チームカントリーライダーズ	17	近藤 充	トリアルライダーズ	32	田中 義歌	QQSC
3	加藤 文博	TEAMKATO	18	木下 良治	金沢城北トリアルC	33	稲田 武	ブルーヘルメットMSC
4	服部 聖輝	モトスポーツメイト	19	南堅 年明	チームアップダウン	34	玉田 幹雄	山本レーシングチーム
5	黒山 一郎	チームナグラ	20	名倉 直	チームナグラ	35	大崎 一郎	上州トリアルクラブ
6	小谷 重夫	森トリアルチーム	21	中島 宏明	名古屋トリアルクラブ	36	北村 義孝	金沢城北トリアルC
7	畑山 和裕	大月レーシングチーム	22	向井 友一	TRCN	37	野口 穰	トリアルライダーズ札幌
8	山本 昌也	チームアップダウン	23	荒生 和人	酒田トリスターズ	38	今野 久男	山本レーシングチーム
9	平野 博	続まむしの兄弟MC	24	三谷 正次	続まむしの兄弟MC	39	川崎 和寛	ブルーヘルメットMSC
10	伊藤 教志	チームナグラ	25	斉藤 茂憲	斉藤レーシングチーム	40	土屋 進	東北ライダーズ矢吹
11	植田 悟	チームアップダウン	26	遠藤 典夫	東北ライダーズ矢吹	41	尾形 輝彦	トリアルライダーズ
12	町田 晴男	トリアルライダーズ	27	森 彦二郎	森トリアルチーム	42	板橋 康行	個人
13	木村 治男	トリアルライダーズ	28	渡辺 裕司	続まむしの兄弟MC	43	押山 義弘	東北ライダーズ矢吹
14	轟沢 松栄	名古屋トリアルクラブ	29	万沢 康夫	CRTC	44	沖野 良勝	金沢城北トリアルC
15	金田 耕一	金沢城北トリアルC	30	松本 忠	兵庫テクニカルスポーツ	45	森下 勝	続まむしの兄弟MC

No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名	No.	ライダー名	クラブ名
46	穴田 浩	金沢城北トライアルC	95	河野 完次	岡山トライアルメイツ	144	松藤 研	JRC札幌
47	陣内 英幸	チームカントリーライダーズ	96	内野 徳助	八女トライアルクラブ	145	伊藤 聖春	チーム中川
48	川辺 優明	トライアルクラブ三重	97	吉浦 賢治	チーム奎星	146	安田 孝人	ドングリトライアルクラブ
49	内田 昭	続まむしの兄弟MC	98	河辺 達	個人	147	米沢 誠司	盛岡セフティクラブ不來坊
50	上原 保男	個人	99	酒井 一男	JRC札幌	148	成田 国彦	青森オートクレージー
51	日高 之夫	チームセクション	100	中野 武	レッドアローレーシング	149	高橋 正明	福島トライアルチーム
52	森 至布	森トライアルチーム	101	斉藤 仁志	弁慶トライアルクラブ	150	高橋 弘道	チームみどりや酒店
53	藤本 弘司	チームサファリ	102	阿部 哲夫	トライアルライダーズ	151	深田 強	平塚トライアルC
54	荒川 金雄	佐世保トライアルチーム	103	吉田 政造	盛岡セフティクラス不來坊	152	堀川 一浩	長野MAINTRIALS
55	沖根 吉貴	リンクス&ピエロ	104	佐藤 友一	古川トライアルスポーツ	153	高橋 正則	小出サンフラワー
56	原田 茂樹	広島ドンガメクラブ	105	森 正之	河村レーシングSS	154	藤井 康男	チームカントリーライダーズ
57	倉田 正春	続まむしの兄弟MC	106	橋口 重明	倶楽部誤転	155	加藤 伸二	チームカントリーライダーズ
58	井原 修	チームサファリ	107	佐伯 秀則	チームサファリ	156	富田 英一	トライアルクラブ三重
59	木村 茂	チームエスコリアル	108	築島 一典	個人	157	山田 保夫	名古屋トライアルクラブ
60	本間 清隆	トライアルライダー札幌	109	八星 均	個人	158	森本 賢次	チームナグラ
61	宮下 誠	九州トライアルクラブ	110	竹原 孝男	河村レーシングSS	159	田中 隆男	河北TR
62	引地 徹	セブンスターズ	111	佐藤 好和	北トラファクトリー	160	松浦外英雄	金沢城北トライアルC
63	村井 義治	和歌山トライアルクラブ	112	片岸 利男	北トラファクトリー	161	坂谷 国雄	金沢城北トライアルC
64	荻沢 文雄	名古屋トライアルクラブ	113	米倉 征三	個人	162	藤岡 利宏	倶楽部誤転
65	山田 乙三	山本レーシングチーム	114	大月 信和	大月レーシングチーム	163	辻 正義	和歌山トライアルクラブ
66	小笠原 治	富士トライアルクラブ	115	橋田 忠博	フライングドルフィン	164	淵田 弘	個人
67	武村喜美男	個人	116	山本 隆	山本レーシングチーム	165	中内 茂樹	斉藤レーシングチーム
68	市川 俊夫	金沢城北トライアルC	117	川井 毅	チームカントリーライダーズ	166	興那 康英	トヤマアイベックス
69	上甲 芳邦	チームサファリ	118	山田 民雄	チームカントリーライダーズ	167	桑原 勲	個人
70	国常 忠宏	チームカワタケ	119	井上 一彦	個人	168	西本 恵啓	広島ドンガメクラブ
71	川崎 正信	093トライアルクラブ	120	米沢 満夫	秩父WET	169	町田 睦	チームサファリ
72	飯藤 一弘	個人	121	城前 健二	個人	170	山口 輝寿	個人
73	小林 邦義	個人	122	村越 文好	秩父WET	171	青池 武	個人
74	朝比奈久男	チームカワタケ	123	山口 滋	グウンタウンライダーズ	172	小俣 一義	チームバルビゾン
75	瀬尾 和孝	リンクス&ピエロ	124	石橋 正明	トム&ジュリーMC			
76	松岡 信明	レッドアローレーシング	125	田中 光夫	山本レーシングチーム			
77	三木 健嗣	個人	126	山田 裕二	TEAM NOM			
78	時森 二郎	個人	127	飯田 修	個人			
79	中村 広二	個人	128	中山 義国	大村ライダーズC			
80	池原 勝則	東北ライダーズ矢吹	129	岩谷 学	豊橋モンスター			
81	伊藤 修	名古屋トライアルクラブ	130	田中伸多郎	チームみどりや酒店			
82	山田 和雄	浜松エスカルゴRT	131	香西 定幸	個人			
83	菊地 教一	個人	132	石垣 倫啓	チーム南大阪トライアル			
84	吉川富美男	フライングドルフィン	133	橋口 俊昭	佐世保トライアルクラブ			
85	泉 正信	チームサファリ	134	白木 英一	個人			
86	小林 裕悦	個人	135	大庭 章	チームナグラ			
87	青木 憲造	チームアップダウン	136	別所 正義	トライアルクラブ三重			
88	近藤 久生	トライアルクラブバルビゾン	137	西牟田 誠	名古屋トライアルクラブ			
89	上甲 俊行	チームサファリ	138	佐藤 宏悦	古川トライアルスポーツ			
90	菅 幸三	ヨコハマトライアルメイツ	139	薄木 勝良	酒田ドライスターズ			
91	樋口 宏幸	チームたごさく	140	芦尾 一登	広島ドンガメクラブ			
92	新井 利信	秩父WET	141	土井長 一	かめの子会			
93	川竹 健二	チームカワタケ	142	高田 満	レッドアローレーシング			
94	土本 立春	個人	143	大浦 俊秋	北トラファクトリー			

全日本選手権ランキング順位決定の方法

- (1) ヒート数の過半数の最少整数回数の得点の和の最も大なるものから順位を決定する。但し、30点未満の者はチャンピオンとはせずランキング2位となる。
- (2) (1)で同点となった場合、上位入賞回数が多いものが上位となる。
- (3) (2)で決定できない場合、同一クラスの総計順位で決定する。
- (4) (3)で決定できない場合は、その他のクラスのレースの成績を加える。
- (5) (4)で決定できない場合、前年度のランキングによって決定する。但し、ランキング同位の場合は排気量の大きいクラスを優先する。
- (6) 以上で決定できない場合は資格審査委員会にて最終決定する。

保 険 制 度

種 目	ライダー掛金 (1名1大会)	ピット要員掛金 (1名1大会)	支 払 条 件			保険適用
			最高限度額 (死亡、不具廃疾)	医療保険支払額	支払期間 適用期間	
ロードレース	2000円 (1口目) (但し10口まで 掛けられる 2口目より 1口1350円)	300円	150万円 (1口目) (但し2口以上 10口まで 1口につき 50万円)	1日1000円× 全治日数(1口目) 但し2口以上10口 まで1口につき500円 ◎10口の人は1日 に付5500円	6ヶ月(180日) 大会当日のレース中 (公式練習含む) (公式子選)	MFJ指定 保険及びMFJ 役員・選手 共済組合併用
	保険金請求 についての 必要書類事項	①保険金請求書(指定) ②傷害の程度を証明する医師の診断書(指定) ③全治したときの医師の治療証明書(指定) ④サーキットの事故証明書				
B ライ セン ス 対 象 種 目	サーキットにおける プロダクション ミニバイクレース	1000円	300円	150万円	6ヶ月(180日) 大会当日のレース中 (公式練習含む) (公式子選)	MFJ役員・選手 共済組合併用
	ミニモトクロス 雪上車、エンデューロ その他オンロード 車による競技会	300円		300万円		
	モトクロス	600円		300万円		
	トライアル	200円		300万円		
B ライ セン ス モ ト ク ロ ス ト ライ ア ル	保険金請求について の必要書類	①MFJ指定請求書でMFJ事務局へ請求すること ②MFJ指定請求書 { 1.傷害の程度を証明する医師の診断書 2.主催者の事故証明				

①ロードレースライダー以外は保険料は1口に限られます。

②同一大会で2種目以上出場する場合は保険料の高い種目が適用されます。

③上記保険は治療費は支払われませんので各自の健康保険証で治療を受けて下さい。

M F J 公認ヘルメット



株式会社新井広武 〒330 埼玉県大宮市東町2-12
☎0486-41-3825



RX-7

- スネル規格
- U.S.A.Z90-1
- カラー/白
- サイズ/A、B



RX-1

- スネル規格
- U.S.A.Z90
- カラー/白、オレンジ
- サイズ/A、B



RS-Z

- U.S.A.Z90-1
- カラー/白、オレンジ
パールブラック
- サイズ/A、B



TX-7

- JIS規格1種
- カラー/白、オレンジ
- サイズ/A、B



TX-1DX

- JIS規格1種
- カラー/白、オレンジ
- サイズ/A、B



R-7G

- スネル規格
- U.S.A.Z90-1
- カラー/白、パール
ブラック
- サイズ/A、B



S-70

- スネル規格
- カラー/白、パール
- サイズ/A、B



RS-10

- JIS規格1種
- カラー/白、パール
ブラック、キャンデー
(橙、青緑、金)
- サイズ/A、B



R-10

- JIS規格1種
- カラー/白黒
メタリックブルー
- サイズ/A、B



TL-8

(婦人用)

- JIS規格1種
- カラー/白、オレンジ
ブルー



MFJ公認ヘルメット

株式会社コミネオートセンター 〒110 東京都台東区台東4-31-6
☎03-833-2471



FUJI-ワイド120

- カラー=白、橙
- サイズ=S・M・L・LL



FUJI-500

- カラー=オレンジ、ホワイト
ツヤ消黒
- サイズ=S・M・L・LL



FUJI-800 II

- カラー=ホワイト、ブルー、グリーン、レッド各ライン
- サイズ=S・M・L・LL・FRP製
- 高級牛皮使用



RT=200

- カラー=白、橙
- サイズ=S・M・L・LL



RT=201

- カラー=白、橙
- サイズ=S・M・L・LL
- 開閉式聴孔装置付

MFJ-APPROVED HELMET



マルシン工業株式会社 〒124 東京都葛飾区四ツ木五丁目9-6
☎03-693-5791

インディー500

- JIS規格2種
- MFJ公認
- カラー/ブラック・イエロー
- 皮革内装
- 全夜光デザイン

¥20,000



DX-D

- JIS規格2種
- USAIZ90.1
- MFJ公認
- カラー/白・オレンジ・黒
- 夜光性ランデデザイン

¥15,000



DX-D7

- JIS規格1種
- MFJ公認
- カラー/ホワイト・オレンジ
ブラック
- 夜光デザイン
- AR超硬度シールド装置

¥12,800



DX-D3

- JIS規格1種
- MFJ公認
- カラー/ブルーライン・
オレンジライン
- 夜光シルバーライン入り

¥13,000



M-500 JIS規格2種 MFJ公認 USAI Z-90-1
(白・オレンジ・キャンデールブルー・
キャンデールゴールド) ¥13,500



DX-D6 AR JIS規格2種 USAI Z-90-1 MFJ公認
(ホワイト・オレンジ・シルバー・ブラック) 夜光デザイン
AR超硬度シールド装置 ¥14,800



M-52 JIS規格2種 USAI Z-90-1 MFJ公認
(白・オレンジ・シルバー・
ブルー・クロ) ¥9,400



M-450 JIS規格2種 USAI Z-90-1 MFJ公認
(白・オレンジ・銀)
ベルトタイプ(アゴ巾85mm) ¥11,500



M-350 JIS規格1種 MFJ公認
(白・オレンジ・ライムグリーン) ¥10,200



M-38 JIS規格2種 USAI Z-90-1 MFJ公認
(白・キャンディオレンジ・クロ・キャンディ
ブルー) ¥8,800



M-280 JIS規格1種 MFJ公認
(白・オレンジ)
バイザー付回転脱着可 ¥10,500



M-250 JIS規格1種 MFJ公認
(白・オレンジ) ¥9,400



M-130 JIS規格1種 MFJ公認
(白) アメリカンポリス ¥5,800



MFJ公認ヘルメット

製造元 日栄プラスチック株式会社 〒143 東京都大田区大森西1丁目8番3号 販売 ヤマハ発動機(株)部品部
☎03-762-2421



DX-700

●カラー/ホワイト



CX-320

●カラー/白



CX-500

●カラー/白、赤、青



CX-300P

●カラー/キャンディ
ーイエロー、キャン
ディーグリーン、キ
ャンディーオレンジ、
キャンディーレッド



FS-100

●カラー/白、オレン
ジ、緑、黄
●サイズ/S.M.L.XL



CX-300

●カラー/白、赤、青



FF-100

●カラー/白、緑
C/T、赤、青
●サイズ/S.M.L.XL



CS-500

●カラー/白、オレン
ジ、緑、黄
●サイズ/S.M.L.XL

MFJ-APPROVED HELMET



昭栄化工株式会社 〒105 東京都港区新橋 2-9-2 鎌田ビル
☎03-502-0301



ニユ-GV

- JIS規格 2種
- カラー/ホワイト、ブルー、ブラック、キャンデーゴールド、オレンジ
- サイズ/S.M.L.XL



SR-X7

- JIS規格 2種
- カラー/ホワイト、シルバー、オレンジ
- サイズ/S.M.L.XL



SR-X

- JIS規格 2種
- スネル規格 1975.300G
- カラー/ホワイト
- サイズ/S.M.L.XL



ST-Z

- JIS規格 2種
- アメリカ規格ANSI Z90-1(1971)
- カラー/ホワイト、オレンジ、ブラック、グリーン、ゴールド
- サイズ/S.M.L.XL



ZG

- スネル規格 1975.300G
- カラー/ホワイト、シルバー、レッド、ブルー
- サイズ/S.M.L.XL



ZX

- スネル規格 1975.300G
- カラー/ホワイト
- サイズ/S.M.L.XL



ZV

- スネル規格 1975.300G
- カラー/ホワイト、シルバー、レッド、ブルー
- サイズ/S.M.L.XL



H-1

- JIS規格 2種
- カラー/マースオレンジ、キャンデーゴールド、セラミックホワイト
- サイズ/S.M.L.



RC-1

- JIS規格 2種
- アメリカ規格ANSI Z90-1(1971)
- カラー/セラミックホワイト、マースオレンジ、インターナショナルオレンジ、ブルーターコイズ
- サイズ/S.M.L.XL

たくましい男のドラマをつくる、タフなMXゴーグル。

キズのつきにくい、超硬ペトロイドレンズ

★Pのシンボルマークが目印です



モトクロス・レーサー
鈴木 都良夫



714MX PETROIDY 3,000

おなじみ
スワンス

スワンスのゴーグルは、前から愛用していたが今回、新発売されたペトロイド・ゴーグルは最高だ。特にヨーロッパの石ころの多いコースでは、その安全性は信頼がおける。

もう、これから世界のモトクロスレーサーにとって、スワンス・ペトロイドは欠かせないゴーグルになるだろう。

ペトロイド・ゴーグルとレーシングパーツの入ったハードケースを持って、今年も世界GPを転戦します。ご期待下さい。



NOWなセンスで便利なRACING KIT

★レーシングキットセット¥6,500 ●レーシングボックス¥900 ●アミスト(くもり止めスプレー)¥700 ●カバーレンズ¥200 ●クロス布¥500 ●714MX・PETROIDゴーグル¥3,000 ●スペアールレンズ¥800

●714MX・PETROID・GOGGLES

スワンス714MXペトロイドゴーグルは、オートバイゴーグルとして、交通安全に最適なゴーグルであると全日本交通安全協会より、ご推奨いただいています。レンズはプラスチックの中でも特性に優れているポリカーボネート樹脂をベースに、弊社独自の表面処理加工を施したことにより、キズや衝撃に強く、視界を守りセーフティドライブをお約束します。

SWANS

RACING PARTSは別売いたします

山本防産眼鏡株式会社・〒577・東大阪市長堂2-17・スポーツオート用品部・TEL(06)783-6282

★資料ご希望の方は左記の宛先までお申込み下さい。

資料請求
カード

資料請求
カード

New Z750FX

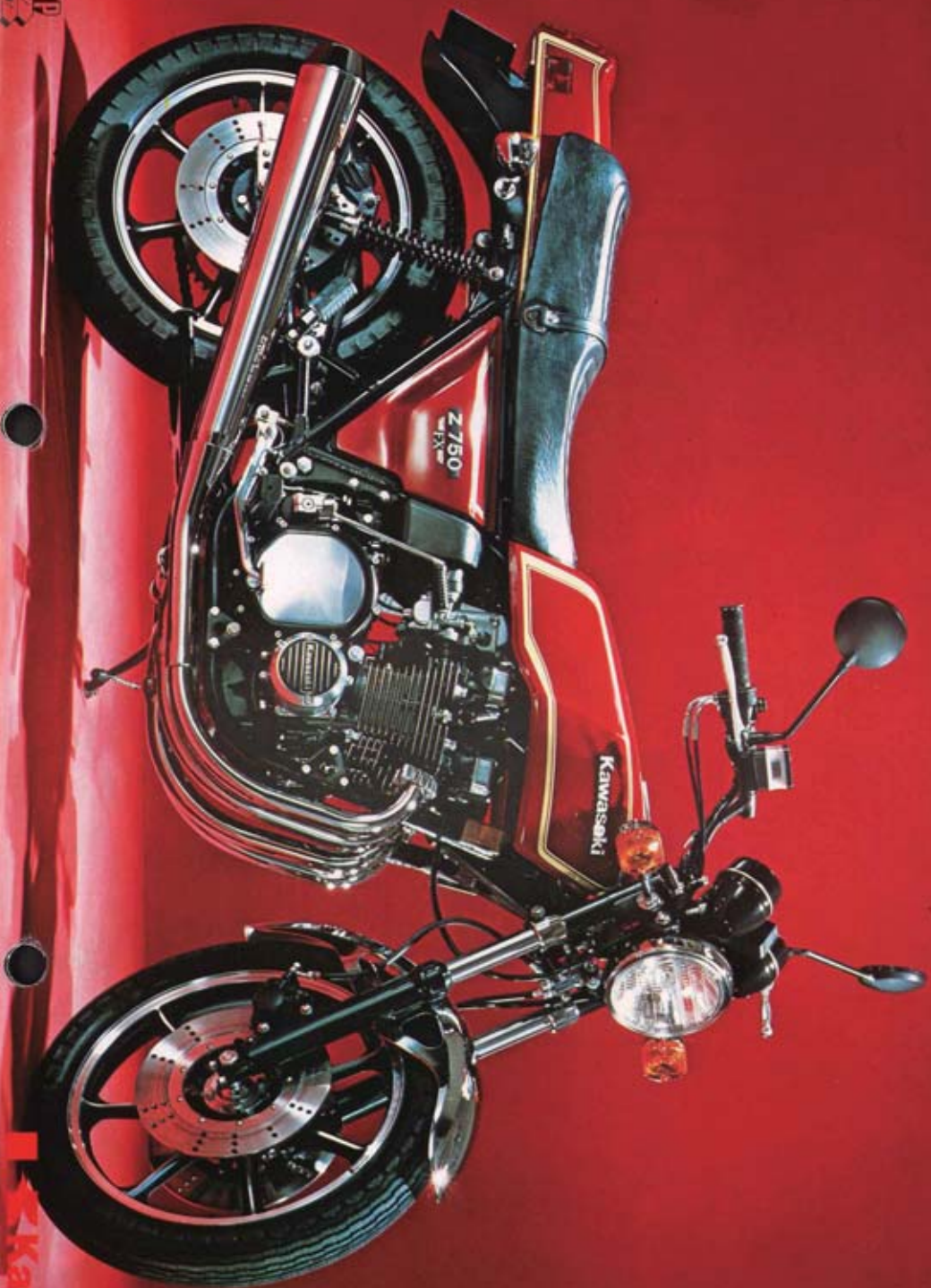
●4年保証・4バルブDOHCエンジン ●74cc ●最高出力70ps/9,000rpm ●最大トルク5.7kg-m/8,500rpm ●5速の9スピード・機械式シフト変速機構 ●166mm径ディスクブレーキ ●制動距離11m(50km/h) ●空車重量248kg ●カラー・パールメタリックブルー・ブルー・レッド・ブラック ●標準全長1,915mm

スーパーセンターなフライト感覚

モーターサイクルの枠を超えたスーパーセンターなモーター——Z750FX。軽やかな4バルブDOHC4気筒エンジンの重厚感とヨーロッパの車線な曲線が、

キヤスホールのゆきとともに新しい選形美を併り出しています。

さらに「新設計リアスイングアーム」(オートマカチエンジンシャフト)などカワサキの技術の粋を全身に凝縮——「フライト感覚」をも呼べるダイナミックな走りを完成させています。場です。



SAFETY UP
SAFETY CONCEPT
SAFETY SYSTEM

Kawasaki

YZ

250 125 80

数々の新機軸。'79モデル・YZシリーズ



YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社 〒438 静岡県磐田市新貝2500 TEL.0538327111 資料ご希望の方は資料名・住所・氏名・年齢・職業・ご覧になった雑誌名をご記入の上、郵便切手150円を添えてPR課までお送り下さい。

MOBILITY PLAZA
KOMINE

それは期待以上の手応えだった。

オートバイ好きの女性が増えた。
WBは男だけのものではない、と
ある女はいうた。
ぐっどくる重さ、光沢のやさしさ、
そしてどんなになか、年月が過ぎ
ようともその柔らかさを失わない風
格のジャンパー。
"WBは男だけのもの"
その神話はくずれたのか？

WB JUMPER

- M ¥ 38,000 ●L ¥ 38,800
 - LL ¥ 39,200 ●3L ¥ 40,700
- アルファレイン
- M ¥ 53,200 ●L ¥ 53,800
 - LL ¥ 54,400 ●3L ¥ 55,400

水を通さない皮革
ALFARAIN

アルファレインは25年以上の経験と技術で、
水を通さない、耐水性の優れた製品です。
●耐入射がされている●クリーニングができません
●かさを入れない●汚れを吸収しない●色落ちがない
●撥水剤を定期的に塗り直す必要あり

※ コミネオートセンター ●東京都台東区小島2-18-18 千111 TEL 代表 (03) 862-9811
●東京御徒町 ●多摩営業所 ●相模原営業所 ●川崎営業所 ●藤沢営業所 ●小田原営業所 ●久喜営業所 ●東松山営業所 ●埼玉谷営業所 ●習志野営業所 ●千葉営業所 ●柏営業所
●小山営業所 ●高崎営業所 ●大田営業所 ●土浦 ●水戸 ●日立 ●一宮 ●鹿行 ●春日井

